

大学院保健科学研究院・
大学院保健科学院(医学部保健学科)

年 報

平成30年4月



平成31年3月

目次

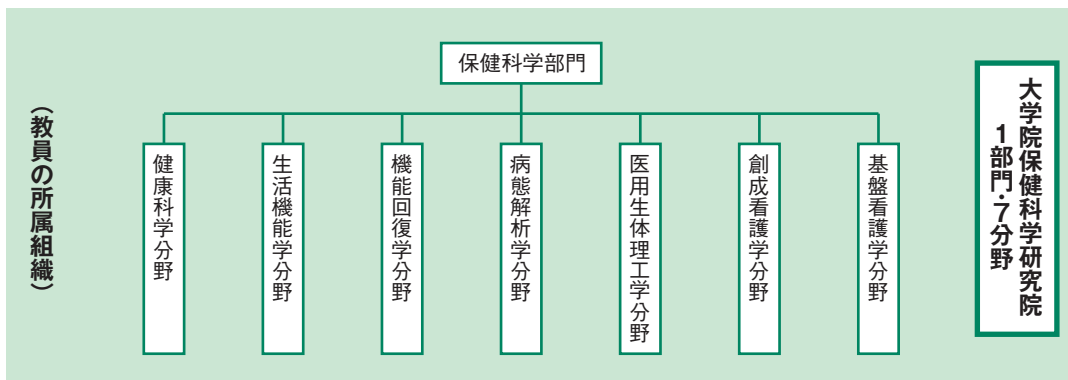
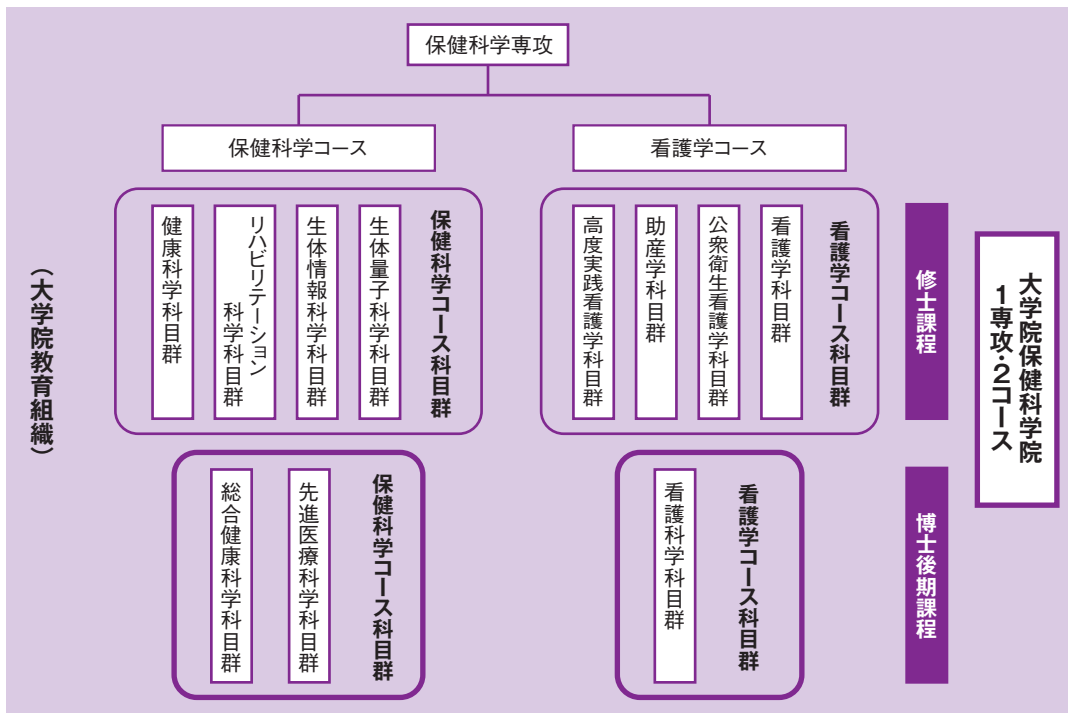
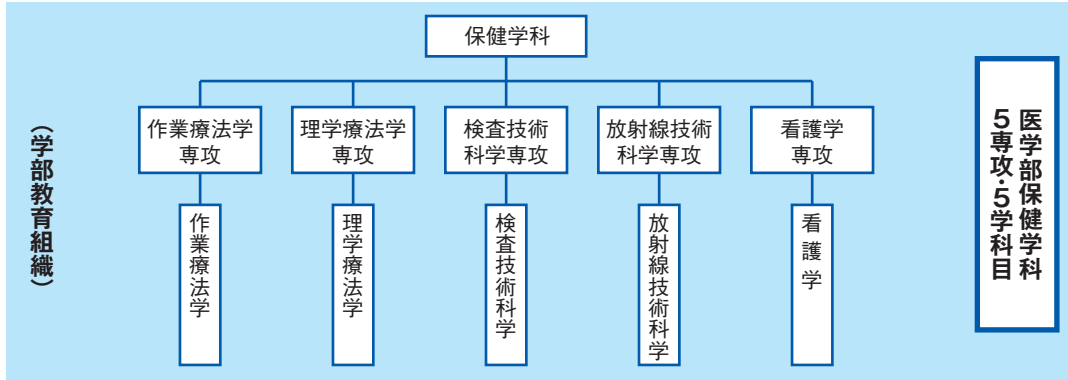
I. 沿革	2
II. 組織	3
III. 管理運営体制	4
IV. 役職員・教職員一覧	
i 役職員・教職員一覧	5
ii 主な研究内容	7
V. 研究活動	
i 業績一覧	13
ii 外部資金等の獲得及び受入状況	81
VI. 教育活動	
i 大学院担当教員一覧	89
ii 保健科学院卒業研究課題一覧	95
iii 保健科学院・医学部保健学科FD研修開催状況	99
iv 保健科学セミナー開催状況	100
v 保健科学院-M.B.A Double Degree	101
vi 保健科学院合同シンポジウム開催状況	103
VII. 社会貢献	
i 公開講座開催状況	104
VIII. 顕彰及び研究助成制度	
i 顕彰制度	105
ii 研究助成制度	106
IX. 中央研究室の活動報告	
i 活動報告書	111
X. 第三期中期目標・中期計画	113

I. 沿革

- 平成15年10月1日
北海道大学医学部保健学科(看護学専攻,放射線技術科学専攻,検査技術科学専攻,理学療法学専攻,作業療法学専攻)設置
- 平成16年4月1日
医学部保健学科第1期生入学
- 平成20年4月1日
北海道大学大学院保健科学研究院(基盤看護学分野,創成看護学分野,医用生体理工学分野,病態解析学分野,機能回復学分野,生活機能学分野)・大学院保健科学院保健科学専攻修士課程(保健科学コース,看護学コース)設置・第1期生入学
- 平成21年4月1日
大学院保健科学研究院に寄附分野「脳機能画像学分野」設置
- 平成22年1月1日
大学院保健科学研究院に寄附分野「食品機能解析・保健栄養学(渡辺オイスター)分野」設置
- 平成22年4月1日
大学院保健科学院保健科学専攻博士後期課程(保健科学コース,看護学コース)設置・第1期生入学
- 平成22年9月17日
大学院保健科学院博士後期課程設置記念講演会・記念式典・祝賀会举行
- 平成23年4月1日
北海道大学大学院保健科学研究院(健康科学分野)設置
- 平成23年5月1日
大学院保健科学研究院に寄附分野「北斗関節機能障害予防学分野」設置
- 平成23年10月1日
大学院保健科学研究院に健康イノベーションセンター(高度脂質分析ラボラトリー部門,ヘルスネットワークシステム部門)設置
- 平成24年3月31日
大学院保健科学研究院の寄附分野「脳機能画像学分野」終了
- 平成24年4月1日
大学院保健科学研究院に保健医療教育研究センター(継続教育開発研究部門,教育改革研究部門)設置
- 平成25年4月1日
大学院保健科学研究院に健康イノベーションセンター(生体分子・機能イメージング部門)設置
大学院保健科学院(先進医療科学科目群)に連携分野「重粒子医科学分野」設置
- 平成26年3月28日
大学院保健科学研究院研究棟E棟竣工
- 平成26年4月30日
大学院保健科学研究院の寄附分野「北斗関節機能障害予防学分野」終了
- 平成28年9月1日
大学院保健科学研究院に寄附分野「生体応答制御医学分野」設置
- 平成30年1月1日
大学院保健科学研究院に保健医療教育研究センター(病院経営教育プログラム開発部門)設置

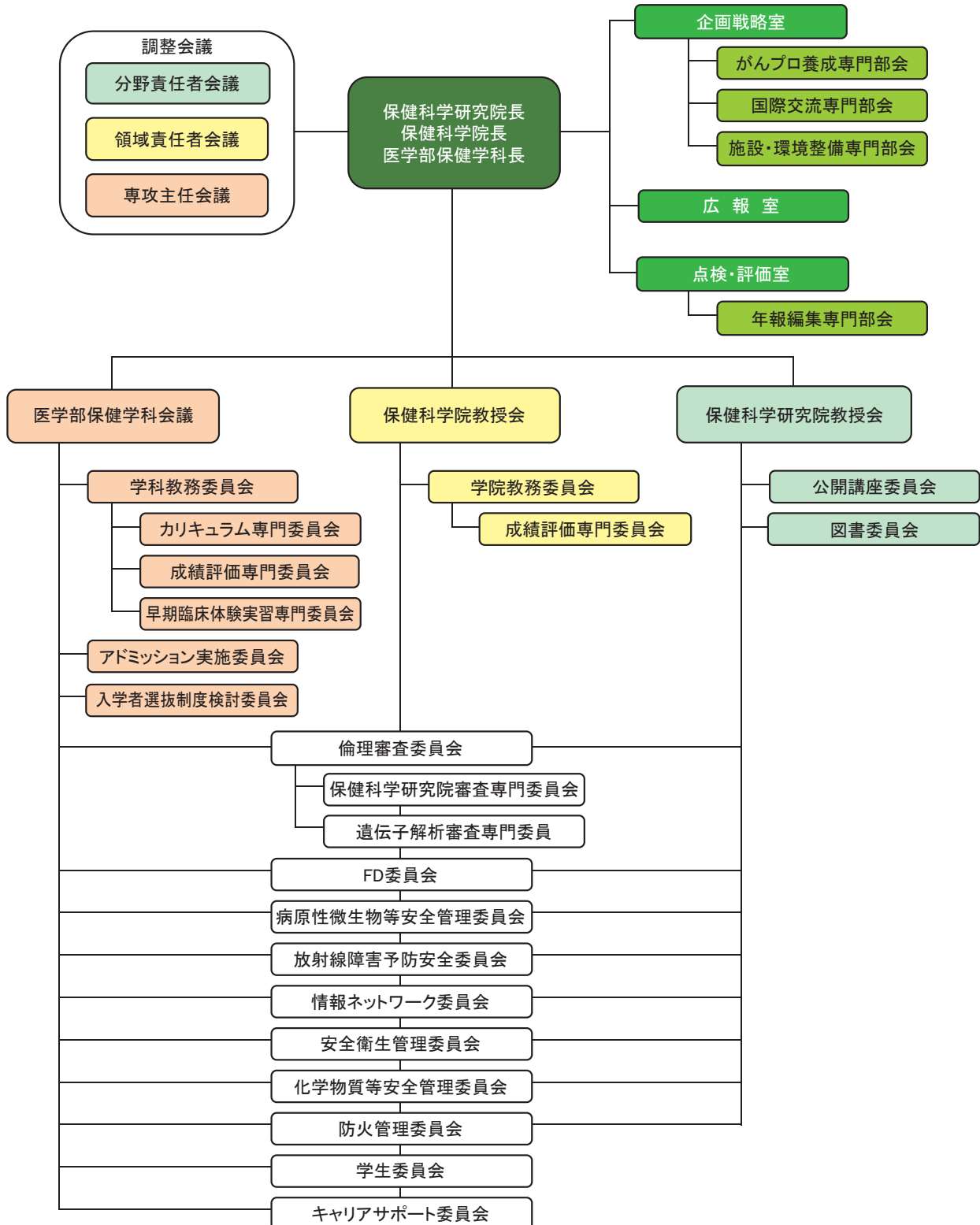
Ⅱ. 組 織

大学院保健科学研究院・大学院保健科学院・医学部保健学科



Ⅲ. 管理運営体制

平成 30 年 5 月 1 日現在



IV. 役職員・教職員一覧

i 役職員・教職員一覧

平成 31 年 3 月 1 日現在

1. 役職員

保健科学研究院長・保健科学院長・医学部保健学科長
保健科学研究院 副研究院長
保健科学院 副学院長

齋藤 健
遠山 晴一
小笠原克彦

保健科学研究院 研究院長補佐
保健科学研究院 研究院長補佐
保健科学院 学院長補佐

惠 淑萍
尾崎 倫孝
山口 博之

2. 教職員一覧

分野等の名称	教授	准教授	講師	助教	特任教員
研究院長付				WAGEH SOBHY DARWISH THAPA JEEWAN SHRESTHA ROJEET 鏡山 浩美 何 欣蓉	
基盤看護学分野	◎ 結城美智子 尾崎 倫孝 矢野 理香	宮島 直子 大槻 美佳 岩本 幹子 鷲見 尚己	溝部 佳代 佐藤 三穂	浅野 真未 吉田 祐子 村田 恵理 下田 智子 平山 憲吾	
創成看護学分野	◎ 佐藤 洋子	野口眞貴子 安積 陽子 平野美千代	青柳 道子	進藤ゆかり 水野 芳子 コリー紀代 高橋 紀子 中村 真弥 大西 竜太	佐川 正
医用生体理工学分野	◎ 山本 徹 加藤千恵次 伊達 広行 神島 保 石川 正純		杉森 博行	堤 香織 山品 博子 高木 聡志 唐 明輝	
病態解析学分野	◎ 山口 博之 惠 淑萍 石津 明洋	政氏 伸夫 加賀 早苗	櫻井 俊宏 大久保寅彦	岡田 一範 益田紗季子	
機能回復学分野	◎ 浅賀 忠義 遠山 晴一 前島 洋	寒川 美奈		笠原 敏史 萬井 太規 石田 知也 高松 泰行	
生活機能学分野	◎ 村田 和香 境 信哉		澤村 大輔	井上 貴雄 高島 理沙 吉田 一生 宮島 真貴	井上 馨
健康科学分野	◎ 齋藤 健 横澤 宏一 小笠原克彦 山内 太郎 惠 淑萍 (兼務)	武田 晴治		陳 喬 喬 譚 震 琳 慧	
75 名	22 名	11 名	7 名	33 名	2 名

分野等の名称		教授	准教授	講師	助教	特任教員
食品機能解析・保健栄養学分野 (寄附分野)		恵 淑萍 (兼務)		◎ 櫻井 俊宏 (兼務)		◎ 千葉 仁志 (特別招へい)
						◎ 布田 博敏
生態応答制御医学分野 (寄附分野)		◎ 尾崎 倫孝 (兼務)				芳賀 早苗
健康 イノベーション センター	センター長					◎ 千葉 仁志 (兼務)
	高度脂質分析	◎ 恵 淑萍 (兼務)	武田 晴治 (兼務)	櫻井 俊宏 (兼務)	陳 震 (兼務) 喬 琳 (兼務) 譚 慧 (兼務) WAGEH SOBHY DARWISH (兼務) 何 欣蓉 (兼務)	
	遠隔健康相談	◎ 小笠原克彦 (兼務)				鈴木 哲平
	生体分子機能	◎ 尾崎 倫孝 (兼務)			浅野 真未 (兼務)	
保健医療教育研究 センター	センター長	◎ 小笠原克彦 (兼務)				
	継続教育開発 研究部門	◎ 結城美智子 (兼務)	野口眞貴子 (兼務)			
	教育改革 研究部門					
	病院経営教育 プログラム開発 部門	◎ 小笠原克彦 (兼務)				藤原 健祐
中央研究室	室長	◎ 尾崎 倫孝 (兼務)			神 繁樹 (兼務)	

※ ◎は分野責任者

IV. 役職員・教職員一覧

ii 主な研究内容

保健科学研究院教員の研究内容

基盤看護学分野

平成31年3月31日現在

職・氏名	主な研究内容
教授 結城美智子	高齢者の介護予防, リハビリテーション技術の開発, 高齢慢性疾患患者の重症化予防
教授 尾崎 倫孝	肝臓の病態生理, 生体ストレス, 光による生体イメージングに関する研究
教授 矢野 理香	看護技術の成果モデル開発, 熟練看護師の技の可視化と効果に関する研究
准教授 宮島 直子	精神看護技術の開発と効果に関する研究
准教授 大槻 美佳	高次脳機能障害(失語, 失行, 失認)の機能局在とメカニズムに関する研究
准教授 岩本 幹子	臨床における看護倫理の問題に関する研究
准教授 鷺見 尚己	在宅療養生活支援(がん, 慢性疾患, 移行ケア), がん教育に関する研究
講師 溝部 佳代	周術期における患者家族への看護に関する研究
講師 佐藤 三穂	慢性疾患を持つ人の療養支援
助教 浅野 真未	様々な細胞死の肝恒常性維持における役割に関する研究 糖尿病性網膜症の病態解析と予防に関する研究
助教 吉田 祐子	臨床看護師の労働環境と継続教育に関する研究
助教 下田 智子	食道癌患者の周術期栄養管理に関する研究
助教 平山 憲吾	化学療法を受けるがん患者の症状とQOLに関する研究
助教(研究院長付) 鏡山 浩美	交代制勤務看護師の睡眠と疲労に関する研究

IV. 役職員・教職員一覧

創成看護学分野

平成31年3月31日現在

職・氏名	主な研究内容
特任教授 佐川 正	助産師による超音波検査の国際比較
教授 佐藤 洋子	小児の自律性を支援する看護スキルの開発
准教授 野口眞貴子	助産モデルを組み込んだ妊産婦保健対策に関する研究
准教授 安積 陽子	乳幼児の睡眠覚醒リズムと育児ストレスに関する研究
准教授 平野美千代	地域で生活する高齢者への効果的な介護予防プログラムの開発 保健師の実践および教育に関する研究
講師 青柳 道子	がん患者と家族のコミュニケーションに関する研究 在宅療養, 訪問看護に関する研究
助教 進藤ゆかり	慢性疼痛を抱えた在宅療養者, 臨床試験患者に関する研究
助教 水野 芳子	地方居住者の健康管理に関する研究
助教 コリー紀代	プロジェクションマッピング技術を用いた気管内吸引シミュレーターの開発
助教 高橋 紀子	新生児集中治療室から在宅へ移行する患児家族に関する研究
助教 中村 真弥	授乳に伴う乳頭組織の変化過程に関する研究
助教 大西 竜太	デジタルネイティブ世代の親の育児への向き合い方に関する研究

医用生体理工学分野

平成31年3月31日現在

職・氏名	主な研究内容
教授 山本 徹	細胞内酸素動態を反映する MRI 撮像法の開発
教授 加藤千恵次	PET などの医用画像による病態の定量解析と人工知能解析
教授 伊達 広行	生体組織への放射線エネルギー付与解析と影響評価
教授 神島 保	関節リウマチ活動性・構造破壊評価
教授 石川 正純	放射線医学分野における新しい計測技術の開発
講師 杉森 博行	MRI を用いた非侵襲的血流イメージングに関する研究
助教 堤 香織	放射線照射を生き残る腫瘍細胞の細胞特性解析
助教 山品 博子	乳がん検診におけるモダリティ別有用性や運用方法の検討
助教 高木 聡志	医用画像処理を用いた新しい画像検査・診断法の開発
助教 唐 明輝	MR における大脳細動脈機能マッピング法の開発

IV. 役職員・教職員一覧

病態解析学分野

平成31年3月31日現在

職・氏名	主な研究内容
教授 山口 博之	細胞内寄生性難培養性細菌の生存戦略とその分子基盤に関する研究
教授 惠 淑萍	過酸化脂質, 脂肪酸およびプラズマローゲンに関する研究
教授 石津 明洋	血管炎の発症機序解明と新しい病態診断法および分子標的治療法の開発
准教授 政氏 伸夫	血球の計数および形態検査の定量化に関する研究
准教授 加賀 早苗	心エコーによる心不全の病態解析
講師 櫻井 俊宏	リポタンパク質代謝とその酸化に関する研究
講師 大久保寅彦	細菌と原生生物との微生物間相互作用に関する研究
助教 岡田 一範	スペックルトラッキング心エコー法による心筋機能評価
助教 益田紗季子	好中球細胞外トラップに関する研究
助教(研究院長付) THAPA JEEWAN	Elucidating growth dynamics of Chlamydia trachomatis in hypoxia
助教(研究院長付) SHRESTHA ROJEET	Study of lipid composition and its oxidative products in lipid droplets

機能回復学分野

平成31年3月31日現在

職・氏名	主な研究内容
教授 浅賀 忠義	姿勢制御と運動学習に関する研究
教授 遠山 晴一	スポーツ傷害と運動器疾患に関するリハビリテーション科学
教授 前島 洋	運動による高齢者のヘルスプロモーションに関する基礎研究
准教授 寒川 美奈	スポーツ傷害の発生予防と運動療法効果に関する研究
助教 笠原 敏史	加齢による運動制御の低下とその機序についての研究
助教 萬井 太規	立位姿勢制御メカニズムの解明および転倒予防プログラムの考案に関する研究
助教 石田 知也	スポーツ傷害と運動器疾患の予防とリハビリテーションに関する研究
助教 高松 泰行	中枢神経障害に対する理学療法の効果とその作用機序に関する研究

IV. 役職員・教職員一覧

生活機能学分野

平成31年3月31日現在

職・氏名	主な研究内容
特任教授 井上 馨	視覚機能障害改善への実験的研究
教授 村田 和香	高齢者に対する作業療法実践の効果研究
教授 境 信哉	脳障害による視覚障害のリハビリテーション
講師 澤村 大輔	高次脳機能障害に対するリハビリテーションの効果研究
助教 井上 貴雄	精神疾患の認知機能改善療法に関する研究, 児童・青年期の気分障害に関する研究
助教 高島 理沙	作業療法士の専門職アイデンティティおよび作業科学の実践への応用に関する研究
助教 吉田 一生	脳損傷後の認知機能障害に対するリハビリテーションに関する研究
助教 宮島 真貴	発達障害および物質関連障害のリハビリテーションに関する効果研究

健康科学分野

平成31年3月31日現在

職・氏名	主な研究内容
教授 齋藤 健	生命と環境, 疾病の予防, 健康創成
教授 横澤 宏一	脳磁計 (MEG) を用いた脳機能計測の研究
教授 小笠原克彦	医療情報学, 臨床経済学, 医療管理学
教授 山内 太郎	人類生態学, 国際保健学, 世界の子ども健康・安全・幸福
教授(兼) 恵 淑萍	過酸化脂質, 脂肪酸およびプラズマローゲンに関する研究
准教授 武田 晴治	脂質関連分子を物理化学的に評価する方法に関する研究
助教 陳 震	生理活性脂質定性及び定量分析, リピドミクス
助教 喬 琳	環境濃度のオゾンに酸化した脂質膜に関する研究
助教 譚 慧	食品から新規生理活性成分探索, 機能開発及び作用機構に関する研究
助教(研究院長付) WAGEH SOBHY DARWISH	食物中の化学残留物と人の健康リスク評価に関する研究, 機能性食品
助教(研究院長付) 何 欣蓉	腎臓内脂肪滴の形成がミトコンドリア障害への影響に関する研究

IV. 役職員・教職員一覧

食品機能解析・保健栄養学分野（渡辺オイスター）

平成31年3月31日現在

職・氏名	主な研究内容
センター長 特別招へい教授 千葉 仁志	脂質・リポ蛋白代謝, バイオセンサー, 質量分析, 機能性食品, バイオマーカー
特任教授 布田 博敏	カキによる非アルコール性脂肪肝炎 (NASH) の予防に関する研究
教授(兼) 恵 淑萍	過酸化脂質, 脂肪酸およびプラズマローゲンに関する研究
講師(兼) 櫻井 俊宏	リポタンパク質代謝とその酸化に関する研究

生体応答制御医学分野

平成31年3月31日現在

職・氏名	主な研究内容
教授(兼) 尾崎 倫孝	肝臓の病態生理, 生体ストレス, 光による生体イメージングに関する研究
特任講師 芳賀 早苗	ストレスと細胞の生存・死を制御する分子メカニズム解析に関する研究

健康イノベーションセンター

職・氏名	主な研究内容
センター長 特別招へい教授(兼) 千葉 仁志	脂質・リポ蛋白代謝, バイオセンサー, 質量分析, 機能性食品, バイオマーカー
教授(兼) 恵 淑萍	過酸化脂質, 脂肪酸およびプラズマローゲンに関する研究
教授(兼) 小笠原克彦	医療情報学, 臨床経済学, 医療管理学
教授(兼) 尾崎 倫孝	肝臓の病態生理, 生体ストレス, 光による生体イメージングに関する研究
准教授(兼) 武田 晴治	脂質関連分子を物理化学的に評価する方法に関する研究
講師(兼) 櫻井 俊宏	リポタンパク質代謝とその酸化に関する研究
助教 陳 震	生理活性脂質定性及び定量分析, リピドミクス
助教 喬 琳	環境濃度のオゾンに酸化した脂質膜に関する研究
助教 譚 慧	食品から新規生理活性成分探索, 機能開発及び作用機構に関する研究
助教(研究院長付) WAGEH SOBHY DARWISH	食物中の化学残留物と人の健康リスク評価に関する研究, 機能性食品
助教(研究院長付) 何 欣蓉	腎臓内脂肪滴の形成がミトコンドリア障害への影響に関する研究
助教(兼) 浅野 真未	様々な細胞死の肝恒常性維持における役割に関する研究 糖尿病性網膜症の病態解析と予防に関する研究

保健医療教育研究センター

平成31年3月31日現在

職・氏名	主な研究内容
センター長 教授(兼) 小笠原 克彦	医療情報学, 臨床経済学, 医療管理学
教授(兼) 結城 美智子	高齢者の介護予防, 在宅療養者とその家族へのケアに関する研究
准教授(兼) 野口 眞貴子	助産モデルを組み込んだ妊産婦保健対策に関する研究
特任助教 藤原 健祐	救急医療体制および医療資源配分に関する研究

V. 研究活動

i 年度別業績一覧

■業績

基盤看護学分野

A. 学術論文

1. Su Y, Hirayama K, Han TF, Izutsu M, Yuki M: Sarcopenia prevalence and risk factors among Japanese community dwelling older adults in a snow-covered city according to EWGSOP2. *J Clin Med* 8(3), 291, 2019. <https://doi.org/10.3390/jcm8030291>
2. Haga S, Ozawa T, Morita N, Asano M, Jin S, Yimin, Ozaki: Photo-Activatable Akt Probe: A New Tool to Study the Akt-Dependent Physiopathology of Cancer Cells. *Oncology Research Featuring Preclinical and Clinical Cancer Therapeutics* 26,467 – 472, 2018.
3. Haga S, Kanno A, Ozawa T, Morita N, Asano M, Ozaki M: Detection of Necroptosis in Ligand-Mediated and Hypoxia-Induced Injury of Hepatocytes Using a Novel Optic Probe-Detecting Receptor-Interacting Protein (RIP)1/RIP3 Binding. *Oncology Research Featuring Preclinical and Clinical Cancer Therapeutics* 26: 503-513, 2018.
4. Matsuo J, Haga S, Hashimoto K, Okubo T, Ozawa T, Ozaki M, Yamaguchi H: Activation of caspase-3 during Chlamydia trachomatis-induced apoptosis at a late stage. *Can J Microbiol.* 65: 135–143, 2019
5. Yano R, Okubo T, Shimoda T, Matsuo J, Yamaguchi H: A simple and short microbiology practical improves undergraduate nursing students' awareness of bacterial traits and ability to avoid spreading infections. *BMC Medical Education* 19: 53, 2019. <https://doi.org/10.1186/s12909-019-1483-4>
6. Kagamiyama H, Sumi N, Yoshida Y, Sugimura N, Nemoto F, Yano R : Association between sleep and fatigue in nurses who are engaged in 16 h night shifts in Japan: Assessment using actigraphy, *Japan Journal of Nursing Science*, 2018. <https://doi.org/10.1111/jjns.12246>
7. Kagamiyama H, Yano R : Relationship between subjective fatigue, physical activity, and sleep indices in nurses working 16-hour night shifts in a rotating two-shift system, *Journal of Rural Medicine*, 3: 26-32, 2018.
8. Yoshida Y, Sumi N, Sugimura N, Nemoto F, Yano R: Relationship between sleep and subjective fatigue in rotating shift nurses: validation using a wearable device, *Open Journal of Nursing*, 8: 272-280, 2018.
9. Sumi N, Yoshida Y, Sugimura N, Yano R : Investigation of the burnout stages experienced by nurses working in hospitals and related factors, *Open Journal of Nursing*, 8: 257-271, 2018.
10. Takakura Y, Otsuki M, Sakai S, Tajima Y, Mito Y, Ogata A, Koshimizu S, Yoshino M, Uemori G, Takakura S, Nakagawa Y: Sub-classification of apraxia of speech in patients with cerebrovascular and neurodegenerative diseases. *Brain and Cognition* 130: 1-10, 2019.

V. 研究活動

11. Poudel K, Sumi N: Knowledge about risk factors of cancer among adults in Nepal. The 2nd International Meeting of Public Health 2016 (IMOPH):126-136, 2018.
12. Poudel K, Noguchi M, Sumi N : Knowledge of Risk Factors of Cancer among Nepali Immigrants in Japan. The 3rd International Meeting of Public Health and the 1st Young Scholar Symposium on Public Health: 429-436, 2019.
13. Suzuki T, Shimoda T, Takahashi N, Tsutsumi K, Samukawa M, Yoshimura S, Ogasawara K: Factors Affecting Bone Mineral Density Among Snowy Region Residents in Japan: Analysis Using Multiple Linear Regression and Bayesian Network Model. Interact J Med Res. 22: 2018. doi: 10.2196/ijmr.8555.
14. 結城美智子, 三宅亜矢, 石岡明子, 中積宏之, 平山憲吾: 外来化学療法をうけるがん患者の家族への抗がん薬暴露予防の検討. 医療の広場 58(6): 16-18, 2018.
15. 榎本常子, 矢野理香: 留置針を用いた点滴静脈内注射時の部位選定に関する熟練看護師の観察と動作の特徴. 日本看護技術学会誌 17: 104-113, 2018.
16. 安田佳永, 矢野理香: 静脈穿刺時に血管怒張を促す手技の怒張効果に関する統合的文献レビュー. 日本看護技術学会誌 18: 1-8, 2019.
17. 杉村直孝, 矢野理香: 看護学生への看護技術教育における精神運動領域の効果測定に関する文献レビュー. 日本看護技術学会誌 18: 9-16, 2019.
18. 塚本美奈, 宮島直子: 神経性やせ症患者の退院後の生活におけるストレス体験. 第49回(平成30年度)日本看護学会論文集(精神看護) 2019: 79-82, 2019.
19. 大槻美佳: 音韻処理障害のメカニズム. 高次脳機能研究 38(2): 197-203, 2018.
20. 大槻美佳: 原発性進行性失語の病態. 日本認知症ケア学会誌 17(3): 522-529, 2018.
21. 大槻美佳: 言語のしくみー失語の症候からー. 認知神経科学 20(3-4): 157-163, 2018.
22. 高倉祐樹, 大槻美佳, 中川賀嗣: 失構音/発語失行 失構音の下位分類の精錬にむけて. 神経心理学 34: 38-44, 2018.
23. 足立耕平, 伊集院睦雄, 大槻美佳, 小池敦, 石合純夫: 標準言語性対連合額数検査(S-PA)の妥当性に関する検討. 高次脳機能研究 38(4): 414-421, 2018.
24. 大槻美佳: 失語の診断: 臨床に役立つポイント. 老年精神医学雑誌 30(2): 57-65, 2019.
25. 竹腰顕, 吉倉延亮, 小澤憲司, 生駒良和, 北川順一, 竹島明, 大槻美佳, 中道一生, 西條政幸, 大江直行, 望月清文, 柿田明美, 下畑享良: 経過中にBalint症候群を発症し, 塩酸メフロキンとミルタザピンの併用療法により改善した進行性多巣性白質脳症の1例 Brain and nerve 71(3), 281-286, 2019.
26. 緒方昭彦, 西村洋昭, 新保和賢, 輿水修一, 大槻美佳, 小柳泉, 浜上尚也: パーキンソン病における認知症と前頭葉機能評価. 第43回札幌市医師会医学雑誌 ;175-176, 2018.
27. 山ノ井高洋, 杉本幸司, 大槻美佳, 豊島 恒, 大西真一, 山崎敏正: 果物名称想起時におけるヒト脳内角回の反応について. 工学部研究報告, 46:167-173, 2018.

B. 著書

1. 大槻美佳(分担): 運動無視と間欠性運動開始困難. 行為と動作の障害, 日本高次脳機能障害学教育・研修委員会編, 新興医学出版社, 145-164, 東京, 2018.
2. 大槻美佳(分担): やさしい高次脳機能障害用語事典. 編集種村純. ぱーそん書房, 36-37, 90-91, 193, 249, 356563-564, 東京, 2018.

V. 研究活動

3. 大槻美佳：言語障害，せん妄，うつ病性障害，アパシー，認知症への対応．脳梗塞診療読本 第3版，中外医学社 268-294, 東京，2019.
4. 高倉祐樹，大槻美佳（分担）：第5章 アプロソディア．情動と言語・芸術．朝倉書店，118-142 東京，2018.
5. 大槻美佳：人には聞けない言葉 / 運動のヒミツ．NTT 技術ジャーナル ふるえ，日本電信電話株式会社，42-4，東京，2018.
6. 大槻美佳，中川賀嗣：運動無視と間欠性運動開始困難．行為と動作の障害．新興医学出版社，145-164, 東京，2019.

C. 総説，解説，論評

1. 大槻美佳，前島伸一郎：高次脳機能障害の治療戦略．神経心理学 34: 111-112, 2018.
2. 大槻美佳：失語：症候と画像．第34回「ブレイン・ファンクション・イメージング・カンファランス」記録集．11, 2019. エードライブコミュニケーション．
3. 高倉祐樹，大槻美佳，中川賀嗣：原発性進行性失語（primary progressive apraxia of speech: PPAOS）における特異的な単語発話の特徴．北海道医療新聞，2018年7月27日．

D. 報告書

- 1.
- 2.

E. その他

[受賞]

1. 古戸順子，遠藤智子，前田 香，結城美智子：第7回日本公衆衛生学会，優秀演題賞，東日本大震災・福島原発事故後の福島県内保健師の心身の健康状態（震災6年後の追跡調査から）．
2. 高倉祐樹，大槻美佳他：第59回日本神経学会最優秀賞，Primary progressive apraxia of speech (PPAOS: 原発性進行性発話失行) における特異的な単語発話．
3. 高倉祐樹，大槻美佳他：第21回認知神経心理学研究会最優秀研究発表賞，慢性期皮質下性失語例に対する意味属性分析 (Semantic feature analysis: SFA) 訓練の試み．
4. 安田佳永，榎本常子，杉村直孝，矢野理香：第17回日本看護技術学会大会賞，末梢静脈留置針挿入時，熟練看護師が血管怒張手技として実践するマッサージ動作の分析．

[学会研究会の主催]

[特許]

1. 矢野理香，鷺見尚己，吉田祐子，杉村直孝，渡部一拓：労働状態の判定用のプログラム．判定システム及び判定装置．2018年11月，特願2018-219051 北海道大学

[報道]

V. 研究活動

F. 学会発表

A) 招待講演

[国際学会]

1. Ozaki M, Haga S: The molecular mechanisms of oxidative stress, cell death and protection in liver/hepatocytes., Invited Lecture at Dalian Medical University, Dalian, China, 2018.12.

[国内学会]

1. 尾崎倫孝, 芳賀早苗, 森田直樹, 浜田俊幸, 小澤岳昌: 細胞・臓器の病態生理の時空間イメージングと研究・臨床への応用 - 外科医が望むもの, そして今していること. 第 16 回医用分光学会, 札幌, 2018.11.
2. 尾崎倫孝: 肝におけるレドックスバイオロジー<制御と生理・病態> Redox Biology in Liver – regulation and physio-pathology -. MPO 研究会, 札幌, 2018.9.
3. 尾崎倫孝, 芳賀早苗: 光プローブをもちいたプログラム細胞死 (アポトーシス, ネクロプトーシス) の動的解析. 第 22 回日本がん分子標的治療学会学術集会「ワークショップ 4」, 東京, 2018.5.
4. 大槻美佳: <シンポジウム>失語症の診断: 臨床に役立つポイント. アルツハイマー病研究会 第 19 回学術シンポジウム, グランドプリンスホテル新高輪, 東京, 2018.4.
5. 大槻美佳: <教育講演> 失語症候. 教育コース, 札幌「神経内科診療における高次脳機能のみかた」, 第 59 回日本神経学会学術大会, 札幌市, 2018.5.
6. 大槻美佳: <シンポジウム> 「認知症臨床の最前線」. 非 AD 型変性性認知症疾患の症候と画像, 第 59 回日本神経学会学術大会, 札幌市, 2018.5.
7. 大槻美佳: <セミナー> 「言語のしくみ: 失語の症候から」. 第 23 回認知神経科学学会学術集会, 三浦市, 2018.6.
8. 大槻美佳: <教育講演> 明快な失語症学. 「相馬芳明先生記念講演会」. 会津若松市, 発 2018.8.
9. 大槻美佳: <教育講演> ブローカ失語と超皮質性運動失語. 2018 年夏期教育研修講座教育講演. 高次脳機能障害学会, 横浜市, 2018.7.
10. 大槻美佳: <特別講演> 脳機能から考える失語症のみかたとアプローチ. 第 25 回脳機能とリハビリテーション研究会学術集会. 千葉県立保健医療大学, 千葉市, 2018.8.
11. 大槻美佳, 山ノ井高洋: <シンポジウム> 神経心理学的視点からみた記号接地問題. 第 35 回日本認知科学学会シンポジウム, 茨木市, 2018.8.
12. 大槻美佳: <シンポジウム> 失語と画像. 第 34 回ブレイン - ファンクション - イメージング - カンファレンス, 神戸市, 2018.9.
13. 大槻美佳: <セミナー> 進行性失語の概念と歴史. 第 42 回日本高次脳機能障害学会学術セミナー. 神戸市, 2018.12.
14. 大槻美佳: <シンポジウム> 認知症の症候と画像. 「Brain Japan がめざす認知症への取り組み」. 第 61 回日本脳循環代謝学会シンポジウム, 盛岡市, 2018.10.
15. 中川賀嗣, 大槻美佳: <シンポジウム> 行為・動作とその障害. シンポジウム 7 「認知症の神経心理学」, 第 37 回日本認知症学会学術集会, 札幌市, 2018.10.
16. 高倉祐樹, 大槻美佳, 中川賀嗣, 三浦祐一: <シンポジウム> 重複症状の対象の多様性: 人物以外の重複現象は? シンポジウム 17 「重複記憶錯誤: 認知症の精神症を神経心理学と精神病理学から考える」, 第 37 回日本認知症学会学術集会, 札幌市, 2018.10.

V. 研究活動

17. 大槻美佳: <セミナー>進行性失語. 第42回日本高次脳機能障害学会学術総会サテライトセミナー. 神戸市, 2018.12.
18. 大槻美佳: 言語と脳. 認定言語聴覚士研修会(主催: 日本言語聴覚士協会), 東京, 2018.8.
19. 大槻美佳: 大脳症候からみる認知症. Dementia Seminar, 三島市, 2018.11.
20. 大槻美佳: 明快な高次脳機能診察: ロジカルにみる. 日本神経学会 第12回専門医育成教育セミナー. 船橋市, 2018.12.
21. 大槻美佳: 原発性進行性失語の症候と経過: 今日のトピックス. 日本言語聴覚士協会認定専門講座, 札幌市, 2019.2.
22. 大槻美佳: 失語と脳. ニューロサイエンスセミナー(福岡青洲会病院), 福岡市, 2019.3.

[地方会]

1. 大槻美佳: 「語」に関する症候と神経基盤. 第16回北海道神経心理懇話会, 札幌市, 2018.10.
2. 大槻美佳. 失語症の症候. 鹿児島県言語聴覚士会学術講習会(主催: 鹿児島県言語聴覚士会), 鹿児島市, 2018.5.
3. 大槻美佳: 高次脳機能障害講演会「脳画像の基礎と見方」「変性疾患における言語症候」「言語機能に影響を与える機能の障害」「古典的失語症分類の問題点と今日の視点」山陰言語聴覚士学術講演会(主催: 山陰言語聴覚士会), 鳥取市, 2019.1.
4. 大槻美佳: 統合型視覚失認. 第23回脳の臨床研究会, 札幌市, 2019.3.
5. 大槻美佳: 半側空間無視・視覚失認. 高次脳機能障害ショートレクチャー, 帯広市, 2018.11.
6. 大槻美佳: PSP および関連疾患の高次脳機能障害, 第23回脳の臨床研究会, 札幌市, 2019.3.

B) 一般演題

[国際学会]

1. Yuki M, Hayano K, Kawahara K: Mental health of healthcare professional living in temporary housing in Fuushima prefecture after the Fukushima nuclear power plant disaster. The 14th Asia Pacific Conference on Disaster Medicine, Kobe, 2018.10.
2. Su Y, Izutsu M, Hirayama K, Yuki M: How to prepare from caregiver turn to surrogate decision maker for people with dementia-a integrative review-. The 14th International Congress of the European Geriatric Medicine Society, Berlin, Germany, 2018.10.
3. Izutsu M, Su Y, Hirayama K, Yuki M: The burden and mental health among singleton caregiver for multiple family members-a nationwide cross-sectional study, 14th International Congress of the European Geriatric Medicine Society, Berlin, Germany, 2018.10.
4. Ozaki M, Haga S, Yimin: Relevance of FXR-p62/SQSTM1 pathway for survival and protection of mouse hepatocytes and liver with steatosis. IBD and Liver: East Meets West, Kyoto, 2018.9.
5. Yasuda K, Okada K, Sugimura N, Yamaguchi S, Watanabe K, Yano R: Verification of the Effectiveness of Tapping and Massaging as Venodilation Techniques for Peripheral Intravenous Cannulation. 22nd East Asian Forum of Nursing Scholars, Singapore, 2019.1.

V . 研究活動

6. Yamaguchi S, Sugimura N, Watanabe K, Yasuda K, Kawahata I, Matsuno C, Yano R:Change in the stratum corneum water content is a suitable indicator to assess skin barrier function of the elderly after bed bath. 22nd East Asian Forum of nursing Scholars, Singapore, 2019.1.
7. Sugimura N, Yano R:Effectiveness of a new exercise program developed from expert nurses' skill performances to decide venipuncture site. 22nd East Asian Forum of Nursing Scholars, Singapore, 2019.1.
8. Konya I, Yamaguchi S, Sugimura N, Kawahata N, Matsuno C, Yano R:Relationship between the pressure of bed bath provided by nurses and their experience of skin trouble.22nd East Asian Forum of nursing Scholars, Singapore, 2019.1.
9. Watanabe K, Sugimura N,Yoshida Y, Sumi N, Yano R:Relationship between subjective sleep duration required for daily activity and burnout in shift-working nurses.22nd East Asian Forum of nursing Scholars, Singapore, 2019.1.
10. Irie Y, Miyajima N:Factors that Influence the Resilience of University Students.The 8th Hong Kong International Nursing Forum,Hong Kong, China, 2018.12.
11. Sato Y, Miyajima N:Comparison of Relaxation Effect between Aromatherapy Which Uses Diffusers and Aroma Foot Baths.The 8th Hong Kong International Nursing Forum,Hong Kong, China, 2018.12.
12. Kobayashi R, Miyajima N: Related Factors and the Process of Help-Seeking Behavior in Japanese People: Literature Review.22th East Asian Forum of Nursing Scholars, Singapore, 2019. 1.
13. Sugimoto K, Yamanoi T, Toyoshima H, Otsuki M, Ohnishi S, Yamazaki T: Differece of Spatiotemporal Human Brain Activities on Recalling Some Fruit Names, WConSC, Republic of Azerbaijan, 2018.5.
14. Sugimoto K, Yamanoi T, Toyoshima H, Otsuki M, Ohnishi S, Yamazaki T : Human Brain Activities on Angular Gyrus during Recalling Tetrapod and Fruit Names. SCIS&ISIS2018, Toyama, 2018.12.
15. Poudel K, Sumi N: Examining awareness on cervical cancer risk factors, barriers and screening among Nepali high school students and their mothers . 22nd East Asian Forum of Nursing Scholars, Singapore, 2019.1.
16. Shiema S, Aoyanagi M, Sumi N: Nursing interventions for improving resilience in cancer patients. 22nd East Asian Forum of Nursing Scholars, Singapore, 2019.1.
17. Mizobe K: Factors leading to patient anxiety undergoing surgeries with local anesthesia and suitable intraoperative care to decrease their anxiety: A literature review. 2018 International ACORN & ASIORNA Conference, Adelaide, Australia, 2018.5.

[国内学会]

1. 平山憲吾, 蘇 雅, 井筒深紅, 結城美智子: 外来化学療法を受ける肺がん患者の生活を支えるために家族が捉える認識と対策. 第38回日本看護科学学会, 松山市, 2018.12.
2. 河原加代子, 早野貴美子, 結城美智子: ヘルスリスク・コミュニケーションに焦点化した災害看護の教育教材の検討(第1報). 第38回日本看護科学学会, 松山市, 2018.12.
3. 早野貴美子, 河原加代子, 結城美智子: ヘルスリスク・コミュニケーションに焦点化した災害看護の教育教材の検討(第2報). 第38回日本看護科学学会, 松山市, 2018.12.

V. 研究活動

4. 古戸順子, 遠藤智子, 前田香, 結城美智子: 東日本大震災・福島原子力発電所事故後の福島県内保健師の心身の健康状態—震災6年後の追跡調査から—. 第7回日本公衆衛生学界学術集会, 宇部市, 2019.1.
5. 平山憲吾, 千葉恵, 蘇 雅, 井筒深紅, 結城美智子: 分子標的治療薬による皮膚障害とQOLに関する研究動向—英語文献に焦点をあてて—. 第33回日本がん看護学会, 福岡市, 2019.2.
6. 芳賀早苗, 伊 敏, 森田 直樹, 浅野真未, 荘巖 哲哉, 尾崎 倫孝: マウス脂肪肝モデルをもちいたビルベリーの予防効果に関する検討. 第39回日本肥満学会, 神戸市, 2018.10.
7. 芳賀早苗, 小澤岳昌, 森田直樹, 伊 敏, 尾崎倫孝: 光による細胞生存能 (Akt/PKB 分子) 制御に関する研究. 第91回日本生化学会, 京都市, 2018.9.
8. 芳賀早苗, 菅野 憲, 小澤岳昌, 森田直樹, 浅野真未, 伊 敏, 尾崎倫孝: 発光プローブによるプログラム細胞死 (アポトーシス, ネクロトーシス) 動的解析の試み. 第27回日本 Cell Death 学会, 京都市. 2018.7.
9. 芳賀早苗, 菅野 憲, 小澤岳昌, 森田直樹, 浅野真未, 尾崎倫孝: レドックスが制御するネクロトーシス型細胞死 (ネクロトーシス) の光プローブによる動的解析. 第25回肝細胞研究会, 東京. 2018.7.
10. 小島有沙, 矢野理香: 慢性疾患を有する入院患者のスキンテア発生の実態と関連要因. 第27回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会, 札幌市, 2018.5.
11. 山口真弥, 矢野理香: ふき取りによる角層構造の脆弱化と角質水分量の変化量の関連. 第27回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会, 札幌市, 2018.5.
12. 山口真弥, 矢野理香: 清拭後の皮膚バリア機能を評価する指標としての角質水分量の有効性と安定性—経表皮水分蒸散量との比較—. 第17回日本看護技術学会, 青森市, 2018.9.
13. 小川結衣, 土山啓, 山口真弥, 矢野理香: 綿タオルとディスプレイタオルの部分清拭による皮膚の清浄度と皮膚バリア機能の経時的変化. 第17回日本看護技術学会, 青森市, 2018.9.
14. 安田佳永, 杉村直孝, 渡部一拓, 矢野理香: 末梢静脈留置針挿入に向けて, 看護師が挿入可能と判断した血管断面積・血管径・深さの検証. 第17回日本看護技術学会, 青森市, 2018.9.
15. 安田佳永, 榎本常子, 杉村直孝, 矢野理香: 末梢静脈留置針挿入時, 熟練看護師が血管怒張手技として実践するマッサージ動作の分析. 第17回日本看護技術学会, 青森市, 2018.9.
16. 倉侑菜, 福田花帆, 杉村直孝, 安田佳永, 矢野理香: 初回の看護場面における脳血管障害患者の語りを促すケアとしての手浴と足浴の比較. 第17回日本看護技術学会, 青森市, 2018.9.
17. 土山啓, 小川結衣, 山口真弥, 杉村直孝, 矢野理香: 皮脂量の違いが清拭による皮膚バリア機能に与える影響. 第17回日本看護技術学会, 青森市, 2018.9.
18. 山口真弥, 杉村直孝, 渡部一拓, 矢野理香: 皮膚バリア機能の評価指標である経表皮水分蒸散量と角質水分量の関連. 第38回日本看護科学学会学術集会, 松山市, 2018.12.
19. 杉村直孝, 矢野理香: 熟練看護師の触診技術を取り入れた採血演習プログラムの開発 (第1報) 動作分析による有効性の検討. 日本看護技術学会第17回学術集会, 青森市, 2018.9.
20. 杉村直孝, 矢野理香: 熟練看護師の触診技術を取り入れた採血演習プログラムの開発 (第2報) 学生の自己評価による有効性の検討. 日本看護技術学会第17回学術集会, 青森市, 2018.9.
21. 杉村直孝, 渡部一拓, 鷺見尚己, 吉田祐子, 矢野理香: 交代制勤務をする看護師のバーンアウトとコーピング特性およびレジリエンスとの関連. 第38回日本看護科学学会学術集会, 松山市, 2018.12.
22. 渡部一拓, 鷺見尚己, 吉田祐子, 矢野理香: 交代制勤務をする看護師のバーンアウトに関連する生活習慣要因の検討. 第38回日本看護科学学会学術集会, 松山市, 2018.12.

V. 研究活動

23. 穴戸穂, 矢野理香: 高齢者への清拭時における 10 秒間温タオル貼用の皮膚表面温度別にみた効果の比較. 日本看護技術学会第 17 回学術集会, 青森市, 2018.9.
24. 渡部一拓, 矢野理香: 看護学生の睡眠の実態とその特徴に関する文献検討. 日本看護技術学会第 17 回学術集会, 青森市, 2018.9.
25. 鷺見尚己, 小川万梨野, Poudel Kritika, 矢野理香: 大学 1 年生の小中高校でのがん教育の受講経験とがんへの認識および生活習慣の関連. 第 38 回日本看護科学学会学術集会, 松山市, 2018.12.
26. 鏡山浩美, 矢野理香: 16 時間夜勤を行う看護師の仮眠パターンと疲労との関連. 第 22 回日本看護管理学会学術集会, 神戸市, 2018.8.
27. 蓮池清美, 新岡郁子, 船木典子, 下河原みゆき, 城石陽子, 菊池宏子, 佐藤ひとみ, 佐藤洋子, 矢野理香: 部署内教育の統括的役割を担う指導看護師の役割発揮と行動変容に関する自己評価の実態. 第 22 回日本看護管理学会学術集会, 神戸市, 2018.8.
28. 塚本美奈, 宮島直子: 神経性やせ症患者の退院後の生活におけるストレス体験. 第 49 回日本看護学会精神看護学会, 徳島市, 2018.7.
29. 塚本美奈, 宮島直子: 神経性やせ症患者の看護に関する研究の動向と課題—過去 10 年間の文献レビューから—, 日本精神保健看護学会第 28 回学術集会, 東京, 2018.6.
30. 高倉祐樹, 中川賀嗣, 田島康敬, 水戸泰紀, 緒方昭彦, 輿水修一, 新保和賢, 吉野雅美, 上森元気, 境信哉, 大槻美佳: Primary progressive apraxia of speech (PPAOS) における特異的な単語発話の特徴. 第 59 回日本神経学会, 札幌市, 2018.5.
31. 佐藤智香, 矢部一郎, 白井慎一, 工藤彰彦, 佐藤翔紀, 高橋育子, 松島理明, 加納崇裕, 山崎和義, 濱内祝嗣, 笹森徹, 平田健司, 関俊隆, 北川まゆみ, 大槻美佳, 志賀哲, 寶金清博, 佐々木秀直. Investigation of findings of FDG-PET before and after DBS in 15 patients with Parkinson's disease. 第 59 回日本神経学会, 札幌市, 2018.5.
32. 竹内恵, 白井慎一, 松島理明, 加納崇裕, 笹森徹, 関俊隆, 北川まゆみ, 大槻美佳, 矢部一郎, 佐々木秀直. DBS 療法における半構造化面接による精神機能評価の有用性, 第 59 回日本神経学会, 札幌市, 2018.5.
33. 神馬由佳子, 高倉祐樹, 高清水柚花, 杉原俊一, 大槻美佳: 重度失構音を呈した一症例に対する音の誤り方の分析～構音の歪みが軽減する条件の検討～. 第 19 回日本語聴覚学会, 富山市, 2018.6.
34. 高清水柚花, 高倉祐樹, 神馬由佳子, 杉原俊一, 大槻美佳: 復唱・音読に比し, 自発話・呼称での構音の歪みが顕著であった皮質下性失語の 1 例. 第 19 回日本語聴覚学会, 富山市, 2018.6.
35. 緒方昭彦, 大槻美佳, 西村羊昭, 輿水修一, 新保和賢, 浜上尚也, 小柳泉: パーキンソン病における高次脳機能障害と SPECT 所見. 第 12 回パーキンソン病・運動障害疾患コンgres, 2018.7.
36. 大槻美佳, 中川賀嗣, 緒方昭彦. 語減少型原発性進行性失語 (lpvPPA) の症候・画像所見・経過. 第 42 回日本高次脳機能障害学会学術総会, 神戸ポートピアホテル, 神戸市, 2018.12.
37. 白井慎一, 矢部一郎, 山崎和義, 濱内祝嗣, 松島理明, 加納崇裕, 笹森徹, 関俊隆, 北川まゆみ, 大槻美佳, 寶金清博, 佐々木秀直: 脳深部刺激療法術後 2 年間の経過に関する 15 例の検討. 第 12 回パーキンソン病・運動障害疾患コンgres, 京都市, 2018.7.
38. 川口源水, 大槻美佳, 中川賀嗣, 杉原俊一. 重度ブローカ失語患者における発話分析—音声の呈示間隔の違いは復唱成績を変化させるのか—. 第 42 回日本高次脳機能障害学会学術総会, 神戸市, 2018.12.
39. 今城良太, 高倉祐樹, 大槻美佳: 文字 - 音韻変換の連続的な処理にて仮名 1 文字の音読が困難であった音韻失読の 1 例. 第 22 回脳の臨床研究会, 札幌市, 2018.3.

V. 研究活動

40. 竹腰颯, 吉倉延亮, 小澤憲司, 大槻美佳, 中道一生, 西條政幸, 下畑享良: 経過中にバーリント症候群を呈し, 塩酸メフロキシンとミルタザピンの併用療法により改善した進行性多巣性白質脳症の1例. 第23回日本神経感染症学会総会・学術大会, 東京, 2018.10.
41. 山ノ井高洋, 杉本 幸司, 大槻美佳, 豊島 恒, 大西真一, 山崎敏正: 果物名称想起時におけるヒト脳内角回の反応について. 日本知能ファジィ学会, 名古屋大学, 名古屋市, 2018.9.
42. 井川大樹, 大槻美佳, 藤重正人: 仮名とローマ字の関係～読み書きは障害されたが, ローマ字と仮名の相互変換は保持された症例～. 第42回日本高次脳機能障害学会学術総会, 神戸市, 2018.12.
43. 高倉祐樹, 大槻美佳, 宇野彰: 慢性期皮質下性失語例に対する意味属性分析 (Semantic feature analysis:SFA) 訓練の試み. 第21回認知神経心理学研究会, 仙台市, 2018.10.
44. 佐藤智香, 矢部一郎, 白井慎一, 工藤彰彦, 佐藤翔紀, 高橋育子, 松島理明, 加納崇裕, 山崎和義, 濱内祝嗣, 笹森徹, 平田健司, 関俊隆, 北川まゆみ, 大槻美佳, 志賀哲, 寶金清博, 佐々木秀直: Investigation of findings of FDG-PET before and after DBS in 15 patients with Parkinson's disease. 第59回日本神経学会学術総会, 札幌市, 2018.5.
45. 鷺見尚己, 小川万梨野, Kritika Poudel, 矢野理香: 大学生のがん教育の受講経験と日常生活習慣の関連, 第38回日本看護科学学会学術集会, 松山市, 2018.12.
46. 鷺見尚己, 小川万梨野, Kritika Poudel, 矢野理香: 小学校教員の学校におけるがん教育への認識に関する調査, 第33回日本がん看護学会学術集会, 福岡市, 2019.2.
47. 石岡明子, 青柳道子, 溝部佳代, 林みゆき, 本間陽子, 鹿内三起子, 高橋久美子, 佐藤ひとみ: 院内認定がん看護エキスパートナースの活動の認知度と活用の評価(第1報) 看護師を対象とした認知度と活用効果の実態. 第33回日本がん看護学会学術集会, 福岡市, 2019.2.
48. 溝部佳代, 石岡明子, 青柳道子, 林みゆき, 本間陽子, 鹿内三起子, 高橋久美子, 佐藤ひとみ: 院内認定がん看護エキスパートナースの活動の認知度と活用の評価(第2報) 看護師のがん看護の自信と関連要因の検討. 第33回日本がん看護学会学術集会, 福岡市, 2019.2.
49. 青柳道子, 石岡明子, 溝部佳代, 林みゆき, 本間陽子, 鹿内三起子, 高橋久美子, 佐藤ひとみ: 院内認定がん看護エキスパートナースの活動の認知度と活用の評価(第3報) 看護師のがん看護の自信への影響. 第33回日本がん看護学会学術集会, 福岡市, 2019.2.
50. 安富香苗, 玄田知子, 中谷妃希, 清野哲平, 山本正実, 高橋愛佳, 山本裕子, 芳賀真理子, 溝部佳代: 手術室入室時における看護実践能力の高い手術室看護師の関わり. 第49回日本看護学会 急性期看護 学術集会, 別府市, 2018.9.
51. 松田 恵, 佐藤三穂: 糖尿病患者が家族に対して日常の療養の中で感じる思い. 第23回日本糖尿病教育・看護学会学術集会, 水戸市, 2018
52. 原 千晴, 佐藤三穂: 外来看護師における他施設・多職種との連携の実態調査. 第23回日本糖尿病教育・看護学会学術集会, 水戸市, 2018

[地方会]

1. 大槻美佳: 認知症とは?～正しい認知症理解のために～. 夕張市民公開講座「市民のための生活習慣病講座」, 夕張市, 2018.7.
2. 大槻美佳: 認知症とは. 北海道大学オープンキャンパス講演, 札幌市, 2018.8.

V. 研究活動

3. 川口源水, 業天那奈香, 菅原清香, 三浦祐一, 杉原俊一, 大槻美佳, 中川賀嗣: 前頭葉内側面及び脳梁損傷による行為・動作の障害, 第23回脳の臨床研究会, 札幌市, 2019.3.
4. 辻澤陽平, 大槻美佳, 大澤恵留美, 水島慶一, 竹内恵, 佐々木秀, 生駒一憲. PSP-PAGF(pure akinesia with gait freezing)における書字障害の検討. 第23回脳の臨床研究会, 札幌市, 2019.3.
5. 安富香苗, 玄田知子, 中谷妃希, 清野哲平, 山本正実, 高橋愛佳, 山本裕子, 芳賀真理子, 溝部佳代: 手術室入室時における看護実践能力の高い手術室看護師の関わり. 日本手術看護学会北海道地区第53回地区学会, 札幌市, 2018.5.

■業績

創成看護学分野

A. 学術論文

1. Nakamura M, Asaka Y, Ogawara T, Yorozu Y: Nipple skin trauma in breastfeeding women during postpartum week one. *Breastfeed Med* Sep13(7) : 479-484, 2018. doi: 10.1089/bfm.2017.0217.
2. Kangasniemi M, Karki S, Colley N, Voutilainen A: The use of robots and other automated devices in nurses'work: an integrative review. *Int J Nurs Pract.*1-14. 2019; e12739. <https://doi.org/10.1111/ijn.12739>
3. Colley N.: Proficiency of Visual Attention for Quality of Care in Endotracheal Suctioning. *Academia Journal of Educational Research, AJER* 5(11) : 01-006, 2018.
4. 仲谷紗稀, 中山志保, 佐藤 瞳, 高橋香帆, 長井菜摘, 伊藤由美, 佐川 正: 諸外国の助産師が行う経腹超音波検査の実施に関する文献レビュー. *母性衛生* 59(2) : 312-320, 2018.
5. 山本千尋, 伊藤由美, 藤田和佳子, 大川加奈, 仲谷紗稀, 佐川 正: 多嚢胞性卵巣症候群(PCOS)と診断された若年女性の思い. *母性衛生* 59(2) : 355-364, 2018.
6. 野口真貴子, 高橋紀子, 藤田和佳子, 安積陽子, 高室典子: 札幌市産後ケア事業を利用した女性の認識. *日本助産学会誌* 32 : 178-189, 2018.
7. 松井春菜, 安積陽子: 生後3～4か月児をもつ父親の抑うつ傾向と父親になる意識・ソーシャルサポートの関連. *北海道母性衛生学会誌* 47 : 3-12, 2018.
8. 平野美千代, 水野芳子, 本田 光, 佐伯和子: 修士課程における新たな公衆衛生看護学実習: 現場との協働による構築. *保健師教育* 2(1) : 78-85, 2018.
9. 平野美千代, 水野芳子, 本田 光, 佐伯和子: 修士課程における新たな公衆衛生看護学実習: 現場との協働による構築. *保健師教育* 2 : 78-85, 2018.
10. コリー紀代, 清水弘美, 高橋 望, 小水内俊介, 近野 敦, 金井 理, 二宮伸治, 大塚健, 浅賀忠義: 熟練看護師の視線計測による気管内吸引オントロジーの構築. *医学教育* 49(2) : 117-125, 2018.
11. 加藤ももこ, 浅河美早紀, 二宮伸治, コリー紀代: 気管内吸引三法における接触面積計測による接触感染リスクの比較—探索的研究—. *医工学治療* 30(2) : 83-90, 2018.
12. 二宮伸治, コリー紀代, 小水内俊介, 近野 敦, 金井 理, 高橋 望, 浅賀忠義: 痰吸引トレーニングシミュレータのための痰吸引量およびカテーテル接触荷重リアルタイム計測装置の開発. *日本シミュレーション医療教育学会* 6 : 92-98, 2018.
13. 小水内俊介, 近野 敦, 金井 理, 二宮伸治, 浅賀忠義, 高橋 望, コリー紀代: 生体反応を呈する看護シミュレータのためのプロジェクションマッピング/拡張現実による視覚呈示. *日本シミュレーション医療教育学会* 6 : 99-103, 2018.
14. 仲谷紗稀, 伊藤由美, 佐川 正: 助産師が行う超音波検査に対する妊婦のニーズと満足度—産科医が行う超音波検査との比較—*母性衛生* 59(4) : 827-834, 2019.

B. 著書

1. 平野美千代(分担): 領域・対象別のアセスメントガイド. 地域保健福祉活動のための地域看護アセスメントガイド第2版(佐伯和子編著). 37-58, 医歯薬出版, 東京, 2018.

V. 研究活動

C. 総説, 解説, 論評

1. 勝藤 瞳, 平野美千代: 地域在住の健康なシニア世代が持つ本来感の実態と関連要因—老人福祉センター利用者を対象にして—. 北海道公衆衛生学雑誌 32 (2): 109-116, 2018.
2. 平野美千代, 和泉京子, 安齋由貴子, 他 8 名: 「学会誌投稿推進セミナー入門編: 原稿の書き方を伝授します!」第 6 回日本公衆衛生看護学会学術集会ワークショップより. 日本公衆衛生看護学会誌 7(1): 49-51, 2018.

D. 報告書

E. その他

[受賞]

1. コリー紀代: 視線移動量を用いた気管内吸引シミュレータの教育評価の検討, 第 51 回日本小児呼吸器学会, 優秀演題賞, 2018.9.
2. 小水内俊介, コリー紀代, 二宮伸治, 近野敦: 生体反応を呈する喀痰吸引シミュレータ ESTE-SIM のための生体反応モデル—酸素飽和度と脈拍数, 第 19 回公益社団法人計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会, SI2018 優秀講演賞, 2019. 3.

[学会研究会の主催]

[特許]

1. コリー紀代, 清水弘美, 高橋 望, 大塚 健: 気管内吸引技術学習装置 2017 年 8 月 特願 2017-081125 北海道大学, 清水弘美, 高橋 望, 大塚 健

[報道]

F. 学会発表

A) 招待講演

[国際学会]

[国内学会]

[地方会]

B) 一般演題

[国際学会]

1. Arita A, Hirano M: Mother's feelings through rearing preschool children who stutter. The 2018 the Inaugural Joint World Congress, Hiroshima, Japan, 2018.7.

V . 研究活動

2. Saste P, Schumann L, Duff E, Geese F, Colley N, Gray D: Visual Analysis of the Direct Comprehensive Care Domains of the NP/APN: A Research Sub-group Global Comparative Study. 10th ICN INP/APNN Conference, Rotterdam, Netherlands, 2018.8.
3. Gray D, Schumann L, Duff E, Geese F, Colley N, Cashin A: An overview: International NP/APN Role Definitions and Competencies from Respondent Countries. 10th ICN INP/APNN Conference, Rotterdam, Netherlands, 2018.8.
4. Onishi R, Saeki K, Hirano M: Mothers' challenges with parental control of three-year-old children in a community with weak member relationships. The 5th China Japan Korea Nursing Conference, Tokyo, Japan, 2018.9.
5. Honda H, Hirano M, Saeki K, Mizuno Y: Developing a Scale to Evaluate How Well Mothers with Infants Build Relationships with People in Their Communities. 50th Asia-Pacific Academic Consortium of Public Health Conference, Kota Kinabalu, Sabah Malaysia, 2018.9.
6. Sato Y, Yoshimura A, Sumi N: Survey on the image about cancer among junior high students, 50ST CONGRESS OF THE INTERNATIONAL SOCIETY OF PAEDIATRIC ONCOLOGY, Kyoto, Japan, 2018.11.
7. Ueda I, Okada N, Yokoyama M, Hirano M, Saeki K, Kawaharada M: The father competencies and supports required during the prenatal period. 5th World Congress on Nursing & Healthcare, Toronto, Canada, 2018.11.
8. Okada N, Ueda I, Yokoyama M, Hirano M, Saeki K, Kawaharada M: Competency required of fathers during the pregnancy of their wives to avoid child abuse-perceptions of experienced public health nurses. 5th World Congress on Nursing & Healthcare, Toronto, Canada, 2018.11.
9. Fauzi AR, Kanai S, Date H, Komizunai S, Konno A, Ninomiya S, Colley N: Generating facial expressions of pain with projection mapping for the nurse training simulator - Effects on the tracheal aspiration time for a patient with cerebral palsy, Japan Society for Precision Engineering (JSPE), 2018.11.
10. Aoyanagi M, Shindo Y: Communication skills training for nurses in palliative care: A literature review. The 8th Hong Kong International Nursing Forum, Hongkong, China, 2018.12.
11. Komizunai S, Ninomiya S, Konno A, Kanai S, Asaka T, Nakamura M, Inoue S, Murata E, Mani H, Colley N: Possibility of simultaneous monitoring of motion-eye trajectory with a simulation-based training for endotracheal suctioning: A novel approach. IMSH 2019, San Antonio, Tx USA, 2019.1.
12. Ninomiya S, Konno A, Kanai S, Asaka T, Nakamura M, Inoue S, Komizunai S, Murata E, Mani H, Colley N: Development of sensing load system on the surface of simulated bronchial membrane. IMSH 2019, San Antonio, Tx USA, 2019.1.
13. Luo Y, Sato Y: Review of Literature on Child-Rearing Support for Foreigners in Japan, The 22nd East Asian Forum of nursing Scholars conference, 2019.1.
14. Saitoh A, Asaka Y, Nakamura M, Saeki K: Medication choice among postpartum breastfeeding mothers. The 22nd East Asian Forum of nursing Scholars conference, 2019.1.
15. Hirano M, Saeki K, Ueda I: The relationship between engagement in social activities and purpose in life of community-dwelling older adults requiring support in Japan. The 22nd East Asian Forum of nursing Scholars conference, 2019.1.

V. 研究活動

16. Arita A, Hirano M: Parents'feelings through supportive rearing of children who stutter. The 22nd East Asian Forum of nursing Scholars conference, 2019.1.
17. Sasaki R, Hirano M: Meaning of participation in care prevention group activity for community-dwelling older adults recognized by participant and physical function. The 22nd East Asian Forum of nursing Scholars conference, 2019.1.
18. Katsufuji H, Hirano M: Actual state of self-esteem among active older people. The 22nd East Asian Forum of nursing Scholars conference, 2019.1.
19. Kojima S, Aoyanagi M, Hirano M, Saeki K: Interaction between persons with dementia living in a community and neighboring inhabitants. The 22nd East Asian Forum of nursing Scholars conference, 2019.1.
20. Kuji S, Aoyanagi M, Hirano M, Saeki K: The effect of exercise in an elderly voluntary exercise group: measured through physical activity. The 22nd East Asian Forum of nursing Scholars conference, 2019.1.
21. Nakatani K, Mizuno Y, Hirano M, Saeki K: Eating alone and related factors among community-dwelling elderly people. The 22nd East Asian Forum of nursing Scholars conference, 2019.1.
22. Shimada S, Aoyangi M, Sumi N: Nursing interventions for improving resilience in cancer patients.The 22nd East Asian Forum of nursing Scholars conference, 2019.1.
23. Nagai N, Ito Y, Yoshimura S, Sagawa T. Lead biokinetics and its lactational transfer: A literature review. The 22nd East Asian Forum of nursing Scholars conference, 2019.1.

[国内学会]

1. コリー紀代, 玉置美香, 山田真代, 八柳千佳子, 稲村道子, 近野 敦, 小水内俊介, 金井 理, 二宮伸治, 井上創造, 村田恵理, 萬井太規, 浅賀忠義:重症心身障害児(者)施設におけるパルスオキシメータによる継続測定データの活用可能性と今後の課題. 第65回日本小児保健協会学術集会, 鳥取, 2018.6
2. 栗林有利, コリー紀代:特別支援学校の生徒に対する自立支援とは～看護師へのインタビュー結果から～. 第65回日本小児保健協会学術集会, 鳥取, 2018.6
3. 高木彩恵, コリー紀代:特別支援学校高等部の生徒あるいは卒業生の自立志向に関する一考察～本人の意思を尊重した自立観とその支援とは～. 第65回日本小児保健協会学術集会, 鳥取, 2018.6
4. 小水内俊介, コリー紀代, 近野 敦, 金井 理, 浅賀忠義, 井上創造, 村田恵理, 萬井太規, 高橋 望, 二宮伸治:一人称視点で熟練者の身体動作と視線を追体験可能な没入型看護教育システム:ESTE-VR. 第6回日本シミュレーション医療教育学会学術大会, 東京, 2018.8.
5. 小水内俊介, コリー紀代, 近野 敦, 金井 理, 浅賀忠義, 高橋 望, 二宮伸治:吸引カテーテル操作に応じた生体反応を呈するプロジェクションマッピングシミュレータ:ESTE-SIM. 第6回日本シミュレーション医療教育学会学術大会, 東京, 2018.8.
6. 二宮伸治, 小水内俊介, 村田恵理, 近野 敦, 金井 理, 浅賀忠義, 井上創造, 萬井太規, 高橋 望, コリー紀代:痰吸引カテーテル接触荷重計測デバイス ESTE-SD を用いた臨床経験が接触荷重と挿入長に与える影響の評価. 第40回日本呼吸療法医学会, 東京, 2018.8.

V. 研究活動

7. コリー紀代, 小水内俊介, 村田恵理, 稲村道子, 玉置美香, 八柳千佳子, 山田真代, 近野 敦, 金井 理, 浅賀忠義, 井上創造, 萬井太規, 高橋 望, 二宮伸治: 生体反応を呈するシミュレータ ESTE-SIM のための吸引時 SpO₂ / 脈拍数の実測に基づく数理モデル定式化の試み. 第 40 回日本呼吸療法医学会, 東京, 2018.8.
8. 小水内俊介, コリー紀代, 近野 敦, 金井 理, 浅賀忠義, 井上創造, 村田恵理, 萬井太規, 高橋望, 二宮伸治: 座学と実習を補間するスマートフォン/タブレットを用いたインタラクティブなパーソナル看護教育教材: ESTE-mobile. 第 40 回日本呼吸療法医学会, 東京, 2018.8.
9. 小水内俊介, コリー紀代, 近野 敦, 金井 理, 浅賀忠義, 井上創造, 村田恵理, 萬井太規, 高橋 望, 二宮伸治: 没入型看護教育システム ESTE-VR を用いた習熟度分析評価ツール. 第 40 回日本呼吸療法医学会, 東京, 2018.8.
10. コリー紀代, 清水弘美, 大塚 健, 高橋 望, 近野 敦, 小水内俊介, 金井 理, 二宮伸治, 井上創造, 村田恵理, 萬井太規, 浅賀忠義: 人工呼吸器装着児(者)の社会参加を促進する多職種連携における構造的課題. 第 50 回日本医学教育学会大会, 東京, 2018.8.
11. コリー紀代, 小水内俊介, 近野 敦, 金井 理, 浅賀忠義, 中村美鈴, 井上創造, 村田恵理, 萬井太規, 二宮伸治: 視線移動量を用いた気管内吸引シミュレータの教育評価の検討. 第 51 回日本小児呼吸器学会, 札幌, 2018.9.
12. 藤本美和, コリー紀代, 二宮伸治: 2 波長光センサを用いて人工鼻の結露および閉塞を非接触監視するシステムの研究開発. 第 56 回日本人工臓器学会大会, 東京, 2018.11.
13. 林 友美, 高中七海, コリー紀代, 二宮伸治: 教育用呼吸療法シミュレータのための気道の生理的状態を再現する気道粘膜モデルの開発. 第 56 回日本人工臓器学会大会, 東京, 2018.11.
14. 小水内俊介, コリー紀代, 二宮伸治, 近野敦: 生体反応を呈する喀痰吸引シミュレータ ESTE-SIM のための生体反応モデル(酸素飽和度及び心拍数). 計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会(SI2018), 大阪工業大学, 2018.12.
15. 島野敏司, 佐川 正, 笠原玲奈, 松崎 登, 齋藤 豪: 妊婦における細菌性膣症(BV), 性器クラミジア感染, 頸管炎の頻度と risk factor の検討. 第 31 回日本性感染症学会学術大会, 東京, 2018.
16. 島野敏司, 佐川 正, 笠原玲奈, 松崎 登, 齋藤 豪: 妊婦における細菌性膣症(BV), 性器クラミジア感染, 頸管炎の頻度と risk factor の検討. 第 30 回日本臨床微生物学会, 東京, 2019.2.
17. 多田紗弥子, 伊藤由美, 本間睦美, 佐川正: 自己採取 HPV 検査を希望する若年女性の特徴と普及への課題. 看護総合科学研究会第 22 回学術集会, 札幌, 2018. 11.
18. 蓮池清美, 新岡郁子, 船木典子, 下河原みゆき, 城石陽子, 菊池宏子, 佐藤洋子, 矢野理香: 部署内教育の統括的役割を担う指導看護師の役割発揮と行動変容に関する自己評価の実態. 日本看護管理学会第 23 回大会学術集会, 神戸市, 2018.8.
19. 中澤貴代, 安積陽子: 臨床におけるバースレビューの実態を踏まえた助産師基礎教育の検討. 第 59 回日本母性衛生学会総会・学術集会, 新潟, 2018.10.
20. 平野美千代, 佐伯和子, 上田 泉: 要支援認定を受けた高齢者の社会活動尺度の開発: 男女統合版. 第 77 回日本公衆衛生学会総会, 郡山市, 2018.10.
21. 上田 泉, 岡田尚美, 岡崎まどか, 平野美千代, 河原田まり子, 佐伯和子: 日本の文献検討による育児期に求められる父親の役割. 日本子ども虐待防止学会第 24 回学術集会, 岡山市, 2018.11.

V. 研究活動

22. 平野美千代, 和泉京子, 表 志津子, 他 7 名: JAPHN 編集委員会企画 学会誌投稿推進セミナー初級編: 論文(研究・活動報告・その他)作成のコツと査読のプロセスを理解 しよう!. 第 7 回日本公衆衛生看護学会, 宇部市, 2019.1.
23. 平野美千代, 佐伯和子, 本田 光: 修士課程における個人・家族支援の実践能力自己評価の 2 年間の推移: 実践能力育成に向けた保健師教育の検討 第 1 報. 第 7 回日本公衆衛生看護学会, 宇部市, 2019.1.
24. 本田 光, 平野美千代, 佐伯和子: 修士課程における個人・家族支援の実践能力自己評価の 2 年間の推移: 実践能力育成に向けた保健師教育の検討 第 2 報. 第 7 回日本公衆衛生看護学会, 宇部市, 2019.1.
25. 深川周平, 長谷川晶子, 森本友香, 山口竜矢, 平野美千代: A 市 B 区の介護予防教室における新たな評価指標の検討(第 1 報—教室参加者の他者との付き合いの実態を教室プログラムと地域特性から分析して—. 第 7 回日本公衆衛生看護学会, 宇部市, 2019.1.
26. 長谷川晶子, 深川周平, 森本友香, 山口竜矢, 平野美千代: A 市 B 区の介護予防教室における新たな評価指標の検討(第 2 報)—教室参加者の社会活動の満足度や身体機能に関連する要因を分析して—. 第 7 回日本公衆衛生看護学会, 宇部市, 2019.1.
27. 佐々木 龍, 平野美千代, 深川周平, 森本友香: 介護予防教室参加者が認識する教室の参加意義と他者との付き合いの関連. 第 7 回日本公衆衛生看護学会, 宇部市, 2019.1.
28. 勝藤 瞳, 平野美千代: 地域で暮らすシニア世代の本来感の実態—都市部の老人福祉センター利用者を対象として—. 第 7 回日本公衆衛生看護学会, 宇部市, 2019.1.
29. 小島さくら, 青柳道子, 平野美千代, 佐伯和子: 在宅認知症療養者の近隣住民との交流の実態とその関連要因. 第 7 回日本公衆衛生看護学会, 宇部市, 2019.1.
30. 中谷圭甫, 水野芳子, 平野美千代, 佐伯和子: 過疎地域在住高齢者の食行動と食に関する主観的 QOL の男女比較. 第 7 回日本公衆衛生看護学会, 宇部市, 2019.1.
31. 久司周祐, 青柳道子, 平野美千代, 佐伯和子: 自主グループ活動に参加する地方中心都市の高齢者の身体活動量に関連する要因. 第 7 回日本公衆衛生看護学会, 宇部市, 2019.1.
32. 有田愛莉, 平野美千代: 吃音がある子どもに対する支援的関わりの中で親が抱く思い. 第 7 回日本公衆衛生看護学会, 宇部市, 2019.1.
33. 石岡明子, 青柳道子, 溝部佳代, 林みゆき, 本間陽子, 鹿内三起子, 高橋久美子, 佐藤ひとみ: 院内認定がん看護エキスパートナースの 活動の認知度と活用の評価(第 1 報)～看護師を対象とした認知度と活用効果の実態～. 第 33 回日本がん看護学会学術集会, 福岡市, 2019.2.
34. 溝部佳代, 石岡明子, 青柳道子, 林みゆき, 本間陽子, 鹿内三起子, 高橋久美子, 佐藤ひとみ: 院内認定がん看護エキスパートナースの 活動の認知度と活用の評価(第 2 報)～看護師のがん看護の自信との関連要因の検討～. 第 33 回日本がん看護学会学術集会, 福岡市, 2019.2.
35. 青柳道子, 石岡明子, 溝部佳代, 林みゆき, 本間陽子, 鹿内三起子, 高橋久美子, 佐藤ひとみ: 院内認定がん看護エキスパートナースの 活動の認知度と活用の評価(第 3 報)～看護師のがん看護の自信への影響～. 第 33 回日本がん看護学会学術集会, 福岡市, 2019.2.

[地方会]

1. コリー紀代, 近野 敦, 小水内俊介, 二宮伸治: 小児を対象とした安全な気管内吸引方法の確立に向けて—動圧吸引法と静圧吸引法の比較—. 北海道小児保健研究会 札幌市, 2018.5.

V. 研究活動

2. 藤本美和, 西原怜奈, コリー紀代, 二宮伸治: 光電脈波計測を用いた重度心身障害者のための意思伝達装置の開発—多点光電脈波分布計測システム構築のための反射型フォトセンサに関する基礎的研究—. 広島県臨床工学技士会大会, 広島, 2018.5.
3. 玉井駿一, 藤本実和, コリー紀代, 小野紗佑里, 二宮伸治: 穿刺状態の良否を判別できる穿刺・トレーニングシステムの開発. 第8回中四国臨床工学会, 広島, 2018.8.
4. 島野敏司, 佐川 正, 笠原玲奈, 松崎 登, 齋藤 豪: 妊婦における細菌性膣症 (BV), 性器クラミジア感染, 頸管炎の頻度と risk factor の検討. 第96回北海道産科婦人科学会学術講演会, 旭川, 2018.10.
5. 小林加奈, 安積陽子: 看護学生の月経知識と月経随伴症状およびセルフケア実施状況の関連. 第48回北海道母性衛生学会総会・学術講演会, 札幌, 2018.10.
6. 吉田有希, 柴田茉祐, 古森若葉, 鈴木真美, 中谷圭甫, 水野芳子: 中山間地域における健診受診の実態. 第70回北海道公衆衛生学会, 札幌, 2018. 11.

■業績

医用生体理工学分野

A. 学術論文

1. Yamaguchi T, Abe Y, Ichino Y, Satoh S, Masuda T, Kimura S, Ito M, Yamamoto T: Heating sensation in patients with and without spinal fixation devices during MRI examination at different magnetic field strengths. *J Magn Reson Imaging* 49:525-533, 2019.
2. Aikawa T, Naya M, Obara M, Manabe O, Magota K, Koyanagawa K, Asakawa N, Ito YM, Shiga T, Katoh C, Anzai T, Tsutsui H, Murthy VL, Tamaki N: Effects of coronary revascularization on global coronary flow reserve in stable coronary artery disease. *Cardiovasc Res* 115: 119-129, 2019
3. Abiko K, Shiga T, Katoh C, Hirata K, Kuge Y, Kobayashi K, Ikeda S, Ikoma K: Relationship between intelligence quotient (IQ) and cerebral metabolic rate of oxygen in patients with neurobehavioural disability after traumatic brain injury. *Brain Inj* 32: 1367-1372, 2018
4. Obara M, Naya M, Oyama-Manabe N, Aikawa T, Tomiyama Y, Sasaki T, Kikuchi Y, Manabe O, Katoh C, Tamaki N, Tsutsui H: Diagnostic value of quantitative coronary flow reserve and myocardial blood flow estimated by dynamic 320 MDCT scanning in patients with obstructive coronary artery disease. *Medicine (Baltimore)* 97: e11354, 2018
5. Yusuke Matsuya, Stephen J. McMahon, Kaori Tsutsumi, Kohei Sasaki, Go Okuyama, Yuji Yoshii, Ryosuke Mori, Joma Oikawa, Kevin M. Prise, Hiroyuki Date: Investigation of dose-rate effects and cell-cycle distribution under protracted exposure to ionizing radiation for various dose-rates. *Scientific Reports* 8: 8287 (2018)
6. Ryo Saga, Yusuke Matsuya, Rei Takahashi, Kazuki Hasegawa, Hiroyuki Date, Yoichiro Hosokawa: Radio-resistance analysis in high-dose range of prostate cancer cells including cancer stem cells based on a stochastic model. *Journal of Radiation Research*, in press (2019)
7. Ryo Saga, Takakiyo Tsujiguchi, Masaru Yamaguchi, Yasuyo Fukushi, Yohei Fujishima, Yusuke Matsuya, Joma Oikawa, Marin Terashima, Hiroyuki Date, Toshiya Nakamura and Yoichiro Hosokawa: Meeting Report on "The 4th Educational Symposium on Radiation and Health (ESRAH) by Young Scientists in 2017". *Radiation Environment and Medicine* 7 (2): 121-124 (2018)
8. Fujimori M, Kamishima T, Kato M, Seno Y, Sutherland K, Sugimori H, Nishida M, Atsumi T: Composite assessment of power Doppler ultrasonography and MRI in rheumatoid arthritis: a pilot study of predictive value in radiographic progression after one year. *Br J Radiol.* 91:20170748. doi: 10.1259/bjr.20170748, 2018
9. Funakoshi T, Momma D, Matsui Y, Kamishima T, Matsui Y, Kawamura D, Nagano Y, Iwasaki N: Autologous Osteochondral Mosaicplasty for Centrally and Laterally Located, Advanced Capitellar Osteochondritis Dissecans in Teenage Athletes: Clinical Outcomes, Radiography, and Magnetic Resonance Imaging Findings.. *Am J Sports Med.* 46:1943-1951. doi: 10.1177/0363546518768279, 2018 PMID: 29738680

V . 研究活動

10. Takagi S, Yaegashi T, Ishikawa M: Relationship Between Tube Voltage and Physical Image Quality of Pulmonary Nodules on Chest Radiographs Obtained Using the Bone-Suppression Technique. *Academic Radiology*, DOI: 10.1016/j.acra.2018.08.017, 2018.
11. Fujimori M, Kamishima T, Kato M, Seno Y, Sutherland K, Sugimori H, Nishida M, Atsumi T: Composite assessment of power Doppler ultrasonography and MRI in rheumatoid arthritis: a pilot study of predictive value in radiographic progression after one year. *Br J Radiol* 91,20170748, 2018.
12. Sugimori H: Classification of Computed Tomography Images in Different Slice Positions Using Deep Learning. *J Healthc Eng* 1753480, 2018.
13. Sugimori H: Evaluating the Overall Accuracy of Additional Learning and Automatic Classification System for CT Images. *Appl Sci* 9:682, 2019.
14. Manabe O, Oyama-Manabe N, Naya M, Obara M, Kikuchi Y, Aikawa T, Tomiyama Y, Sugimori H, Katoh C, Tamaki N, Anzai T: Reduced Myocardial Flow Reserve Is Associated with Subendocardial Infarction and Coronary Stenosis in Patients with Coronary Artery Disease: A Perfusion MRI Study. *Cardiovasc Imaging. Asia* 3:8-14, 2019.
15. Matsuya Y, McMahan SJ, Tsutsumi K, Sasaki K, Okuyama G, Yoshii Y, Mori R, Oikawa J, Prise KM, Date H: Investigation of dose-rate effects and cell-cycle distribution under protracted exposure to ionizing radiation for various dose-rates. *Sci Rep.* 8:8287, 2018.
16. Okunuki T, Koshino Y, Yamanaka M, Tsutsumi K, Igarashi M, Samukawa M, Saitoh H, Tohyama H: Forefoot and hindfoot kinematics in subjects with medial tibial stress syndrome during walking and running. *J Orthop Res.*37:927-932, 2019.
17. Fujioka Y, Satoh AO, Horiuchi K, Fujioka M, Tsutsumi K, Sasaki J, Nepal P, Kashiwagi S, Paudel S, Nishide S, Nanbo A, Sasaki T, Ohba Y: A Peptide Derived from Phosphoinositide 3-kinase Inhibits Endocytosis and Influenza Virus Infection. *Cell Struct Funct.* 44:61-74, 2019.
18. Suzuki T, Shimoda T, Takahashi N, Tsutsumi K, Samukawa M, Yoshimura S, Ogasawara K: Factors Affecting Bone Mineral Density Among Snowy Region Residents in Japan: Analysis Using Multiple Linear Regression and Bayesian Network Model. *Interact J Med Res.* 7:e10. doi: 10.2196/ijmr.8555. , 2018.
19. Yamashina H, Arai A, Obayashi Y, Mishima T, and Tamashiro H: Teachers Perspective on Sexual Health and Relationship Education in Japan: A Qualitative Semi-structured Interview Study. *Asia-Pacific Social Science Review* 18(1):184-192, 2018.
20. Suzuki T, Isomi Y, Tsuji S, Tani Y, Tanikawa T, Yamasina H, Ogasawara K. Penetration factors and introduction possibility for image diagnostic equipment. *Health Policy and Technology* 7: 142-148, 2018.
21. Takagi S, Yaegashi T, Ishikawa M: Relationship Between Tube Voltage and Physical Image Quality of Pulmonary Nodules on Chest Radiographs Obtained Using the Bone-Suppression Technique. *Acad Radiol* 2018 Sep 28. doi: 10.1016/j.acra.2018.08.017. [Epub ahead of print]
22. Takagi S, Hanasaki N: Relationship between Injection Rate and Contrast Enhancement on Three-dimensional Digital Subtraction Angiography of the Cerebral Arteries. *J Belg Soc Radiol* 2018 Dec 3. doi: 10.5334/jbsr.1619.

V. 研究活動

23. 山品博子, 榊原久孝, 浅野みどり, 伊藤恵美, 里中綾子: ミャンマーの健康状況に関する現地視察報告. 日本看護医療学会雑誌 20:55-63, 2018.
24. 辻晶代, 山品博子, 榊原久孝: カンボジア首都及び首都近郊における医療環境整備の現状と課題. 日本看護医療学会雑誌 20:11-15, 2018.

B. 著書

1. 伊達広行(分担): 診療放射線基礎テキストシリーズ2「放射線物理学」. 第4章 物質との相互作用 4.2 電子. 92-111, 共立出版, 2019.3.10

C. 総説, 解説, 論評

1. 山本徹: 投稿者へのアドバイス. 日本放射線技術学会雑誌 74:1201, 2018
2. 神島 保 (分担): 骨・軟部腫瘍の鑑別診断のポイント (第1章) 骨腫瘍 手指の反応性変化の鑑別. S110-S113, 90-99, 画像診断, 秀潤社, 東京, 2019
3. 神島保 (分担): CT・MRI時代の単純X線写真: いつ撮る? どう読む? 骨X線写真 関節炎. 90-99, 画像診断, 秀潤社, 東京, 2019
4. 神島保 (分担): 関節リウマチの画像診断 関節リウマチの臨床と画像 放射線科医の立場から. 626-629, 画像診断, 秀潤社, 東京, 2019
5. 神島保 (分担): 症例から迫る! 関節疾患のMRI診断新入門 関節炎. 590-600, 画像診断, 秀潤社, 東京, 2019

D. 報告書

1. 丹羽茉衣花, 谷内淑恵, 吉井勇治, 松谷悠佑, 伊達広行: 乳房X線撮影における生物的影響の推定. 日本放射線技術学会 第74回北海道部会秋季大会報告, 北海道放射線技術雑誌 (2019)
2. 寺嶋真凜, 溝延数房, 松谷悠佑, 伊達広行: PMMAファントムを用いた320列MDCTにおける線量計算—ヒール効果の考慮—. 日本放射線技術学会 第74回北海道部会秋季大会報告, 北海道放射線技術雑誌 (2019)

E. その他

[受賞]

1. SNMMI(Society of Nuclear Medicine and Molecular Imaging) 2018.6.26, Philadelphia, USA, International Best Abstract Award 「ECG-gated dynamic myocardial PET with 15O-H₂O estimated lower perfusable tissue fraction in the ischemic myocardial lesions compared with conventional non-gated PET」(加藤千恵次)
2. 平成30年日本放射線技術学会 北海道支部 秋季大会研究発表 優秀研究賞 「乳房X線撮影による生物学的影響の推定」(伊達広行共著者)
3. 平成30年日本放射線技術学会 北海道支部 秋季大会研究発表 優秀研究賞 「PMMAファントムを用いた320列ADCTにおける線量計算—ヒール効果の考慮—」(伊達広行共著者)
4. 英語プレゼンテーション賞 「フィルムを用いた線量分布解析におけるファントム設置誤差に起因する線量誤差の推定」(石川正純)

V. 研究活動

5. ベストプレゼンテーション賞 「BNCT 用加速器中性子源のための円柱型中性子スペクトロメータの開発」
(石川正純)

[学会研究会の主催]

[特許]

1. Radiation dosimeter and radiation dose computing program 石川正純 2018.11.14
DE: 602007056833.1 国立大学法人北海道大学
2. Radiation dosimeter and radiation dose computing program 石川正純 2018.11.14
FR: 2077457 国立大学法人北海道大学
3. Radiation dosimeter and radiation dose computing program 石川正純 2018.11.14
GB: 2077457 国立大学法人北海道大学
4. X-ray therapy system and irradiation field determining method 石川正純, 吉田光宏,
半田隆信, 青井辰史 2018.11.13 US: 10124193 国立大学法人北海道大学, 株式会社日立製作所
5. Scintillator and radiation dosimeter using same 石川正純 2018.12.4 US: 10145963
国立大学法人北海道大学

[報道]

F. 学会発表

A) 招待講演

[国際学会]

1. kamishima T: Quantitative Imaging of Rheumatoid Arthritis. The 12th Musculoskeletal Imaging Forum (MIF), 北京 CNCC, 2019.4.21
2. kamishima T: Refresher Course 10: Inflammatory Arthritides Update, "MRI of Rheumatoid Arthritis (RA)". 20th Annual Meeting of the Asian Musculoskeletal Society (AMS) Chennai, India, 2018.8.9
3. Kamishima T: "QCT of muscle and fats". AMS2019, 2019.2.20, Riyadh, Saudi Arabia
4. Kamishima T: "Quantitative approach to rheumatoid arthritis". AMS2019, 2019.2.20, Riyadh, Saudi Arabia
5. Yamashina H: Mammography Education and Training. "Faculty and Instructional Development Workshop for Rad Tech Teaching in Myanmar", 7th Myanmar Medical Radiation Technologists Conference, Mandalay, Myanmar, 2018.12.
6. Yamashina H: Ethics. "Faculty and Instructional Development Workshop for Rad Tech Teaching in Myanmar", 7th Myanmar Medical Radiation Technologists Conference, Mandalay, Myanmar, 2018.12.

[国内学会]

1. 山本徹: 研究倫理の厳格化 —あなたの研究は 発表できなくなる—, 第115回日本医学物理学会学術大会, 横浜, 2018.4.13.

V. 研究活動

2. 山本 徹: Suggestions and Advice as Reviewer (MRI, Nuclear Medicine and Informatics), JRC2018, 横浜, 2018.4.15.
3. 山本徹: MRI 装置のハードウェア. 第24 回講演会「MRI 安全性 安全性 の考え方」, 東京, 2019.3.9.
4. 神島保: 「関節リウマチの画像診断」. 第29 回骨軟部放射線診断セミナー, 大阪, 2018.8.3
5. 神島保: 総合診療セミナー 7 骨軟部① 「手の画像診断」. 第54 回日本医学放射線学会秋季臨床大会, 福岡, 2018.10.6
6. 神島保: 「軟部腫瘍・腫瘍類似疾患の画像診断」. 第47 回断層映像研究会, 札幌, 2018.10.19
7. 神島保: ズバリ! 診断できる骨軟部疾患「関節炎」. 第32 回JCR ミッドウィンターセミナー, 札幌, 2019.1.19
8. 神島保: 特別講演 「膠原病の画像診断」. 第2 回苫小牧画像研究会講演会, 苫小牧, 2018.4.26
9. 石川正純: 【企画セッション】医学・医療分野の放射線計測技術「写らない診断領域 X 線用線量計の開発」. 第51 回日本保健物理学会, 札幌, 2018.6.
10. 石川正純: 専門部会講座 (放射線治療部会: 専門編3)「線量勾配を考慮した新しい線量分布検証アルゴリズム開発への挑戦」. 第46 回日本放射線技術学会秋季大会, 仙台, 2018.10.
11. 石川正純: シンポジウムS11 (原子力分野における中性子計測制御技術の展望)「中性子捕捉療法における線量評価と熱中性子計測技術の開発」. 平成31 年電気学会全国大会, 札幌, 2019.3.

B) 一般演題

[国際学会]

1. Tang M, Kawahira S, Yamamoto T: Torque abnormality of Ti alloy in a static magnetic field. International Society for Magnetic Resonance in Medicine 26th Annual Meeting and Exhibition, Paris, France, 2018.6. (Proc. Intl. Soc. Magn. Reson. Med. 26:4063.)
2. Nitanda Y, Tang M, Yamamoto T: Influence of smoking on cerebral arteriolar vasomotor function: evaluation by using magnetic resonance signal fluctuation. International Society for Magnetic Resonance in Medicine 26th Annual Meeting and Exhibition, Paris, France, 2018.6. (Proc. Intl. Soc. Magn. Reson. Med. 26:4803.)
3. Moriyama K, Sugimori H, Fujima N, Yamamoto T: Evaluation of a new semi-automatic delineation method for quantitative analysis of tumors: application to head and neck squamous cell carcinoma. International Society for Magnetic Resonance in Medicine 26th Annual Meeting and Exhibition, Paris, France, 2018.6. (Proc. Intl. Soc. Magn. Reson. Med. 26:5409.)
4. Moriyama K, Sugimori H, Fujima N, Yamamoto T: Reliability of a new semi-automatic delineation of tumor region for analysis of diffusion weighted images of head and neck squamous cell carcinoma. World Congress on Medical Physics & Biomedical Engineering, Prague, Czech republic, 2018.6.
5. Katoh C, Kato S, Kawauchi K, Aikawa T, Naya M, Magota K, Manabe O, Shiga T: ECG-gated dynamic myocardial PET with ^{15}O -H $_2\text{O}$ estimated lower perfusable tissue fraction in the ischemic myocardial lesions compared with conventional non-gated PET. Seminar of Nuclear Medicine and Molecular Imaging (SNMMI) 2018 Annual Meeting, Philadelphia, USA, 2018.6.

V . 研究活動

6. Katoh C, Kato S, Kawauchi K, Aikawa T, Naya M, Magota K, Manabe O, Shiga T: Strategy to improve the detectability of CFR in the ischemic myocardial lesion with ECG-gated dynamic myocardial PET with ^{15}O -H $_2\text{O}$: Comparison with conventional non-gated PET. Seminar of Nuclear Medicine and Molecular Imaging (SNMMI) 2018 Annual Meeting, Philadelphia, USA, 2018.6.
7. Ichikawa S, Hirata K, Katoh C: Development of automatic extraction system for brain tumor ROI of ^{11}C -methionine PET. Seminar of Nuclear Medicine and Molecular Imaging (SNMMI) 2018 Annual Meeting, Philadelphia, USA, 2018.6.
8. Kawauchi K, Hirata K, Katoh C: Development of a system to cope with patient misunderstanding in FDG - PET examination using convolutional neural network. Seminar of Nuclear Medicine and Molecular Imaging (SNMMI) 2018 Annual Meeting, Philadelphia, USA, 2018.6.
9. Kawauchi K, Hirata K, Katoh C: Strategy to develop convolutional neural network-based classifier for diagnosis of whole-body FDG PET images. Seminar of Nuclear Medicine and Molecular Imaging (SNMMI) 2018 Annual Meeting, Philadelphia, USA, 2018.6.
10. Kato S, Kawauchi K, Katoh C: Comparison of electrocardiogram synchronization and asynchronization in myocardial blood flow measurement with ^{15}O -H $_2\text{O}$ PET. Seminar of Nuclear Medicine and Molecular Imaging (SNMMI) 2018 Annual Meeting, Philadelphia, USA, 2018.6.
11. R. Saga, Y. Matsuya, R. Takahashi, K. Hasegawa, H. Date, Y. Hosokawa. Fundamental Study for Radioresistance Prediction in Prostate Cancer Using Stochastic model. 9th International Conference on High Level Environmental Radiation Areas - For Understanding Chronic Low-Dose-Rate Radiation Exposure Health Effects and Social Impacts (ICHLERA 2018), 2018.9.24-27, Hirosaki, Aomori, Japan
12. M. Terashima, K. Mizonobe, Y. Matsuya, H. Date. Examination of dose distribution in 320-row multi detector CT (MDCT). The 5th meeting of educational symposium of radiation and health (ESRAH), 2018.9.29-30, Sapporo, Hokkaido, Japan (Poster)
13. S. Naijyo, Y. Matsuya, H. Date. Cell surviving fraction model for multi-fractionated radiotherapy considering cancer stem cells (CSCs). The 5th meeting of educational symposium of radiation and health (ESRAH), 2018.9.29-30, Sapporo, Hokkaido, Japan (Poster)
14. T. Miyao, Y. Matsuya, H. Date. Estimation of biological effect on normal and tumor cells in IMRT. The 5th meeting of educational symposium of radiation and health (ESRAH), 2018.9.29-30, Sapporo, Hokkaido, Japan (Poster)
15. Y. Yachi, Y. Yoshii, Y. Matsuya, H. Date. Effects of X-rays energy spectrum and electron track structure on DNA damage. The 5th meeting of educational symposium of radiation and health (ESRAH), 2018.9.29-30, Sapporo, Hokkaido, Japan (Poster)
16. J. Oikawa, Y. Matsuya, N. Hamada, H. Date. Modeling for colony formation of human lens epithelial cells following ionizing radiation exposure. The 5th meeting of educational symposium of radiation and health (ESRAH), 2018.9.29-30, Sapporo, Hokkaido, Japan (Poster)
17. C. Yu, Y. Matsuya, M. Ishikawa, H. Date. Cell responses of lung cancer after exposure to X-rays following in-field and out-of-field configuration. The 18th AOCMP & The 16th SECOMP, 2018.11.11-14, Connexion Convention & Event Centre Bangsar South, Kuala Lumpur, Malaysia (Oral)

V . 研究活動

18. Y. Yachi, Y. Yoshii, Y. Matsuya, H. Date. Micro- and nano-dosimetric analyses of the energy deposition by ionizing radiations. The 18th AOCMP & The 16th SECOMP, 2018.11.11-14, Connexion Convention & Event Centre Bangsar South, Kuala Lumpur, Malaysia (Oral)
19. Baba K, Ishikawa M.: Calculation of the response matrix of a PMMA cylindrical neutron spectrometer in consideration of angle distribution. 18th International Congress of Neutron Capture Therapy, Taipei, Taiwan, 2018.10.
20. Aoike T, Fujima N, Yoneyama M, Ishizaka K, Sugimori H, Kudo K: Development of the fast 3D-MR neurography using the optimized combination of the compressed sensing and parallel imaging. Joint Annual Meeting ISMRM-ESMRMB, Paris, 2018.6.
21. Moriyama K, Sugimori H, Fujima N, Yamamoto T: Evaluation of a new semi-automatic delineation method for quantitative analysis of tumors: application to head and neck squamous cell carcinoma. Joint Annual Meeting ISMRM-ESMRMB, Paris, 2018.6.
22. Kaori Tsutsumi¹, Tatsuya Sasase², Nagahito Saito³, Toshikazu Shiba: PolyP promotes cellular calcification in association with ATP depletion and mitochondrial swelling. The 9th World Congress on Targeting Mitochondria, Berlin, Germany, 2018.10.
23. Yamashina H: Prevalence of mammographic Dense Breast in Hokkaido, Japan: a Preliminary Result. 7th Myanmar Medical Radiation Technologists Conference, Mandalay, Myanmar, 2018.12.
24. Moriyama K, Tang M, Sugimori H, Yamamoto T: Reliability of a new semi-automatic delineation of tumor region for analysis of characteristics of head and neck squamous cell carcinoma. World Congress on Medical Physics and Biomedical Engineering, Prague, Czech Republic, 2018.6
25. Tang M, Kawahira S, Nomura N, Yamamoto T: Torque abnormality of Ti alloy in a static magnetic field. International Society for Magnetic Resonance in Medicine 26th Annual Meeting and Exhibition, Paris, France, 2018.6.
26. Nitanda Y, Tang M, Yamamoto T: Influences of smoking on cerebral arteriolar vasomotor function: evaluation by using magnetic resonance signal fluctuation. International Society for Magnetic Resonance in Medicine 26th Annual Meeting and Exhibition, Paris, France, 2018.6.

[国内学会]

1. Masuyama K, Taguchi M, Yamamoto T. Enhancement of MRI signal changes due to paramagnetic substance in cell-mimetic viscous solution. 医学物理 . 2018;38S1:162.
2. Nitanda Y, Tang M, Yamamoto T. Improvement of Measurements of Cerebral Arteriolar Vasomotor Function Using MRI. 医学物理 . 2018;38S1:163.
3. Haruyama T, Tang M, Yamamoto T. Simulation analysis of electric field strength induced in a conductive loop during MRI examinations. Proceedings of the 115 Scientific Meeting of JSMP, 医学物理 . 2018; 38S1:164.
4. Moriyama K, Sugimori H, Fujima N, Yamamoto T. A new semi-automatic ROI setting to delineate head and neck squamous cell carcinoma. 医学物理 . 2018;38S1:165.
5. 二丹田優介, 唐明輝, 山本徹. 細動脈収縮拡張機能評価法の改善— 一時系列 MR 信号解析における心拍高調波除去法及び Hamming 窓の効果 —. 第 46 回日本磁気共鳴医学会大会, 金沢, 2018.9.

V. 研究活動

6. 春山卓哉, 唐明輝, 山本徹. 導電性ループに誘起される電界強度のシミュレーション解析. 第46回日本磁気共鳴医学会大会, 金沢, 2018.9.
7. 木戸愛弓, 下原さくら, 二丹田優介, 唐明輝, 俵紀行, 寒川美奈, 山本徹. 骨格筋 T2 による筋活動の評価— 一手関節掌屈運動の利き手・非利き手の違い—. 第46回日本磁気共鳴医学会大会, 金沢, 2018.9.
8. 増山研, 唐明輝, 東藤正浩, 山本徹. 皮質骨 UTE 信号の年齢依存性. 第46回日本磁気共鳴医学会大会, 金沢, 2018.9.
9. Masuyama K, Tang M, Todoh M, Yamamoto T. MR signal that reflects the internal structure of cortical bone: dependence of the angle between the bone axis and the static field direction. 医学物理. 2018;38S3:27.
10. Tang M, Nitanda Y, Yamamoto T. Evaluation of influence of smoking on cerebral arteriolar vasomotor function. 医学物理. 2018;38S3:28.
11. 加藤千恵次, 加藤晋也, 孫田恵一, 真鍋治, 志賀哲: 「H₂O 心電図同期ダイナミック PET での虚血心筋 perfusable tissue fraction 解析」. 第58回日本核医学会学術総会, 宜野湾, 2018.11.
12. 松倉吉彦, 平田健司, 加藤千恵次: 「悪性リンパ腫のステージングの自動診断支援ソフトウェアの開発」. 第38回日本核医学技術学会総会学術大会, 宜野湾, 2018.11.
13. 川内敬介, 平田健司, 市川晟也, 加藤千恵次: 「畳込みニューラルネットワークを用いた FDGPET/CT 画像診断支援システムの開発」. 第38回日本核医学技術学会総会学術大会, 宜野湾, 2018.11.
14. 市川晟也, 平田健司, 川内敬介, 加藤千恵次: 「CNN を用いた 11C-methionine PET の腫瘍境界自動設定システムの考案」. 第38回日本核医学技術学会総会学術大会, 宜野湾, 2018.11.
15. 加藤晋也, 川内敬介, 加藤千恵次: 「15O-H₂O 心電図同期 PET による拡張期抽出および deep learning を用いた ROI 設定の試み」. 第38回日本核医学技術学会総会学術大会, 宜野湾, 2018.11.
16. 川内敬介, 平田健司, 市川晟也, 加藤千恵次: 「深層学習を用いた FDGPET/CT 検査における患者誤認防止システムの開発」. 第1回日本医用画像人工知能研究会学術集会, 福岡, 2018.10.
17. 加藤千恵次, 加藤晋也, 川内敬介, 相川忠雄, 納谷昌直, 孫田恵一, 真鍋治, 志賀哲: 「Quantitative evaluation of ischemic myocardium using dynamic CT: Comparison with 15O-H₂O PET」. 第77回日本医学放射線学会総会, 横浜, 2018.4.
18. 加藤晋也, 加藤千恵次: 「Comparison of electrocardiogram synchronization and asynchronization in myocardial blood flow measurement with 15O-H₂O PET」. 日本放射線技術学会第74回総会学術大会, 横浜, 2018.4.
19. 市川晟也, 平田健司, 加藤千恵次: 「Discrimination of Brain Tumor of 11C Methionine PET Image by Deep Learning」. 日本放射線技術学会第74回総会学術大会, 横浜, 2018.4.
20. 川内敬介, 平田健司, 加藤千恵次: 「Investigation of usefulness of deep learning in FDG-PET image analysis」. 日本放射線技術学会第74回総会学術大会, 横浜, 2018.4.
21. Y. Yachi, Y. Yoshii, Y. Matsuya, H. Date. Microdosimetric evaluation of photon-energy dependence on biological effectiveness. 第115回日本医学物理学会学術大会, パシフィコ横浜, 横浜, 2018.4.12-15
22. 宮尾珠央, 松谷悠佑, 山田亮太, 伊達広行. 放射線治療時の生存率モデル選択とその不確定性解析. 第75回日本放射線技術学会総会学術大会, パシフィコ横浜, 横浜, 2018.4.12-15
23. 内城信吾, 松谷悠佑, 山田亮太, 森諒輔, 伊達広行. 腫瘍細胞数の増殖能の定量化と細胞生存率モデルへの考慮. 第75回日本放射線技術学会総会学術大会, パシフィコ横浜, 横浜, 2018.4.12-15

V. 研究活動

24. 松谷悠佑, 浜田信行, 伊達広行, 佐藤達彦. セシウムボール被ばくによる細胞核線量と DNA 損傷の推定. 日本保健物理学会第 51 回研究発表会, ライフォートホテル, 札幌, 2018.6.29-30
25. 及川青亮, 浜田信行, 伊達広行. 水晶体上皮細胞の過増殖コロニーモデル. 日本保健物理学会第 51 回研究発表会, ライフォートホテル, 札幌, 2018.6.29-30
26. 谷内淑恵, 吉井勇冶, 松谷悠佑, 伊達広行. 核内誘発 DNA 損傷数に関する光子・電子エネルギーの依存性. 日本保健物理学会第 51 回研究発表会, ライフォートホテル, 札幌, 2018.6.29-30
27. 寺嶋真凜, 溝延数房, 松谷悠佑, 伊達広行. 320 列 CT 被ばく量のモンテカルロ計算へ向けたビームモデル開発. 第 116 回日本医学物理学会学術大会, アイーナいわて県民情報交流センター, 岩手, 2018.9.15-17
28. 及川青亮, 松谷悠佑, 浜田信行, 伊達広行. 水晶体上皮細胞のコロニー形成モデル. 日本放射線影響学会第 61 回大会, 長崎市ブリックホール, 長崎, 2018.11.7-9
29. S. Naijyo, Y. Matsuya, H. Date. Impacts of the cancer stem cells on the surviving fraction under multi-fractionated irradiations. 日本放射線影響学会第 61 回大会, 長崎市ブリックホール, 長崎, 2018.11.7-9
30. 高橋玲, 嵯峨涼, 松谷悠佑, 長谷川和輝, 伊達広行, 細川洋一郎. 放射線抵抗性癌幹細胞を考慮した線量応答とモデル解析. 日本放射線影響学会第 61 回大会, 長崎市ブリックホール, 長崎, 2018.11.7-9
31. Tamotsu Kamishima, Aimi Taguchi, Kazuki Kato, Yuki Tanaka, Shun Shishido, Kenneth Sutherland, Nobutoshi Yasojima, Kenichi Tamura, Keitaro Sato, Koichi Murakami, Shunichi Ueda, Kazuyuki Minowa, Nozomi Oki, Kou Chiba, Masataka Uetani: "Quantitative Assessment of Joint Space in Phantom Simulating Small Joint Using Original Software: Performance of Other Clinical CTs in Comparison with HR-pQCT" 第 74 回日本放射線技術学会総会学術大会, 横浜, 2018.4.12
32. Kazuki Kato, Nobutoshi Yasozima, Kenichi Tamura, Shota Ichikawa, Kenneth Sutherland, Tamotsu Kamishima: "Radiographic quantification of joint space width difference using computer-based method; a phantom study" 第 74 回日本放射線技術学会総会学術大会, 横浜, 2018.4.12
33. Shun Shishido, Tamotsu Kamishima, Eiji Takahashi, Shota Ichikawa: "Failure analysis of full-automatic software to detect interval finger joint space narrowing progression in RA patients" 第 74 回日本放射線技術学会総会学術大会, 横浜, 2018.4.12
34. Yuki Tanaka, Tamotsu Kamishima, Eiji Takahashi, Shota Ichikawa: "Validation of full-automatic software to detect joint space narrowing in the hand of rheumatoid arthritis patients using computer-based temporal subtraction method" 第 30 回骨軟部放射線研究会, 広島, 2019.1.26
35. Motoshi Fujimori, Tamotsu Kamishima, Yumika Seno, Hiroyuki Sugimori, Mutsumi Nishida, Tatsuya Atsumi: "Composite Assessment of Ultrasonography and MRI Improves the Prognostic Power of Joint Destruction on Radiograph in Rheumatoid Arthritis on Biological Disease-modifying Antirheumatic Drugs (bDMARDs)" 第 74 回日本放射線技術学会総会学術大会, 横浜, 2018.4.12
36. Yusuke Noumura, Tamotsu Kamishima, Hideho Nishimura, Kenneth Sutherland: "Determination of Anatomical Slice Location Reflecting Changes in Visceral Adipose Tissue Volume Using Computed Tomography" 第 74 回日本放射線技術学会総会学術大会, 横浜, 2018.4.12
37. Tamotsu Kamishima, Motoshi Fujimori, Kouichi Murakami, Hiroyuki Sugimori, Yutong Lu, Kenneth Sutherland, Nozomi Oki, Takatoshi Aoki: "Intravoxel Incoherent Motion MRI for Discrimination of Synovial Proliferation in the Hand Arthritis: A Prospective Proof of Concept Study" 第 30 回骨軟部放射線研究会, 広島, 2019.1.26

V. 研究活動

38. 石川正純, 奈良一志, 瀧上誠, 小島秀樹:「フィルムを用いた線量分布解析におけるファントム設置誤差に起因する線量誤差の推定」. 第 115 回日本医学物理学会学術大会, 横浜, 2018.4.(英語プレゼンテーション賞受賞)
39. 齋藤翔太, 長瀬尚巳, 平塚純一, 石川正純:「高線量率密封小線源治療のためのリアルタイム品質保証システムの開発」. 第 115 回日本医学物理学会学術大会, 横浜, 2018.4.
40. 小島秀樹, 瀧上誠, 浅野友洋, 奈良一志, 石川正純:「フィルム線量校正における Red-Green 比を用いたスキャン位置による感度不均一補正の試み」. 第 115 回日本医学物理学会学術大会, 横浜, 2018.4.
41. 齋藤翔太, 長瀬尚巳, 平塚純一, 鈴木恵士郎, 鈴木隆, 石川正純:「HDR 密封小線源治療のためのリアルタイム QA システムの開発」. 日本放射線腫瘍学会小線源部会第 20 回学術大会, つくば, 2018.7.
42. 馬場健太郎, 石川正純:「BNCT 用加速器中性子源のための円柱型中性子スペクトロメータの開発」. 第 15 回日本中性子捕捉療法学会学術大会, 札幌, 2018.9. (ベストプレゼンテーション賞受賞)
43. 馬場健太郎, 石川正純:「乱数を用いた NASBEE 中性子照射場を再現する中性子線源生成手法の開発」. 第 15 回日本中性子捕捉療法学会学術大会, 札幌, 2018.9.
44. 石川正純, 奈良一志, 瀧上誠, 浅野友洋, 磯村泰己:「新しい線量分布解析法における統計的合否判定基準に関する考察」. 日本放射線腫瘍学会第 31 回学術大会, 京都, 2018.10.
45. 竹内啓太, 奈良一志, 石川正純:「EPID を用いた MLC 動作異常検知ソフトウェアの開発」. 日本放射線腫瘍学会第 31 回学術大会, 京都, 2018.10.
46. 石川正純, 齋藤翔太, 長瀬尚巳, 平塚純一:「SOF 線量計を用いた Ir-192 高線量率密封小線源治療用品質保証システムの開発」, 第 32 回高精度放射線外部照射部会学術大会, 東京, 2019.3.
47. 田川義晃, 大口剛司, 杉森博行, タ・キンキン, 木嶋理紀, 岩田大樹, 田川義継, 石田晋: ドライアイ症状を有する患者の安静時機能的 MRI による検討. 第 122 回日本眼科学会総会, 大阪, 2018.4.
48. 田川義晃, 杉森博行, ThaKhinKhin, 石田晋: 眼痛を有する患者の安静時機能的 MRI による検討. 第 40 回日本疼痛学会, 福岡, 2018.6.
49. 田川義晃, 杉森博行, ThaKhinKhin: 眼の痛みおよび乾きを有する患者の安静時機能的 MRI による検討. 日本ペインクリニック学会第 52 回大会, 東京, 2018.7.
50. 川崎智博, 石坂欣也, タキンキン, 堤香織: DTI における撮像断面の違いが FA 値, Fiber Tract の描出に与える影響について～ Phantom Study ～第 46 回日本放射線技術学会秋季学術大会, 仙台, 2018.10.
51. 奥貫拓実, 越野裕太, 山中正紀, 堤香織, 寒川美奈, 遠山晴一: Medial tibial stress syndrome 症例における歩行・走行時の足部 kinematics. 第 1 回 足の構造と機能研究会 学術集会, 大阪, 2018.5.13.
52. Nitanda Y, Tang M, Yamamoto T: Improvement of measurements of cerebral arteriolar vasomotor function using MRI. The 115th Scientific Meeting of JSMP, Yokohama, 2018.4.
53. Haruyama T, Tang M, Yamamoto T: Simulation analysis of electric field strength induced in a conductive loop during MRI examinations. The 115th Scientific Meeting of JSMP, Yokohama, 2018.4.
54. Nitanda Y, Tang M, Yamamoto T: Improvement of the Evaluation Method of Cerebral Arteriolar Vasomotor Function by Time Series MR Signal Analysis. 第 46 回日本磁気共鳴医学会大会, 金沢, 2018.9.
55. Kido A, Shimohara S, Nitanda Y, Tang M, Tawara N, Samukawa, M, Yamamoto T: Evaluation of the muscle activity by T2 mapping -The handedness difference in exercise of wrist volar flexion-. 第 46 回日本磁気共鳴医学会大会, 金沢, 2018.9.

V. 研究活動

56. Masuyama K, Tang M, Todo M, Yamamoto T: Age dependency of UTE signal from cortical bone. 第46回日本磁気共鳴医学会大会, 金沢, 2018.9.
57. Haruyama T, Tang M, Yamamoto T: Simulation analysis of electric field strength induced in a conductive loop. 第46回日本磁気共鳴医学会大会, 金沢, 2018.9.
58. Masuyama K, Tang M, Todo M, Yamamoto T: MR signal that reflects the internal structure of cortical bone: dependence of the angle between the bone axis and the static magnetic field direction. The 116th Scientific Meeting of JSMP, Morioka, 2018.9.
59. Tang M, Nitanda Y, Yamamoto T: MRIによる細動脈収縮拡張機能の評価—喫煙による影響—. The 116th Scientific Meeting of JSMP, Morioka, 2018.9.

[地方会]

1. 中村瑠委, 松谷悠佑, 内城信吾, 伊達広行. 放射線照射に対する酸素増感効果および細胞周期依存性を考慮した細胞生存率モデル. 日本放射線技術学会 第74回北海道部会秋季大会, 札幌医科大学, 札幌, 2018.11.24-25
2. 宮尾珠央, 松谷悠佑, 伊達広行. 強度変調放射線治療時における正常細胞とがん細胞の生物学的効果のベイズ解析. 日本放射線技術学会 第74回北海道部会秋季大会, 札幌医科大学, 札幌, 2018.11.24-25
3. 寺嶋真凜, 溝延数房, 松谷悠佑, 伊達広行. PMMAファントムを用いた320列MDCTにおける線量計算—ヒール効果の考慮—. 日本放射線技術学会 第74回北海道部会秋季大会, 札幌医科大学, 札幌, 2018.11.24-25
4. 丹羽茉衣花, 谷内淑恵, 吉井勇治, 松谷悠佑, 伊達広行. 乳房X線撮影における生物的影響の推定. 日本放射線技術学会 第74回北海道部会秋季大会, 札幌医科大学, 札幌, 2018.11.24-25
5. 山内桃花, 川崎智博, 石坂欣也, 杉森博行, 真鍋徳子: Phase contrast法による位相画像を用いた主肺動脈血管壁剪断応力の評価. 日本放射線技術学会 第74回北海道支部秋季大会, 札幌, 2018.11.
6. 超音波装置を用いたストレス荷重時の足関節前方移動距離計測の試み: 中谷詩世, 館野真理, 堀江達則, 松本和久, 寒川美奈, 遠山晴一, 堤香織, 日本超音波検査学会北海道第35回地方会研修会, 札幌, 2018.12.
7. 唐明輝: RF熱傷事故の原因と対策—電磁界シミュレーション解析—. 第19回山梨MRI技術研究会. 甲府, 2018.6.

■業績

病態解析学分野

A. 学術論文

1. Watanabe T, Yamazaki S, Maita C, Matsushita M, Matsuo J, Okubo T, Yamaguchi H: Lateral Gene Transfer Between Protozoa-Related Giant Viruses of Family Mimiviridae and Chlamydiae. *Evol Bioinform Online* 14:1176934318788337, 2018.
2. Taki K, Watanabe T, Matsuo J, Sakai K, Okubo T, Matsushita M, Abe K, Minami K, Yamaguchi H: Impact of bacterial traces belonging to the Enterobacteriaceae on the prevalence of Chlamydia trachomatis in women visiting a community hospital in Japan. *J Infect Chemother* 24:815-821, 2018.
3. Yamaguchi Y, Okubo T, Matsushita M, Wataji M, Iwasaki S, Hayasaka K, Akizawa K, Matsuo J, Shimizu C, Yamaguchi H: Analysis of adult damselfly fecal material aids in the estimation of antibiotic-resistant Enterobacterales contamination of the local environment. *PeerJ* 6:e5755, 2018.
4. Matsushita M, Okubo T, Hasegawa T, Matsuo J, Watanabe T, Iwasaki S, Fukumoto T, Hayasaka K, Akizawa K, Shimizu C, Yamaguchi H: Tetrahymena promotes interactive transfer of carbapenemase gene encoded in plasmid between fecal Escherichia coli and environmental Aeromonas caviae. *Microbiol Immunol* 62:720-728, 2018.
5. Okubo T, Matsushita M, Nakamura S, Matsuo J, Nagai H, Yamaguchi H: Acanthamoeba S13WT relies on its bacterial endosymbiont to backpack human pathogenic bacteria and resist Legionella infection on solid media. *Environ Microbiol Rep* 10:344-354, 2018.
6. Sakai K, Matsuo J, Watanabe T, Okubo T, Nakamura S, Yamaguchi H: Subtle changes in host cell density cause a serious error in monitoring of the intracellular growth of Chlamydia trachomatis in a low-oxygen environment: proposal for a standardized culture method. *J Microbiol Methods* 153:84-91, 2018.
7. Shrestha R, Miura Y, Hirano KI, Chen Z, Okabe H, Chiba H, Hui SP: Microwave-assisted Derivatization of Fatty Acids for Its Measurement in Milk Using High-Performance Liquid Chromatography. *Anal sci* 34:575-582, 2018.
8. Takeda S, Sakurai T, Hui SP, Fuda H, Chiba H: Effects of enzymes on elastic modulus of low-density lipoproteins were investigated using atomic force microscopy. *Biochem Biophys Res Commun* 501:607-611, 2018.
9. Okabe H, Shimizu C, Yamamoto M, Kikuchi R, Minami A, Chen YF, Imai H, Mizuta M, Chen Z, Chiba H, Hui SP: Determination of Serum 25-Hydroxyvitamin D3 by LC/MS/MS and Its Monthly Variation in Sapporo Indoor Workers. *Anal sci* 34: 1043-1047, 2018.
10. Yamamoto Y, Furukawa T, Takeda S, Kashida H, Chiba H, Hui SP: Examining the effect of regioisomerism on the physico-chemical properties of lysophosphatidyl -ethanolamine-containing liposomes using fluoro probes. *Chem Phys Lipids* 216: 9-16, 2018.
11. Chen Z, Zang L, Wu Y, Nakayama H, Shimada Y, Shrestha R, Zhao Y, Miura Y, Chiba H, Hui SP, Nishimura N: Lipidomic Profiling on Oxidized Phospholipids in Type 2 Diabetes Mellitus Model Zebrafish. *Anal Sci* 34:1201-1208, 2018.

V . 研究活動

12. Morita S, Nakamaru Y, Nakazawa D, Hattanda F, Shida H, Kusunoki Y, Watanabe K, Masuda S, Hoshino K, Fukuda A, Homma A, Tomaru U, Ishizu A: Elevated level of myeloperoxidase-deoxyribonucleic acid complex in the middle ear fluid obtained from patients with otitis media associated with antineutrophil cytoplasmic antibody-associated vasculitis. *Otol Neurotol* 39:e257-e262, 2018.
13. Futamata E, Masuda S, Nishibata Y, Tanaka S, Tomaru U, Ishizu A: Vanishing immunoglobulins: the formation of pauci-immune lesions in myeloperoxidase -antineutrophil cytoplasmic antibody-associated vasculitis. *Nephron* 138:328-330, 2018.
14. Mori A, Nishioka Y, Yamada M, Nishibata Y, Masuda S, Tomaru U, Honma N, Moriyama T, Ishizu A: Brain-derived neurotrophic factor induces angiogenin secretion and nuclear translocation in human umbilical vein endothelial cells. *Pathol Res Pract* 214:521-526, 2018.
15. Nishioka Y, Sonoda T, Shida H, Kusunoki Y, Hattanda F, Tanimura S, Uozumi R, Yamada M, Nishibata Y, Masuda S, Nakazawa D, Tomaru U, Atsumi T, Ishizu A: Detection of autoreactive type II NKT cells: A pilot study of comparison between healthy individuals and patients with vasculitis. *Cytometry A* 93:1157-1164, 2018.
16. Shida H, Hashimoto N, Kusunoki Y, Hattanda F, Ogawa Y, Hayashi T, Nakazawa D, Masuda S, Tomaru U, Ishizu A: Anti-neutrophil extracellular trap antibody in a patient with relapse of anti-neutrophil cytoplasmic antibody-associated vasculitis: a case report. *BMC Nephrol* 19:145, 2018.
17. Hasegawa J, Wakai S, Kono M, Imaizumi Y, Masuda S, Ishizu A, Honda K: An autopsy case of myeloperoxidase-anti-neutrophil cytoplasmic antibody (MPO -ANCA)-associated vasculitis accompanied by cryoglobulinemic vasculitis affecting the kidney, skin, and gastrointestinal tract. *Intern Med* 57:2739-2745, 2018.
18. Okada K, Kaga S, Abiko R, Murayama M, Hioka T, Nakabachi M, Yokoyama S, Nishino H, Ichikawa A, Abe A, Nishida M, Asakawa N, Tsujinaga S, Hayashi T, Iwano H, Yamada S, Masauzi N, Mikami T: Novel echocardiographic method to assess left ventricular chamber stiffness and elevated end-diastolic pressure based on time-velocity integral measurements of pulmonary venous and transmitral flows. *Eur Heart J Cardiovasc Imaging* 19:1260-1267, 2018.
19. Umazume T, Yamada S, Yamada T, Ishikawa S, Furuta I, Iwano H, Murai D, Hayashi T, Okada K, Morikawa M, Tsutsui H, Minakami H: Association of peripartum troponin I levels with left ventricular relaxation in hypertensive women. *Open Heart* 5:e000829, 2018.
20. Umazume T, Yamada T, Yamada S, Ishikawa S, Furuta I, Iwano H, Murai D, Hayashi T, Okada K, Morikawa M, Yamada T, Ono K, Tsutsui H, Minakami H: Morphofunctional cardiac changes in pregnant women: associations with biomarkers. *Open Heart* 5:e000850, 2018.
21. Paudel S, Mikota SK, Thapa J, Lyashchenko KP, Gairhe KP, Dhakal IP, Subedi N, Maharjan B, Subedi S, Kaufman GK, Tsubota T: Serodiagnosis of elephant tuberculosis: a useful tool for early identification of infected elephants at the captive-wild interface. *Eur J Wildl Res* 64:70, 2018.
22. Oo NAT, San LL, Thapa J, Aye KS, Aung WW, Nakajima C, Suzuki Y: Characterization of mutations conferring streptomycin resistance to multidrug -resistant *Mycobacterium tuberculosis* isolates from Myanmar. *Tuberculosis (Edinb)* 111:8-13, 2018.

V . 研究活動

23. Maharjan B, Nakajima C, Isoda N, Thapa J, Poudel A, Shah Y, Yamaguchi T, Shrestha B, Hoffmann H, Avsar K, Shrestha A, Gordon SV, Suzuki Y: Genetic diversity and distribution dynamics of multidrug-resistant *Mycobacterium tuberculosis* isolates in Nepal. *Sci Rep* 8:16634, 2018.
24. Neopane P, Nepal HP, Shrestha R, Uehara O, Abiko Y: In-vitro biofilm formation by *Staphylococcus aureus* isolated from wound of hospital admitted patients and their association with antimicrobial resistance. *Int J Gen Med* 11:25-32, 2018.
25. Neopane P, Paudel D, Shrestha R, Maharjan S, Nepal HP: The association of biofilm formation with antimicrobial resistance in *Acinetobacter baumannii* complex isolated from hospital admitted. *European Journal of Biomedical & Pharmaceutical Sciences* 5:557-562, 2018.
26. Yano R, Okubo T, Shimoda T, Matsuo J, Yamaguchi H: A simple and short microbiology practical improves undergraduate nursing students' awareness of bacterial traits and ability to avoid spreading infections. *BMC Med Educ* 19:53, 2019.
27. Matsuo J, Haga S, Hashimoto K, Okubo T, Ozawa T, Ozaki M, Yamaguchi H: Activation of caspase-3 during *Chlamydia trachomatis*-induced apoptosis at a late stage. *Can J Microbiol* 65:135-143, 2019.
28. Matsuo J, Sakai K, Okubo T, Yamaguchi H: *Chlamydia pneumoniae* enhances Interleukin 8 (IL-8) production with reduced azithromycin sensitivity under hypoxia. *APMIS* 127:131-138, 2019.
29. Okubo T, Yossapol M, Maruyama F, Wampande EM, Kakooza S, Ohya K, Tsuchida S, Asai T, Kabasa JD, Ushida K: Phenotypic and genotypic analyses of antimicrobial-resistant bacteria in livestock in Uganda. *Transbound Emerg Dis* 66:317-326, 2019.
30. Chen Z, Wu Y, Shrestha R, Gao Z, Zhao Y, Miura Y, Tamakoshi A, Chiba H, Hui SP: Determination of total, free and esterified short-chain fatty acid in human serum by liquid chromatography-mass spectrometry. *Ann Clin Biochem* 56:190-197, 2019.
31. Sakurai T, Hayasaka T, Sekiguchi H, Satoh H, Chen Z, Chiba H, Hui SP: Dietary salmon milt extracts attenuate hepatosteatosis and liver dysfunction in diet-induced fatty liver model. *J Sci Food Agric* 99:1675-1681, 2019.
32. Okazaki F, Zang L, Nakayama H, Chen Z, Gao ZJ, Chiba H, Hui SP, Aoki T, Nishimura N, Shimada Y: Microbiome Alteration in Type 2 Diabetes Mellitus Model of Zebrafish. *Surf Sci Rep* 9:867, 2019.
33. Takahashi Y, Ito Y, Sakurai T, Wada N, Nagasaka A, Fujikawa M, Chiba H, Hui SP: A two-step homogeneous assay for apolipoprotein E-containing high-density lipoprotein-cholesterol. *Ann Clin Biochem* 56:123-132, 2019.
34. Morita S, Nakamaru Y, Nakazawa D, Suzuki M, Hoshino K, Fukuda A, Hattanda F, Kusunoki-Watanabe K, Tomaru U, Ishizu A, Homma A: The diagnostic and clinical utility of the myeloperoxidase-deoxyribonucleic acid complex as a biomarker in otitis media with antineutrophil cytoplasmic antibody-associated vasculitis. *Otol Neurotol* 40:e99-e106, 2019.
35. Tomaru U, Konno S, Miyajima S, Kimoto R, Onodera M, Kiuchi S, Murata S, Ishizu A, Kasahara M: Restricted Expression of the Thymoproteasome Is Required for Thymic Selection and Peripheral Homeostasis of CD8+ T Cells. *Cell Rep* 26: 639-651.e2, 2019.

V. 研究活動

36. Yamagata K, Usui J, Nagata M, Sugiyama H, Sada KE, Muso E, Harigai M, Amano K, Atsumi T, Fujimoto S, Yuzawa Y, Kobayashi M, Saito T, Ito T, Hirawa N, Homma S, Dobashi H, Tsuboi N, Ishizu A, Arimura Y, Makino H, Matsuo S; Research Committee of Intractable Renal Disease and the Research Committee of Intractable Vasculitis Syndrome of the Ministry of Health, Labour, and Welfare of Japan: Histopathological classification of anti-neutrophil cytoplasmic antibody -associated glomerulonephritis in a nationwide Japanese prospective 2-year follow-up cohort study. *Clin Exp Nephrol* 23:387-394, 2019.
37. Masuda S, Nonokawa M, Futamata E, Nishibata Y, Iwasaki S, Tsuji T, Hatanaka Y, Nakazawa D, Tanaka S, Tomaru U, Kawakami T, Atsumi T, Ishizu A: Formation and Disordered Degradation of Neutrophil Extracellular Traps in Necrotizing Lesions of Anti-Neutrophil Cytoplasmic Antibody-Associated Vasculitis. *Am J Pathol* 189:839-846, 2019.
38. Nishibata Y, Masuda S, Nakazawa D, Tanaka S, Tomaru U, Nergui M, Xiao-yu J, Cui Z, Zhao MH, Nakabayashi K, Ishizu A: Epitope recognized by anti-glomerular basement membrane (GBM) antibody in a patient with repeated relapse of anti-GBM disease. *Exp Mol Pathol* 107:165-170, 2019.
39. Kawauchi M, Watanabe T, Hattori T, Suzuki A, Ishizu A, Jodo S: Eosinophilic granulomatosis with polyangiitis mimicking peripheral T-cell lymphoma, not otherwise specified. *Sand J Rheumatol* 48:171-172, 2019.
40. Komatsu T, Sakurai T, Wolska A, Amar M, Sakurai A, Vaisman B, Sviridov D, Demosky S, Pryor M, Ikewaki K, Remaley AT: Apolipoprotein C-II Mimetic Peptide Promotes the Plasma Clearance of Triglyceride Rich Lipid Emulsion and the Incorporation of Fatty Acids into Peripheral Tissues of Mice. *J Nutr Metab* (In press).
41. 政氏伸夫, 濱野吉仁, 田中宏明, 藤田良治, 岡田一範, 加賀早苗: 用手法による凝固時間測定実習のための画像教材作成の試み. *臨床検査学教育* 10:226-229, 2018.

B. 著書

1. Ishizu A: Chapter 5. Neutrophilic cell pathobiology in the vasculitides. *The Vasculitides*, 2nd Ed. Edited by Youngers D. vol. 1, pp 95-101, Nova Biomedical, 2019.
2. 櫻井俊宏(分担): 知っておきたい臨床検査値 第2版, 第12章 梅毒血清反応, 東京化学同人, 2019.

C. 総説, 解説, 論評

1. Nishioka Y, Masuda S, Tomaru U, Ishizu A: CD1d-restricted type II NKT cells reactive with endogenous hydrophobic peptides. *Front Immunol* 9:548, 2018.
2. Nakazawa D, Masuda S, Tomaru U, Ishizu A: Pathogenesis and therapeutic interventions for ANCA-associated vasculitis. *Nat Rev Rheumatol* 15:91-101, 2019.
3. 西岡佑介, 石津明洋: 自己血管内皮細胞反応性type II NKT細胞の血管炎における役割. *医学のあゆみ* 265:273-277, 2018.
4. 山田真衣, 石津明洋: 抗ホスファチジルセリン-プロトロンビン複合体抗体による血栓症モデル. *リウマチ科* 59:542-546, 2018.

V. 研究活動

5. 石津明洋:特集「膠原病の病理—今日的視点から—」総論:膠原病の病態形成メカニズムと最新治療 自己寛容破綻と自己抗体産生のメカニズム. 病理と臨床 36:514-517, 2018.
6. 石津明洋:厚生労働省難治性血管炎調査研究班:血管炎病理アトラスと血管炎病理診断コンサルテーションシステム 血管炎(第2版)—基礎と臨床のクロストーク— I. 総論. 日本臨床 76 (増刊号6):64-70, 2018.
7. 岩崎沙理, 石津明洋:顕微鏡的多発血管炎の病理・病態 血管炎(第2版)—基礎と臨床のクロストーク— IV. 小型血管炎 日本臨床 76 (増刊号6):220-225, 2018.
8. 楠由宏, 石津明洋:MPO-ANCA関連血管炎におけるPAD阻害剤によるNETs形成阻害 血管炎(第2版)—基礎と臨床のクロストーク— VIII. 最新の研究トピックス. 日本臨床 76 (増刊号6):483-487, 2018.
9. 益田紗季子, 石津明洋:薬剤起因性自己免疫疾患におけるNETsの関与. リウマチ科 61: 64-68, 2019.
10. 石津明洋:好中球細胞外トラップとMPO-ANCA関連血管炎. 腎臓内科・泌尿器科 9:292 -296, 2019.

D. 報告書

1. 石津明洋:北海道大学における病理・免疫検査学教室の教育と研究. 第13回日本臨床検査学教育学会学術大会 教育講演3:教育と研究の両立、ロールモデルから学ぶ. 臨床検査学教育 11(1):46-48, 2019.

E. その他

[受賞]

1. 櫻井俊宏:食餌由来脂肪肝モデルマウスにおいて鮭白子抽出物の摂取は肝機能障害の改善とミトコンドリアを活性化させる. 第43回日本医用マススペクトル学会年会, 若手優秀ポスター賞, 2018.9.
2. 櫻井俊宏: Dietary α -cyclodextrin reduces atherosclerosis and modifies gut flora in apolipoprotein E-deficient mice. 北海道大学大学院保健科学研究所優秀論文賞, 2018.

[学会研究会の主催]

1. 山口博之: 第13回日本臨床検査学教育学会, 2018.8.
2. 石津明洋: 第24回MPO研究会, 2018.9.

[特許]

1. 出願:非アルコール性脂肪性肝炎の検出を補助する方法. 櫻井俊宏、千葉仁志、恵淑萍、能祖一裕、岡田裕之、伊藤康樹、太田素子 2018.8.23. 特願 2018-156797 櫻井俊宏、千葉仁志、恵淑萍、能祖一裕、岡田裕之、伊藤康樹、太田素子
2. 出願: 原発性胆汁性胆管炎の検出を補助する方法. 櫻井俊宏、千葉仁志、恵淑萍、能祖一裕、岡田裕之、伊藤康樹、太田素子 2018.8.23. 特願 2018-156744 櫻井俊宏、千葉仁志、恵淑萍、能祖一裕、岡田裕之、伊藤康樹、太田素子

[報道]

V. 研究活動

F. 学会発表

A) 招待講演

[国際学会]

1. Hui SP: Analyses of hydroperoxide lipids in human lipoprotein and cell by mass spectrometry. 2018 Annual Medical Laboratory Forum, Taipei Medical University, 2018.10.

[国内学会]

1. 石津明洋：血管炎病理診断コンサルテーションシステム. 第 62 回日本リウマチ学会総会・学術集会特別企画シンポジウム「血管炎診療の最前線」, 東京, 2018.4.
2. 石津明洋：血管病理から考えるリウマチ性疾患. 第 62 回日本リウマチ学会総会・学術集会シンポジウム「病理学的視点から考えるリウマチ性疾患」東京, 2018.4.
3. 石津明洋：血管炎の病理診断のポイント. 第 62 回日本リウマチ学会総会・学術集会 MTE, 東京, 2018.4.
4. 加賀早苗：右心系を極める～右心機能評価の断面設定と計測のポイント～. 第 29 回日本心エコー図学会, 盛岡, 2018.4.
5. 石津明洋：ANCA と ANCA 関連血管炎. 第 107 回日本病理学会総会ワークショップ「病原性自己抗体と腎・血管障害」札幌, 2018.6.
6. 山口博之：クロージングトーク「私たちはどこに向かうのか」第 13 回日本臨床検査学教育学会学術大会, 札幌, 2018. 8.
7. 惠淑萍：教育と研究の両立、ロールモデルから学ぶ 高度脂質分析ラボにおける教育研究 フロンティアへの挑戦. 第 13 回日本臨床検査学教育学会学術大会, 札幌, 2018.8.
8. 惠淑萍：健康科学研究における脂質分析の方法とピットフォール. 第 58 回日本臨床化学学会年次学術集会, 名古屋, 2018.8.
9. 惠淑萍：臨床化学の未病対策への挑戦. 第 58 回日本臨床化学学会年次学術集会, 名古屋, 2018.8.
10. 櫻井俊宏, 高橋祐司, 藤井佑樹, 能祖一裕, 太田素子, 伊藤康樹, 永坂敦, 和田典男, 千葉仁志, 惠淑萍：LDL-TG 測定試薬の臨床検体への応用. 第 58 回日本臨床化学学会年次学術集会, 若手育成シンポジウム, シンポジスト&パネルディスカッション, 名古屋, 2018.8.
11. 陳震, 呉げつ, 馬逸興, 小林悠, 趙瑤瑤, 三浦佑介, 千葉仁志, 惠淑萍：LC/MS を用いたカルジオリピン過酸化物の分析. 第 43 回日本医用マススペクトル学会年会, 札幌, 2018.9.
12. 惠淑萍：nanoESI-MS および LC/MS による過酸化脂質の分析. 第 43 回日本医用マススペクトル学会年会, 札幌, 2018.9.
13. 千葉仁志, 惠淑萍：未病の可視化と臨床検査 質量分析による未病の可視化. 第 25 回日本未病システム学会学術総会, 東京, 2018.10.
14. 石津明洋：好中球細胞外トラップの制御異常と ANCA 関連血管炎. 第 23 回日本血管病理研究会 セッションIV「小血管病変と疾患」下関, 2018.11.

[地方会]

V . 研究活動

B) 一般演題

[国際学会]

1. Watanabe K, Nakazawa D, Kusunoki Y, Hattanda F, Nishio S, Masuda S, Tomaru U, Atsumi T, Ishizu A: EFFECTS OF RECOMBINANT THROMBOMODULIN ON EXPERIMENTAL AUTOIMMUNE VASCULITIS VIA THE INHIBITION OF NEUTROPHIL EXTRACELLULAR TRAPS. The 55th ERA-EDTA, Copenhagen, Denmark, 2018.5.
2. Yamamoto M, Murakami S, Kono K, Hayata R, Nanato K, Shao M, Tsutsumi Y, Okada K, Kaga S, Masauzi N: Quantitative Distinction of Neutrophil Alkaline Phosphatase Score through Texture Analysis using Gray Level Co-occurrence Matrix. 31st International Symposium on Technological Innovations in Laboratory Hematology (ISLH2018), Brussels, Belgium, 2018.5.
3. Nanato K, Goto M, Maeda R, Hashi K, Sugano K, Nishi K, Shao M, Yamamoto M, Kono K, Tsutsumi Y, Okada K, Kaga S, Masauzi N: Process of Changes in Blood Cell Count and Morphology in Peripheral Blood Samples Stored with Antioxidants and Iron Chelators. 31st International Symposium on Technological Innovations in Laboratory Hematology (ISLH2018), Brussels, Belgium, 2018.5.
4. Watanabe K, Nakazawa D, Kusunoki Y, Hattanda F, Nishio S, Masuda S, Tomaru U, Atsumi T, Ishizu A: Recombinant Thrombomodulin (rTM) Reduced Neutrophil Extracellular Trap (NET) Formation and Improved Antineutrophil Cytoplasmic Antibody (ANCA)-Associated Vasculitis in Murine Models. The 10th Congress of the Asian-Pacific Society on Thrombosis and Hemostasis, Sapporo, 2018.6.
5. Okubo T, Shimoda T, Yano R, Nakamura S, Matsuo J, Yamaguchi H: Staphylococcus aureus prompts Escherichia coli survival under dry conditions: A potential threat from the viewpoint of nosocomial infection. ASM microbe 2018, Atlanta, USA, 2018.6.
6. Matsuo J, Haga S, Okubo T, Nakamura S, Ozawa T, Ozaki M, Yamaguchi H: Cyclic Luciferase Probe Reveals Caspase - 3 Activation in Chlamydia - Infected Cells At Late Times During Infection. ASM microbe 2018, Atlanta, USA, 2018.6.
7. Matsushita M, Okubo T, Matsuo J, Nakamura S, Yamaguchi H: Ciliates promote the interactive transfer of plasmid encoding blaNDM-5 between human pathogenic Escherichia coli and environmental Aeromonas caviae. ASM microbe 2018, Atlanta, USA, 2018.6.
8. Sakai K, Matsuo J, Okubo T, Nakamura S, Yamaguchi H: Subtle change of host-cell density causes fatal error on monitoring the intracellular growth of Chlamydia trachomatis in a low-oxygen environment. ASM microbe 2018, Atlanta, USA, 2018.6.
9. Shrestha R, Parajuli S, Neopane P, Khanal M, Jha SC, Jha B: Association of Serum Lipids, Oxidized LDL Antibody and High-Sensitivity C-Reactive Protein with Elevated Liver Enzymes in Subjects with Metabolic Syndrome. The Liver Week 2018, Incheon, South Korea, 2018.6.
10. Tanimura S, Nishida M, Horie T, Kamishima T, Nishibata Y, Masuda S, Nakazawa D, Tomaru U, Atsumi T, Ishizu A: Inhibitory effect of statins on arthritis and its mechanism. 20th Asia Pacific League of Associations for Rheumatology Congress, Kaohsiung, Taiwan, 2018.9.
11. Kapalamula FT, Thapa J, Nakajima C, Mwangala A, Gordon S, Suzuki Y: Establishment of loop mediated isothermal amplification assay for rapid diagnosis of zoonotic tuberculosis. The 49th Union World Conference on Lung Health, Hague, Netherlands, 2018.10.

V. 研究活動

12. Nanato K, Masauzi N, Fukuda T, Kanakura Y, Takaori-Kono A, Eto T, Kurokawa M, Akashi K, Koderu Y, Yabe H: The efficiency of PBSC harvest from family donor, Analysis based on a National prospective Survey from 2000 to 2005. The 23rd Annual Congress of 2018 APBMT, Taipei, Taiwan, 2018.11.
13. Murayama M, Kaga S, Okada K, Nishino H, Yokoyama S, Nakabachi M, Sarashina M, Tsujinaga S, Nishida M, Shibuya H, Nagai T, Iwano H, Anzai T, Mikami T: Simple and completely noninvasive method to estimate right ventricular operating stiffness based on pulmonary regurgitant velocity and tricuspid annular plane movement measurements during atrial contraction. American Heart Association Scientific Sessions, Chicago, USA, 2018.11.
14. Yasuda K, Okada K, Sugimura N, Yamaguchi S, Watanabe K, Yano R: Verification of the effectiveness of tapping and massaging as venodilation techniques for peripheral intravenous cannulation. 22nd East Asian Forum of Nursing Scholars, Singapore, 2019.1.
15. Chen YF, Shrestha R, Chen Z, Chiba H, Hui SP, Okada E, Ukawa S, Nakagawa T, Nakamura K, Tamakoshi A, Komiya Y, Minami Y, Mizuta M: Analyses of serum fatty acids and vitamin D with dimension reduction methods. European conference on Data Analysis, Bayreuth, Germany, 2019.3.

[国内学会]

1. 魚住諒, 益田紗季子, 西端友香, 谷村瞬, 中沢大悟, 外丸詩野, 石津明洋: 免疫グロブリン製剤は好中球細胞外トラップ (NETs) の形成抑制を介して MPO-ANCA 関連血管炎 (MPO-AAV) の発症を抑制する. 第 62 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 東京, 2018.4.
2. 西田睦, 谷村瞬, 神島保, 西端友香, 益田紗季子, 中沢大悟, 外丸詩野, 渥美達也, 石津明洋: 超高周波プローブを用いた Superb Micro-vascular Imaging による超音波検査でのラット足関節の早期関節炎診断. 第 62 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 東京, 2018.4.
3. 岡田一範, 加賀早苗, 三神大世, 政氏伸夫, 村山迪史, 中鉢雅大, 西野久雄, 市川絢子, 横山しのぶ, 西田睦, 更科美羽, 辻永真吾, 林大知, 岩野弘幸, 山田 聡, 安齊俊久: 左房収縮時逆行/順行血流量比による慢性心不全患者の予後予測. 日本心エコー図学会第 29 回学術集会, 盛岡, 2018.4.
4. 更科美羽, 山田 聡, 岩野弘幸, 岡田一範, 辻永真吾, 林大知, 村山迪史, 市川絢子, 中鉢雅大, 横山しのぶ, 西野久雄, 加賀早苗, 安齊俊久: 拡張型心筋症における急速充満期の渦特性と心房収縮期渦を介した駆出機能との関連. 日本心エコー図学会第 29 回学術集会, 盛岡, 2018.4.
5. 益田紗季子, 野々川菜佑, 西端友香, 岩崎沙理, 辻隆裕, 田中敏, 外丸詩野, 川上民裕, 石津明洋: ANCA 関連血管炎 (AAV) の壊死性病変部における好中球細胞外トラップ (NETs) の存在と病的意義. 第 107 回日本病理学会総会, 札幌, 2018.6.
6. 魚住諒, 井口理彩, 益田紗季子, 西端友香, 谷村瞬, 中沢大悟, 外丸詩野, 石津明洋: 免疫グロブリン大量静注療法 (IVIg) は好中球細胞外トラップ (NETs) の抑制により MPO-ANCA 関連血管炎の発症を抑制する. 第 107 回日本病理学会総会, 札幌, 2018.6.
7. 岩崎沙理, 島本真実子, 藤丸拓也, 森 崇寧, 蘇原映誠, 石津明洋, 今本鉄平, 石立尚路, 辻隆裕, 深澤雄一郎: PKD1 変異を認めた Medullary cystic kidney disease (MCKD) の一例. 第 107 回日本病理学会総会, 札幌, 2018.6.
8. 伊丹久実, 木内隆之, 外丸詩野, 大塚紀幸, 田中敏, 石津明洋, 笠原正典: 致命的な腹腔内出血を来した顕微鏡的多発血管炎の一剖検例. 第 107 回日本病理学会総会, 札幌, 2018.6.

V. 研究活動

9. 加賀早苗, 岡田一範, 三神大世, 川村希実, 政氏伸夫, 村山迪史, 横山しのぶ, 岩野弘幸, 山田 聡, 安斉俊久: 混合性肺高血圧患者の左房心筋機能障害. 日本超音波医学会第 91 回学術集会, 神戸, 2018.6.
10. 柳裕介, 岡田一範, 加賀早苗, 三神大世, 政氏伸夫, 西野久雄, 横山しのぶ, 岩野弘幸, 山田聡, 安斉俊久: 三次元心エコー法による肥大型心筋症のリザーバ期左房心筋伸展障害の実態と機序の検討. 日本超音波医学会第 91 回学術集会, 神戸, 2018.6.
11. 岡田一範, 加賀早苗, 辻田孝輔, 原 瑞希, 吉川綾香, 坂本洋一, 政氏伸夫, 三神大世: S 字状中隔例における右室形態評価の注意点: 3 次元心エコー法を用いた検討. 日本超音波医学会第 91 回学術集会, 神戸, 2018.6.
12. 岡田一範, 加賀早苗, 辻田孝輔, 原 瑞希, 吉川綾香, 坂本洋一, 政氏伸夫, 三神大世: 左室駆出率計測時トレースを利用する簡易ストレイン計測法の精度. 第 43 回日本超音波検査学会学術集会, 大阪, 2018.6.
13. 山本麻衣, 村上悟, 河野圭伍, 七戸加奈, 菅野加奈絵, 後藤美沙紀, 岡田一範, 加賀早苗, 政氏伸夫: テクスチャ解析による好中球アルカリホスファターゼ (NAP) 活性度判定. 第 19 回日本検査血液学会学術集会, 埼玉, 2018.7.
14. 河野圭伍, 山本麻衣, 七戸加奈, 熊原 茜, 松岡穂奈実, 村山綾菜, 藪田麻結, 岡田一範, 加賀早苗, 政氏伸夫: テクスチャ解析を用いた骨髓有核細胞形態特徴の定量的定義と非典型像における判定. 第 19 回日本検査血液学会学術集会, 埼玉, 2018.7.
15. 七戸加奈, 熊原茜, 松岡穂奈実, 山本麻衣, 河野圭伍, 村山綾菜, 藪田麻結, 岡田一範, 加賀早苗, 政氏伸夫: 抗酸化剤、鉄キレート剤添加血液検体における血球計数と白血球形態の経時的変化. 第 19 回日本検査血液学会学術集会, 埼玉, 2018.7.
16. 熊原 茜, 松岡穂奈実, 七戸加奈, 山本麻衣, 河野圭伍, 村山綾菜, 藪田麻結, 岡田一範, 加賀早苗, 政氏伸夫: EDTA 及び Heparin 加血液検体での Superoxide Dismutase 添加による保管時間延長効果の検討と比較. 第 19 回日本検査血液学会学術集会, 埼玉, 2018.7.
17. 松岡穂奈実, 熊原 茜, 七戸加奈, 山本麻衣, 河野圭伍, 村山綾菜, 藪田麻結, 岡田一範, 加賀早苗, 政氏伸夫: 抗酸化剤の違いによる血液検体の保管時間延長効果の検討. 第 19 回日本検査血液学会学術集会, 埼玉, 2018.7.
18. 山口博之, 矢野理香, 下田智子, 大久保寅彦: 微生物のシンプルな演習は看護学部学生の感染症や微生物そのものへの意識を改善する. 第 13 回日本臨床検査学教育学会, 札幌, 2018.8.
19. 渡辺宜典, 大久保寅彦, 山口博之: 腔頸管スワブの性器クラミジア検出率と腸内細菌科細菌 OTU 量について. 第 13 回日本臨床検査学教育学会, 札幌, 2018.8.
20. 千葉仁志, 布田博敏, 惠淑萍: 臨床化学の食への挑戦 食品機能性への臨床化学的アプローチ. 第 58 回日本臨床化学会年次学術集会, 名古屋, 2018.8.
21. 山本祐輔, 古川貴之, 櫻田紘之, 武田晴治, 惠 淑萍: フッ素置換構造を鍵としたリゾリン脂質異性体の合成と物性に関する研究. 第 58 回日本臨床化学会年次学術集会, 名古屋, 2018.8.
22. 櫻井俊宏, 高橋祐司, 藤井佑樹, 能祖一裕, 太田素子, 伊藤康樹, 永坂敦, 和田典男, 千葉仁志, 惠淑萍: LDL-TG 測定試薬の臨床検体への応用. 第 58 回日本臨床化学会年次学術集会, 名古屋, 2018.8.
23. 陳震, Yue Wu, シュレスタ・ロジート, 三浦祐介, 趙瑤瑤, 玉腰暁子, 千葉仁志, 惠淑萍: ヒト血清中のブタン酸とカプロン酸の LC-MS/MS を用いた定量法. 第 58 回日本臨床化学会年次学術集会, 名古屋, 2018.8.

V. 研究活動

24. 三浦佑介, 櫻井俊宏, 陳震, 布田博敏, 千葉仁志, 惠淑萍: 近位尿細管上皮細胞の脂肪酸負荷による脂質変化. 第 58 回日本臨床化学会年次学術集会, 名古屋, 2018.8.
25. 鈴木拓貴, 布田博敏, 上甲紗愛, 渡邊貢, Roan Yuning, 武田晴治, 古川貴之, 惠淑萍, 千葉仁志: リポーター遺伝子アッセイを用いた食品由来抗酸化物質の抗酸化能評価. 第 58 回日本臨床化学会年次学術集会, 名古屋, 2018.8.
26. 武田晴治, 櫻井俊宏, 惠淑萍, 千葉仁志: LDL の硬さと加齢について. 第 58 回日本臨床化学会年次学術集会, 名古屋, 2018.8.
27. 政氏伸夫: Japanese Original Method: 寺子屋方式「ご唱和」を活用した講義. 第 13 回日本臨床検査学教育学会学術大会, 札幌, 2018.8.
28. 岡田一範, 加賀早苗, 中鉢雅大, 村山迪史, 横山しのぶ, 西野久雄, 西田睦, 澁谷齊, 岩野弘幸, 三神大世: これからの超音波検査を牽引する人材の育成を目指す大学院教育. 第 13 回日本臨床検査学教育学会学術大会, 札幌, 2018.8.
29. 山口博之, 大久保寅彦: 札幌地下歩行空間における空気中浮遊細菌叢 (環境クラミジア OTU を含む) の解析. 第 36 回日本クラミジア研究会, 札幌, 2018.9.
30. 森千裕, 橋本拳人, 大久保寅彦, 山口博之: 低酸素環境における *Chlamydia trachomatis* L2 の増殖について. 第 36 回日本クラミジア研究会, 札幌, 2018.9.
31. 前鼻咲樹, 田中菜那, 大久保寅彦, 中村真二, 山口博之: ヒト病原細菌を共生細菌 (環境クラミジア) 依存的に運ぶアメーバ: 運搬機構解明に向けた試み. 第 36 回日本クラミジア研究会, 札幌, 2018.9.
32. 渡辺宜典, 大久保寅彦, 山口博之: 膣スワブからの性器クラミジアの検出: MLST 解析とインドール濃度の測定. 日本クラミジア研究会, 札幌, 2018.9.
33. 植芝滉己, 呉ユエ, 陳震, 坂口謙一郎, 柳川洋二郎, 片桐成二, 千葉仁志, 惠淑萍, 永野昌志: 液体クロマトグラフィー高分解能質量分析を用いた牛卵子中遊離脂肪酸およびトリアシルグリセロールの分析. 第 161 回日本獣医学会学術集会, つくば, 2018.9.
34. 三浦佑介, 加藤颯太, 櫻井俊宏, 陳震, 呉げつ, 高紫君, ロジート・シュレスタ, 中村幸志, 鶴川重和, 中川貴史, 玉腰暁子, 千葉仁志, 惠淑萍: LC/MS によるヒト血清中における分子種別コレステリルエステルの定量分析. 第 43 回日本医用マススペクトル学会年会, 札幌, 2018.9.
35. 山村凌大, 陳震, 呉げつ, 高紫君, 惠淑萍, 千葉仁志, 中川貴史, 鶴川重和, 中村幸志, 玉腰暁子: 血中短鎖脂肪酸と肥満との関連. 第 43 回日本医用マススペクトル学会年会, 札幌, 2018.9.
36. 辻川諒哉, 三浦佑介, 陳震, 高田康徳, 千葉仁志, 惠淑萍: LC-MS/MS による糖尿病性腎症患者の尿中コレステリルエステル分析. 第 43 回日本医用マススペクトル学会年会, 札幌, 2018.9.
37. 趙瑤瑤, 呉げつ, 陳震, 高紫君, 張新榮, 千葉仁志, 惠淑萍: HepG2 細胞内の単一脂肪滴に関する nanoESI-MS 直接脂質分析. 第 43 回日本医用マススペクトル学会年会, 札幌, 2018.9.
38. 趙瑤瑤, 陳震, 呉げつ, 高紫君, 張新榮, 千葉仁志, 惠淑萍: LC/HR-MS/MS を用いた肝硬変ラット肝臓中脂質と過酸化脂質の定量分析. 第 43 回日本医用マススペクトル学会年会, 札幌, 2018.9.
39. 呉げつ, 植芝滉己, 陳震, 坂口謙一郎, 柳川洋二郎, 片桐成二, 永野昌志, 千葉仁志, 惠淑萍: LC/Orbitrap-MS を用いた牛卵子中脂質の網羅的解析. 第 43 回日本医用マススペクトル学会年会, 札幌, 2018.9.
40. 陳震, 玉井康将, 江口暁子, 岩佐元雄, 呉げつ, 竹井謙之, 千葉仁志, 惠淑萍: LC/HR-MS/MS を用いた肝硬変ラット肝臓中脂質と過酸化脂質の定量分析. 第 43 回日本医用マススペクトル学会年会, 札幌, 2018.9.

V. 研究活動

41. 津久井隆行, 郭先蒼, 陳震, 惠淑萍, 千葉仁志: 脂肪蓄積および酸化ストレス曝露による代謝変化. 第43回日本医用マスペクトル学会年会, 札幌, 2018.9.
42. 高紫君, 陳震, 呉げつ, 三浦祐介, 千葉仁志, 惠淑萍: LC-MS/MSによる短鎖、中鎖、長鎖、極長鎖脂肪酸の一斉定量分析. 第43回日本医用マスペクトル学会年会, 札幌, 2018.9.
43. 櫻井俊宏, 早坂孝宏, 関口博太, 佐藤浩志, 陳震, 千葉仁志, 惠淑萍: 食餌由来脂肪肝モデルマウスにおいて鮭白子抽出物の摂取は肝機能障害の改善とミトコンドリアを活性化させる. 第43回日本医用マスペクトル学会年会, 札幌, 2018.9.
44. 譚慧, 千葉仁志, 惠淑萍: 破骨細胞の分化を阻害する化合物 (ursolic acid) の新しい標的タンパク質を発見. 第43回日本医用マスペクトル学会年会, 札幌, 2018.9.
45. 喬琳, 陳震, 高田俊智, 呉げつ, 千葉仁志, 叶深, 惠淑萍: 低濃度オゾンによる不飽和リン脂質膜の酸化に関する研究. 第43回日本医用マスペクトル学会年会, 札幌, 2018.9.
46. 朱子健, 喬琳, 陳震, 呉げつ, 千葉仁志, 惠淑萍: 環境濃度オゾンによる HepG2 細胞の酸化に関する研究. 第43回日本医用マスペクトル学会年会, 札幌, 2018.9.
47. 渡部勇樹, 喬琳, 陳震, 高田俊智, 呉げつ, 叶深, 千葉仁志, 惠淑萍: 混合単分子膜の低濃度オゾンによる酸化に及ぼすコレステロール添加の影響. 第43回日本医用マスペクトル学会年会, 札幌, 2018.9.
48. 七戸加奈, 熊原茜, 松岡穂奈実, 村山綾菜, 藪田麻結, 岡田一範, 加賀早苗, 政氏伸夫: フローサイトメトリーによる好中球細胞質内顆粒タンパク質の計量. 第24回MPO研究会, 札幌, 2018.9.
49. 熊原茜, 松岡穂奈美, 村山綾菜, 藪田麻結, 七戸加奈, 岡田一範, 加賀早苗, 政氏伸夫: 抗凝固剤の違いによる Superoxide Dismutase の血球保管時間延長効果の検討. 第24回MPO研究会, 札幌, 2018.9.
50. 松岡穂奈美, 熊原茜, 村山綾菜, 藪田麻結, 七戸加奈, 岡田一範, 加賀早苗, 政氏伸夫: 抗酸化剤の違いによる血液検体の保管時間延長効果の検討. 第24回MPO研究会, 札幌, 2018.9.
51. 政氏伸夫, 山本麻衣, 河野圭伍, 七戸加奈, 熊原茜, 松岡穂奈美, 村山綾菜, 藪田麻結, 岡田一範, 加賀早苗: テクスチャ解析による細胞質内顆粒の数、分布の定量的評価. 第2回先端生体超音波シンポジウム, 仙台, 2018.9.
52. 七戸加奈, 熊原茜, 松岡穂奈実, 村山綾菜, 藪田麻結, 岡田一範, 加賀早苗, 政氏伸夫: フローサイトメトリーによる好中球細胞質内顆粒タンパク質の計量. 第2回先端生体超音波シンポジウム, 仙台, 2018.9.
53. 藪田麻結, 熊原茜, 松岡穂奈実, 村山綾菜, 七戸加奈, 河野圭伍, 山本麻衣, 岡田一範, 加賀早苗, 政氏伸夫: Deep Learning を用いた好中球画像の分葉数別判別. 第2回先端生体超音波シンポジウム, 仙台, 2018.9.
54. 村山綾菜, 熊原茜, 松岡穂奈実, 藪田麻結, 七戸加奈, 河野圭伍, 山本麻衣, 岡田一範, 加賀早苗, 政氏伸夫: 濃度共起行列を用いた好中球画像の分葉数別判別. 第2回先端生体超音波シンポジウム, 仙台, 2018.9.
55. 柳 裕介, 岡田一範, 相庭美穂, 加賀早苗, 政氏伸夫, 三神大世: 肥大型心筋症と高血圧症のリザーバ期左房心筋壁動態の差異: 三次元スペックルトラッキング法による検討. 第2回先端生体超音波シンポジウム, 仙台, 2018.9.
56. 岡田一範, 藤澤亮介, 柳裕介, 政氏伸夫, 加賀早苗, 三神大世: 左房収縮時逆行 / 順行血流量比による非侵襲的左室硬さ評価の有用性. 第2回先端生体超音波シンポジウム, 仙台, 2018.9.
57. 加賀早苗, 齋藤遥, 岡田一範, 柳裕介, 政氏伸夫, 三神大世: 混合性肺高血圧をきたす左心不全患者の左房心筋機能障害—左室駆出率が低下した心不全例における検討—. 第2回先端生体超音波シンポジウム, 仙台, 2018.9.

V. 研究活動

58. Kapalamula FT, Thapa J, Nakajima C, Mwangala A, Gordon S, Suzuki Y: Establishment of loop mediated isothermal amplification assay for rapid diagnosis of zoonotic tuberculosis. The 6th Sapporo Summer Symposium for One Health, Sapporo, Japan, 2018.9.
59. 惠淑萍, 李泳翰, 陳震, ダルウィッシュ・ワギ, 吳 Yue, 趙瑤瑤, 高紫君, 千葉仁志: 細胞内脂質および過酸化脂質に関する研究. 第 25 回日本未病システム学会学術総会, 東京, 2018.10.
60. 川上民裕, 竹内そら, 菊池彩翔, 西端友香, 益田紗季子, 外丸詩野, 石津明洋: ヒストンは好中球細胞表面に LAMP2 を表出し, 抗 LAMP2 抗体と協調して皮膚小血管に好中球を集積させる. 第 24 回 MPO 研究会, 札幌, 2018.10.
61. 政氏伸夫, 山本麻衣, 村上悟, 河野圭伍, 七戸加奈, 三輪佳子, 岡田一範, 加賀早苗: 好中球細胞質顆粒の定量的評価における濃度共起行列を用いたテクスチャ解析の有用性. 第 80 回日本血液学会学術集会, 大阪, 2018.10.
62. 岩崎沙理, 渡辺俊之, 今本鉄平, 石立尚路, 牧田啓史, 辻隆裕, 深澤雄一郎, 石津明洋: TNF 阻害薬により舌肉芽腫性血管炎およびアミロイド沈着を示した症例. 第 23 回日本血管病理研究会, 下関, 2018.11.
63. 西端友香, 東里緒, 益田紗季子, 中沢大悟, 田中敏, 外丸詩野, 中林公正, 石津明洋: 抗糸球体基底膜抗体病(抗 GBM 病)の頻回再発症例の抗 GBM が認識するエピトープ. 第 23 回日本血管病理研究会, 下関, 2018.11.
64. 川上民裕, 竹内そら, 菊池彩翔, 西端友香, 益田紗季子, 外丸詩野, 石津明洋: ヒストンは好中球細胞上に LAMP2 を表出し, 抗 LAMP2 抗体と連携して皮膚小血管炎の発症機序に関与している. 第 23 回日本血管病理研究会, 下関, 2018.11.
65. 森綾子, 西岡佑介, 山田真衣, 西端友香, 益田紗季子, 外丸詩野, 本間直幸, 森山隆則, 石津明洋: BDNF は HUVEC における angiogenin の分泌と核移行を誘導する. 第 26 回日本血管生物医学会, 2018.12.
66. 楠加奈子, 中沢大悟, 益田紗季子, 西尾妙織, 外丸詩野, 渥美達也, 石津明洋: 遺伝子組換えトロンボモジュリン (rTM) は好中球細胞外トラップ (NETs) 制御を介して血管炎病態を改善する. 第 2 回血管炎病因病態研究会, 東京, 2019.3.
67. 更科美羽, 岩野弘幸, 岡田一範, 辻永真吾, 村山迪史, 中鉢雅大, 横山しのぶ, 西野久雄, 加賀早苗, 安齊俊久: Determinants and significance of intra-left ventricular vortices: comparison of the normal, hypertrophied, and dilated hearts. 第 83 回日本循環器学会学術集会, 横浜, 2019.3.
68. 岡田一範, 藤澤亮介, 加賀早苗, 政氏伸夫, 三神大世, 村山迪史, 中鉢雅大, 西野久雄, 横山しのぶ, 更科美羽, 辻永真吾, 岩野弘幸, 安齊俊久: Prognostic value of novel echocardiographic index of left ventricular operating stiffness in patients with heart failure. 第 83 回日本循環器学会学術集会, 横浜, 2019.3.
69. 辻永真吾, 岩野弘幸, 更科美羽, 村山迪史, 中鉢雅大, 横山しのぶ, 西野久雄, 岡田一範, 加賀早苗, 福島新, 横田卓, 安齊俊久: Mechanisms of ventilatory efficiency during exercise in heart failure: comparison between heart failure with preserved ejection fraction and reduced ejection fraction. 第 83 回日本循環器学会学術集会, 横浜, 2019.3.

V. 研究活動

[地方会]

1. 河野圭伍, 山本麻衣, 七戸加奈, 熊原茜, 松岡穂奈美, 村山綾菜, 藪田麻結, 岡田一範, 加賀早苗, 政氏伸夫:
正常血液前駆細胞の形態検査におけるテクスチャ特徴の重要性. 第53回日本血液学会春季北海道地方会,
札幌, 2018.4.
2. 山本麻衣, 河野圭伍, 七戸加奈, 熊原茜, 松岡穂奈美, 村山綾菜, 藪田麻結, 岡田一範, 加賀早苗, 政氏伸夫:
テクスチャ解析を用いた細胞質内顆粒の定量的評価 ～好中球アルカリホスファターゼ活性度による検
討～. 第53回日本血液学会春季北海道地方会, 札幌, 2018.4.
3. 七戸加奈, 山本麻衣, 河野圭伍, 熊原茜, 松岡穂奈美, 村山綾菜, 藪田麻結, 岡田一範, 加賀早苗, 政氏伸夫:
正常好中球顆粒内物質のフローサイトメトリーを用いた定量. 第53回日本血液学会春季北海道地方会,
札幌, 2018.4.
4. 七戸加奈, 河野圭伍, 山本麻衣, 熊原茜, 松岡穂奈美, 村山綾菜, 藪田麻結, 伊勢智子, 遠藤明美, 大沼麗子,
河原好絵, 小林敏幸, 齋藤泰智, 佐々木洋, 高橋裕之, 中村真由美, 橋本広昭, 向山健一, 盛合亮介, 山下垂
妃子, 政氏伸夫: 定量化テクスチャ特徴による機械判定は熟練検査技師の血球形態検査結果と良好に相関
する. 第16回日本検査血液学会北海道支部総会, 札幌, 2018.6.
5. 山口真里菜, 加賀早苗, 村山迪史, 岡田一範, 三神大世, 政氏伸夫, 中鉢雅大, 西野久雄, 横山しのぶ,
西田睦, 澁谷斉, 更科美羽, 辻永真吾, 岩野弘幸, 安斉俊久: 心エコー法による右室収縮機能評価のた
めの適切な計測断面の検討. 第52回日本臨床検査医学会北海道支部総会, 札幌, 2018.9.
6. 荒木皆美, 岡田一範, 辻田孝輔, 吉川綾香, 原瑞希, 坂本洋一, 柳裕介, 加賀早苗, 政氏伸夫, 三神大世:
左室駆出率計測時トレースを利用するグローバルストレイン計測法の妥当性. 第52回日本臨床検査医学
会北海道支部総会, 札幌, 2018.9.
7. 櫻井俊宏, 永坂敦, 和田典夫, 千葉仁志, 惠淑萍: 非アルコール性脂肪性肝炎患者の血中酸化LDLの解析.
第52回日本臨床検査医学会北海道支部総会・第28回日本臨床化学会北海道支部例会, 札幌, 2018.9.
8. 陳震, 呉玥, ロジート・シュレスタ, 高紫君, 趙瑤瑤, 三浦祐介, 玉腰暁子, 千葉仁志, 惠淑萍:
Determination of total, free, and esterified butyric and caproic acid in human serum by LC-MS/MS. 第98
回北海道医学大会臨床検査医学分科会, 札幌, 2018.9.
9. 辻永真吾, 岩野弘幸, 更科美羽, 村山迪史, 中鉢雅大, 横山しのぶ, 西野久雄, 岡田一範, 加賀早苗, 安斉俊
久: 慢性心不全患者における換気効率の規定因子に関する検討. 日本超音波医学会第48回北海道地方会
学術集会, 札幌, 2018.10.
10. 更科美羽, 岩野弘幸, 岡田一範, 辻永真吾, 村山迪史, 中鉢雅大, 横山しのぶ, 西野久雄, 加賀早苗,
安斉俊久: 拡張早期左室内渦の生理学的背景に関する検討. 日本超音波医学会第48回北海道地方会学術
集会, 札幌, 2018.10.
11. 相庭美穂, 岡田一範, 三神大世, 柳 裕介, 加賀早苗, 西野久雄, 中鉢雅大, 政氏伸夫, 岩野弘幸, 安斉俊久:
肥大型心筋症と高血圧症のリザーバ期左房心筋壁動態の差異: 三次元スペックルトラッキング法による
検討. 日本超音波医学会第48回北海道地方会学術集会, 札幌, 2018.10.
12. 岡田一範, 加賀早苗, 更科美羽, 横山しのぶ, 西野久雄, 三神大世, 政氏伸夫, 辻永真吾, 岩野弘幸,
安斉俊久: 正常心における左室の形状が駆出期のエネルギー損失に与える影響: Vector Flow Mapping を
用いた検討. 日本超音波医学会第48回北海道地方会学術集会, 札幌, 2018.10.

V. 研究活動

13. 齋藤 遥, 加賀早苗, 三神大世, 岡田一範, 村山迪史, 横山しのぶ, 辻永真吾, 永井利幸, 岩野弘幸, 安斉俊久: 混合性肺高血圧症を合併する左心不全患者の左房機能障害. 日本超音波医学会第 48 回北海道地方会学術集会, 札幌, 2018.10.
14. 藤澤亮介, 岡田一範, 加賀早苗, 三神大世, 横山しのぶ, 西野久雄, 更科美羽, 辻永真吾, 岩野弘幸, 安斉俊久: 心エコー法による逆行 / 順行血流量比の慢性心不全患者の予後予測における有用性. 日本超音波医学会第 48 回北海道地方会学術集会, 札幌, 2018.10.
15. 合田真悟, 工藤悠輔, 三神大世, 岡田一範, 加賀早苗, 表原里実, 岩井孝仁, 高杉莉佳, 西田 睦, 澁谷 斉: 腎葉間静脈血流速度波形の左右差と糖尿病による変化. 日本超音波医学会第 48 回北海道地方会学術集会, 札幌, 2018.10.
16. 神谷明子, 岡田一範, 加賀早苗, 柳 裕介, 政氏伸夫, 三神大世: 横隔膜筋厚のエコー計測に基づく呼吸筋力評価: 適切な手技と体位の検討. 日本超音波医学会第 48 回北海道地方会学術集会, 札幌, 2018.10.
17. 西端友香, 東 里緒, 益田紗季子, 中沢大悟, 田中 敏, 外丸詩野, 中林公正, 石津明洋: 治療抵抗性抗糸球体基底膜抗体病(抗 GBM 病)の抗 GBM が認識するエピトープ. 第 51 回北海道病理談話会, 札幌, 2018.10.
18. 木元陸人, 外丸詩野, 石津明洋, 笠原正典: プロテアソーム発現異常と末梢 T 細胞プールの恒常性破綻. 第 51 回北海道病理談話会, 札幌, 2018.10.
19. 森 綾子, 西岡佑介, 山田真衣, 西端友香, 益田紗季子, 外丸詩野, 本間直幸, 森山隆則, 石津明洋: BDNF の血管新生シグナル経路における angiogenin の関与. 第 51 回北海道病理談話会, 札幌, 2018.10.
20. 清水力, 陳震, 惠淑萍, 千葉仁志: 質量分析法による 25(OH)D 測定法の開発および免疫学的測定法との比較検討. 第 18 回日本内分泌学会 北海道支部学術集会, 旭川, 2018.11.
21. 櫻井俊宏, 関島将人, 田村宥人, 仲門菜月, 津久井隆行, 布田博敏, 千葉仁志, 惠淑萍: 酸化 HDL に焦点を当てた非アルコール性脂肪性肝炎の発症機序の解明. 第 4 回北海道大学部局横断シンポジウム, 札幌, 2019. 1.
22. 野々川茉佑, 清水智弘, 西端友香, 益田紗季子, 高橋大介, 浅野毅, 田中敏, 外丸詩野, 岩崎倫政, 石津明洋: 特発性大腿骨頭壊死症の発生における好中球細胞外トラップの関与. 第 44 回北海道リウマチ研究会, 札幌, 2019.3.

■業績

機能回復学分野

A. 学術論文

1. Maejima H, Ninuma S, Okuda A, Inoue T, Hayashi M: Exercise and low-level GABAA receptor inhibition modulate locomotor activity and the expression of BDNF accompanied by changes in epigenetic regulation in the hippocampus. *Neurosci Letters* 685:18-23, 2018.
2. Kasahara S, Saito H: The effect of aging on termination of voluntary movement while standing: A study on community-dwelling older adults. *Hum Mov Sci* 64: 347-354. 2019.
3. Mani H, Miyagishima S, Kozuka N, Kodama Y, Takeda K, Asaka T: Development of postural control during single-leg standing in children aged 3–10 years. *Gait Posture* 68:174–180, 2019.
4. Ishida T, Koshino Y, Yamanaka M, Ueno R, Taniguchi S, Samukawa M, Saito H, Matsumoto H, Aoki Y, Tohyama H: The effects of a subsequent jump on the knee abduction angle during the early landing phase. *BMC Musculoskelet Disord* 20;19:379, 2018.
5. Miyagishima S, Asaka T, Kamatsuka K, Kozuka N, Kobayashi M, Igarashi L, Hori T, Tsutsumi H: Spontaneous movements of preterm infants is associated with outcome of gross motor development. *Brain Dev* 40: 627–633, 2018.
6. Miura K, Tsuda E, Tohyama H, Iwahori Y, Mae T, Mochizuki Y, Nakagawa K, Nakamae A, Nakamura T, Takao M, Uchida S, Muneta T, Ochi M: Can arthroscopic Bankart repairs using suture anchors restore equivalent stability to open repairs in the management of traumatic anterior shoulder dislocation? A meta-analysis. *J Orthop Sci* 23:935-941, 2018.
7. Okunuki T, Koshino Y, Yamanaka M, Tsutsumi K, Igarashi M, Samukawa M, Saitoh H, Tohyama H: Forefoot and hindfoot kinematics in subjects with medial tibial stress syndrome during walking and running. *J Orthop Res* 37:927-932, 2019.
8. Oba K, Samukawa M, Nakamura K, Mikami K, Suzumori Y, Ishida Y, Keeler N, Saitoh H, Yamanaka M, Tohyama H: Influence of constant torque stretching at different stretching intensities on flexibility and mechanical properties of ankle plantar flexors. *J Strength Cond Res*, in press (doi:10.1519/JSC. 0000000000002767)
9. Osuka S, Koshino Y, Yamanaka M, Miura T, Saito Y, Ueno R, Ishida T, Samukawa M, Tohyama H: The onset of deep abdominal muscles activity during tasks with different trunk rotational torques in subjects with non-specific chronic low back pain. *J Orthop Sci*, in press (doi:10.1016/j.jos.2018.12.028).
10. Lyman S, Omori G, Nakamura N, Takahashi T, Tohyama H, Fukui N, Ikeda H, Sasho T, Saito T, Hayashi Y, Deie M: Development and validation of a culturally relevant Japanese KOOS. *J Orthop Sci*, in press (doi: 10.1016/j.jos.2018.11.014).
11. 笠原敏史, 小松夏来, 齊藤展士, 遠藤沙紀: 高齢者の立位での運動停止の特徴. *理学療法科学* 33:523-527, 2018

V. 研究活動

12. 石田知也, 松本尚, 鈴木信, 山中正紀, 遠山晴一, 青木喜満: ROC 曲線を用いた膝前十字靭帯再建術症例に対する術後早期の膝伸展筋力のカットオフ値の検討. 日本整形外科スポーツ医学会雑誌 38:74-78, 2018.
13. 高松泰行, 松田直美, 饗場郁子: 進行性核上性麻痺患者における重心動揺と姿勢保持障害の特徴. 神経治療学 35:33-37, 2018.
14. 山本悠太, 高松泰行, 金子真理子, 饗場郁子: 転倒による骨折後患者における回復期リハビリテーション病棟入棟時の栄養状態が日常生活動作能力及び自宅復帰率に及ぼす影響: 後ろ向きケース・コントロール研究. 日本転倒予防学会誌 5:81-89, 2018.
15. 大場健裕, 寒川美奈, 中村賢太郎, 遠山晴一, 山中正紀: 足関節底屈筋スティフネスの違いがストレッチング効果に与える影響. 日本アスレティックトレーニング学会誌 3:1-5, 2018.
16. 生田亮平, 石田知也, 山中正紀, 谷口翔平, 上野亮, 寒川美奈, 遠山晴一: 片脚着地動作における初期接地時の前額面骨盤傾斜と膝関節最大外反モーメントの関連. 日本臨床スポーツ医学会誌 26:431-436, 2018.
17. 鈴木信, 石田知也, 松本尚, 金子知, 井上千春, 青木喜満: 膝前十字靭帯再建術前後の膝伸展筋力に対する外側半月板損傷合併の影響. 日本整形外科スポーツ医学会誌 38:117-121, 2018.
18. コリー紀代, 清水弘美, 高橋望, 小水内俊介, 今野敦, 金井理, 二宮伸治, 大塚健, 浅賀忠義: 熟練看護師の視線計測による気管内吸引オントロジーの構築と今後の可能性. 医学教育 49:117-125, 2018.
19. 二宮伸治, コリー紀代, 小水内俊介, 近野敦, 金井理, 高橋望, 浅賀忠義: 痰吸引トレーニングシミュレータのための痰吸引量およびカテーテル接触荷重リアルタイム計測装置の開発. 日本シミュレーション医療教育学会 6:92-98, 2018.
20. 小水内俊介, 近野敦, 金井理, 二宮伸治, 浅賀忠義, 高橋望, コリー紀代: 生体反応を呈する看護シミュレータのためのプロジェクションマッピング/拡張現実による視覚呈示. 日本シミュレーション医療教育学会, 6:99-103, 2018.

B. 著書

1. 石田知也(分担): 肩の外傷. 骨接合術&人工肩関節置換術(末永直樹編). 248-259, メディカ出版, 2018.

C. 総説, 解説, 論評

1. 寒川美奈: スポーツ競技種目特性に基づいた理学療法. 評価から理学療法(予防, コンディショニングへの応用を含む)まで. アルペンスキー競技(滑動作を中心に). 臨床スポーツ医学 35:465-470, 2018.
2. 石田知也, 井野拓実, 山中正紀, 遠山晴一: 筋機能II: 筋機能障害の理学療法評価の実際. 骨関節疾患による筋機能障害の理学療法評価の実際—変形性膝関節症の場合. 理学療法 35:1000-1007, 2018.
3. 越野裕太, 山中正紀, 寒川美奈, 遠山晴一: スポーツ障害に対する保存的治療のエビデンス. 膝オーバーユース障害に対する保存的治療のエビデンス. 日本整形外科学会雑誌 92:459-465, 2018.
4. 井野拓実, 石田知也, 寒川美奈, 山中正紀: 変形性膝関節症の筋機能障害に対する理学療法アプローチ. 理学療法 35:1070-1079, 2018.
5. 伊藤雄, 松本尚, 石田知也, 末永直樹, 大泉尚美: 北海道における肩関節外科の現状と展望—肩関節疾患に対するリハビリテーション. 北海道整形災害外科学会雑誌 60:52-62, 2018.
6. 前島洋: 知識のマグマ. 運動による脳由来神経栄養因子の発現修飾. 北海道理学療法士会ニュース 35:5, 2018.

V. 研究活動

7. 萬井太規: 知識のマグマ. 片脚立位テストの再考. 北海道理学療法士会ニュース 37:5, 2019.

D. 報告書

E. その他

[受賞]

1. 萬井太規, 宮城島沙織, 小塚直樹, 小玉祐矢, 武田賢太, 浅賀忠義: 片脚立位姿勢制御の発達過程. 第5回日本小児理学療法学会学術大会学会奨励賞. 2018.12.
2. 石田知也, 松本尚, 鈴木信, 伊藤雄, 山中正紀, 青木喜満: 膝前十字靭帯再建術症例に対する術後早期の膝関節伸展トルク目標値設定の有用性の検討. 第69回北海道理学療法士学術大会優秀演題賞(口述部門). 2018.7.

F. 学会発表

A) 招待講演

[国際学会]

1. 萬井太規: 「How to interpret the research results of postural control development?」, 「development of postural control」 Department of physical therapy international collaborative teaching at Kaohsiung medical university, Taiwan, 2019.3.
2. 高松泰行: 「Neural Plasticity & Neuromodulation」 Department of physical therapy international collaborative teaching at Kaohsiung medical university, Taiwan, 2019.3.

[国内学会]

1. 遠山晴一, 津田英一, 出沢明, 岩堀裕介, 内田宗志, 高尾昌人, 中川晃一, 中前敦雄, 中村俊康, 前達雄, 三浦和知, 望月由: 「内視鏡外科診療ガイドライン作成状況報告 整形外科領域」. 第31回日本内視鏡外科学会総会, 福岡, 2018.12.
2. 遠山晴一, 上野亮, 石田知也, 寒川美奈: 「関節不安定症のバイオメカニクス 膝前十字靭帯損傷のバイオメカニクス」. 第32回日本整形外科学会基礎学術集会, 奈良, 2018.10.
3. 萬井太規: 若手講演「片脚立位姿勢制御の発達～体重心と足圧中心を用いた分析～」. 第1回リハビリテーションのための姿勢運動制御研究会, 奈良, 2018.9.

B) 一般演題

[国際学会]

1. Maejima H, Kitahara M, Hayashi M, Inoue T, Li X: Site-specific modulation of BDNF expression in the brain following chronic GABAA receptor inhibition. FENS Forum 2018, Berlin, Germany, 2018.7.
2. Mani H, Hasegawa N, Takeda K, Asaka T: Interaction between feedforward and feedback postural responses induced by respective perturbations. PCMC 2018, University Park, USA, 2018.7.
3. Inoue T, Ninuma N, Hayashi M, Okuda A, Asaka T, Maejima H: Low-level inhibition of GABAA receptor and motor exercise modulate BDNF expression in the motor related cortex. The 41st Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society. Kobe, Japan, 2018.7.

V. 研究活動

4. Li X, Inoue T, Hayashi M, Kitahara M, Maejima H: The effect of aging and long-term exercise on the expression of BDNF in the hippocampus of senescent accelerated mice accompanied by epigenetic alternations. The 41st Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society. Kobe, Japan, 2018.7.
5. Takamatsu Y, Matsuda N, Aiba I: Gait characteristic of progressive supranuclear palsy. The First PSP & CBD International Research Symposium. London, UK, 2018.10.
6. Takamatsu Y, Matsuda N, Aiba I: The characteristic of gait in progressive supranuclear palsy. The 22nd International Congress of Parkinson's Disease and Movement Disorders. Hong Kong, China, 2018.10.
7. Takamatsu Y, Adya Saran Sinha, Akita T, Fukuda A, Mima T: The effect of static magnetic fields on the membrane excitability of pyramidal neurons in mice. Society for Neuroscience 2018 annual meeting, San Diego, USA, 2018.11.
8. Komizunai S, Ninomiya S, Konno A, Kanai S, Asaka T, Nakamura M, Inoue S, Murata E, Mani H, Colley N: Possibility of simultaneous monitoring of motion-eye trajectory with a simulation-based training for endotracheal suctioning: A novel approach. IMSH 2019, San Antonio, Tx USA, 2019.1.
9. Shinji Ninomiya, Atsushi Konno, Satoshi Kanai, Tadayoshi Asaka, Misuzu Nakamura, Sozo Inoue, Shunsuke Komizunai, Eri Murata, Hiroki Mani, Noriyo Colley: Development of sensing load system on the surface of simulated bronchial membrane. IMSH 2019, San Antonio, Tx USA, 2019.1.
10. Kataoka Y, Shimizu T, Irie R, Takeda S, Tadano T, Asano D, Takahashi T, Onodera T, Iwasaki N, Toyama H: Effect of unweighting on 3-D gait kinematics during walking on the lower body positive pressure treadmill in subjects with hip osteoarthritis. 2019 Orthopaedic Research Society Annual Meeting, Austin, USA, 2019.2.
11. Osuka S, Ishida T, Yamanaka M, Chiba T, Koshino Y, Saito Y, Samukawa M, Toyama H: Electromyographic activities of superficial trunk muscles in response to a sudden release from loading in subjects with non-specific chronic low back pain. 2019 Orthopaedic Research Society Annual Meeting, Austin, USA, 2019.2.
12. Saito Y, Yamanaka M, Miura T, Osuka S, Ishida T, Koshino Y, Saito Y, Samukawa M, Toyama H: The effects of sling device on trunk muscles activities during prone bridge exercise. 2019 Orthopaedic Research Society Annual Meeting, Austin, USA, 2019.2.

[国内学会]

3. 大須賀聡, 山中正紀, 上野亮, 遠山晴一: 非特異的腰痛症例における上肢挙上時の体幹深層筋のフィードフォワード制御とフィードバック制御の検討, 第10回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会(JOSKAS2018), 福岡, 2018.6.
4. 千々松雅人, 石田知也, 山中正紀, 谷口翔平, 上野亮, 遠山晴一: 体幹および骨盤の側方傾斜に着目した動作指導が片脚 drop vertical jump 着地時の膝関節外反モーメントに与える影響. 第10回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会(JOSKAS2018), 福岡, 2018.6.
5. コリー紀代, 玉置美香, 山田真代, 八柳千佳子, 稲村道子, 近野敦, 小水内俊介, 金井理, 二宮伸治, 井上創造, 村田恵理, 萬井太規, 浅賀忠義: 重症心身障害児(者)施設におけるパルスオキシメータによる継続測定データの活用可能性と今後の課題. 第65回日本小児保健協会学術集会, 鳥取, 2018.6.

V. 研究活動

6. 高松泰行, Adya Saran Sinha, 秋田天平, 福田敦夫, 美馬達哉: 静磁場刺激はマウス神経細胞の膜興奮性を一時的に低下させる. 第 33 回日本生体磁気学会大会, 広島, 2018.6.
7. Takamatsu T, Adya Saran Sinha, Akita T, Fukuda A, Mima T: Static magnetic fields can temporarily alter the membrane excitability of mouse pyramidal neurons. 第 41 回日本神経科学大会, 神戸, 2018.7.
8. 前島 洋: エピジェネティクス制御を伴う脳由来神経栄養因子の運動依存的発現修飾. 日本基礎理学療法学会夏の学校, 名古屋, 2018.8.
9. 小水内俊介, コリー紀代, 近野敦, 金井理, 浅賀忠義, 井上創造, 村田恵理, 萬井太規, 高橋 望, 二宮伸治: 没入型看護教育システム ESTE-VR を用いた習熟度分析評価ツール. 第 40 回日本呼吸療法医学会, 東京, 2018.8.
10. 二宮伸治, 小水内俊介, 村田恵理, 近野敦, 金井理, 浅賀忠義, 井上創造, 萬井太規, 高橋 望, コリー紀代: 吸引カテーテル接触荷重計測デバイス ESTE-SD を用いた臨床経験が接触荷重と挿入長に与える影響の評価. 第 40 回日本呼吸療法医学会, 東京, 2018.8.
11. コリー紀代, 小水内俊介, 村田恵理, 稲村道子, 玉置美香, 八柳千佳子, 山田真代, 近野 敦, 金井 理, 浅賀忠義, 井上創造, 萬井太規, 高橋 望, 二宮伸治: 生体反応を呈するシミュレータ ESTE-SIM のための吸引時 SpO₂ / 脈拍数の実測に基づく数理モデル定式化の試み. 第 40 回日本呼吸療法医学会, 東京, 2018.8.
12. 小水内俊介, コリー紀代, 近野敦, 金井理, 浅賀忠義, 井上創造, 村田恵理, 萬井太規, 高橋 望, 二宮伸治: 座学と実習を補間するスマートフォン/タブレットを用いたインタラクティブなパーソナル看護教育教材: ESTE-mobile. 第 40 回日本呼吸療法医学会, 東京, 2018.8.
13. コリー紀代, 清水弘美, 大塚健, 高橋望, 近野敦, 小水内俊介, 金井理, 二宮伸治, 井上創造, 村田恵理, 萬井太規, 浅賀忠義: 人工呼吸器装着児(者)の社会参加を促進する多職種連携における構造的課題. 第 50 回日本医学教育学会大会, 東京, 2018.8.
14. 小水内俊介, コリー紀代, 近野敦, 金井理, 浅賀忠義, 高橋望, 二宮伸治: 吸引カテーテル操作に応じた生体反応を呈するプロジェクションマッピングシミュレータ: ESTE-SIM. 第 6 回日本シミュレーション医療教育学会大会, 東京, 2018.8.
15. 小水内俊介, コリー紀代, 近野敦, 金井理, 浅賀忠義, 井上創造, 村田恵理, 萬井太規, 高橋望, 二宮伸治: 一人称視点で熟練者の身体動作と視線を追体験可能な没入型看護教育システム: ESTE-VR. 第 6 回日本シミュレーション医療教育学会学術大会, 東京, 2018.8.
16. 戎駿介, 笠原敏史: 足関節底屈筋力調整能力への加齢の影響について. 第 73 回日本体力医学大会, 福井, 2018.9.
17. コリー紀代, 小水内俊介, 近野敦, 金井理, 浅賀忠義, 中村美鈴, 井上創造, 村田恵理, 萬井太規, 二宮伸治: 視線移動量を用いた気管内吸引シミュレータの教育評価の検討. 第 51 回日本小児呼吸器学会, 札幌, 2018.9.
18. 大須賀聡, 石田知也, 山中正紀, 千葉健, 齋藤優輝, 寒川美奈, 遠山晴一: 慢性非特異的腰痛症例に対するドロイーインが神経筋制御に与える影響. 第 26 回腰痛学会, 浜松, 2018.10.
19. 高松泰行, 湯川喜裕, 水口雅俊, 下村亮太, 美馬達哉: 一次運動野に対する経頭蓋的静磁場刺激が対側一次運動野に与える影響. 第 48 回日本臨床神経生理学会学術大会. 2018.10.

V. 研究活動

20. 千田周也, 越野裕太, 山中正紀, 寒川美奈, 遠山晴一: ストレッチングによる足関節背屈可動域の増大が片脚スクワット動作時の下肢 kinematics に与える影響. 第 29 回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 札幌, 2018.11.
21. 奈良昌哉, 寒川美奈, 鈴木雄貴, 中村賢太郎, 遠山晴一: 高校野球選手における投球障害予防に関する認識調査. 第 29 回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 札幌, 2018.11.
22. 萬井太規, 宮城島沙織, 小塚直樹, 小玉祐矢, 武田賢太, 浅賀忠義: 片脚立位姿勢制御の発達過程. 第 5 回日本小児理学療法学会学術大会, 大阪, 2018.12.
23. 萬井太規, 宮城島沙織, 小塚直樹, 種田健二, 井上貴博, 武田賢太, 浅賀忠義: 予測的姿勢調節の潜時と振幅の発達過程は異なる～体重心と足圧中心を用いた分析～. 第 23 回日本基礎理学療法学会学術大会, 京都, 2018.12.
24. 笠原敏史, 戎駿介: 高齢者のランダムな筋力調整能力について. 第 23 回日本基礎理学療法学会学術大会, 京都, 2018.12.
25. 井上貴博, 林正隆, 李想, 北原美佳, 前島 洋: GABA 受容体阻害下の運動療法が脳卒中後の機能回復に与える影響. 第 23 回日本基礎理学療法学会学術大会, 京都, 2018.12.
26. 中村賢太郎, 寒川美奈, 大場健裕, 山中正紀, 遠山晴一: スタティックストレッチングの伸長時間が筋の力生産能力へ与える影響. 第 6 回日本運動器理学療法学会学術大会, 福岡, 2018.12.
27. 佐橋健人, 千葉健, 石田知也, 山中正紀, 堀弘明, 由利真, 遠山晴一: 変形性膝関節症症例における片脚立位動作時の姿勢制御の特徴. 第 6 回日本運動器理学療法学会学術大会, 福岡, 2018.12.

[地方会]

1. 寒川美奈: スポーツ傷害に対する理学療法. 北海道理学療法士会日胆支部研修会, 苫小牧, 2019.2.
2. 内野みのり, 高橋由依, 小島伸枝, 大内みふか, 杉本寿司, 寒川美奈: 女性の腹圧生尿失禁と膣圧の関係性 (第一報). 第 69 回北海道理学療法士会, 札幌, 2018.7.
3. 池内里佳子, 大内みふか, 横山美翔, 高羅正成, 小島伸枝, 寒川美奈: 若年理学療法士における尿失禁有病率の実態調査 (第一報). 第 69 回北海道理学療法士会, 札幌, 2018.7.
4. 石田知也, 松本尚, 鈴木信, 伊藤雄, 山中正紀, 青木喜満: 膝前十字靭帯再建術症例に対する術後早期の膝関節伸展トルク目標値設定の有用性の検討. 第 69 回北海道理学療法士学術大会, 札幌, 2018.7.
5. 千々松雅人, 石田知也, 谷口翔平, 上野亮, 遠山晴一, 山中正紀: 膝関節に対する動作指導がカッティング動作時の膝関節角度および外反モーメントに与える影響. 第 69 回北海道理学療法士学術大会, 札幌, 2018.7.
6. 松本尚, 石田知也, 伊藤雄, 鈴木信, 青木喜満: 高校女子バスケットボール選手における膝前十字靭帯再建術後の股関節外転筋力の経時的変化. 第 69 回北海道理学療法士学術大会, 札幌, 2018.7.
7. 三上兼太郎, 添田有, 松本尚, 石田知也, 青木喜満: TKA 後 6 か月での患者立脚型機能評価 (KOOS) と客観的機能評価の関連性. 第 69 回北海道理学療法士学術大会, 札幌市, 2018.7.
8. 佐橋健人, 山中正紀, 千葉健, 石田知也, 越野裕太, 遠山晴一: 変形性膝関節症症例における静止立位時の姿勢制御の特徴. 第 69 回北海道理学療法士学術大会, 札幌市, 2018.7.

V. 研究活動

■業績

生活機能学分野

A. 学術論文

1. Takakura Y, Otsuki M, Sakai S, Tajima Y, Mito Y, Ogata A, Koshimizu S, Yoshino M, Uemori G, Takakura S, Nakagawa Y: Sub-classification of apraxia of speech in patients with cerebrovascular and neurodegenerative diseases. *Brain Cogn* 130: 1-10, 2019.
2. Sawamura D, Ikoma K, Ogawa K, Sakai S: Clinical utility of neuropsychological tests for employment outcomes in persons with cognitive impairment after moderate to severe traumatic brain injury. *Brain Inj* 32: 1670-1677, 2018
3. Yoshida K, Ogawa K, Mototani T, Inagaki Y, Sawamura D, Ikoma K, Sakai S. Flow experience enhances the effectiveness of attentional training: A pilot randomized controlled trial of patients with attention deficits after traumatic brain injury. *NeuroRehabilitation*. 43:183-193, 2018.
4. Murakami Y, Sakai S, Takeda K, Sawamura D, Yoshida K, Hirose T, Ikeda C, Mani H, Yamamoto T, Ito A: Autistic traits modulate the activity of the ventromedial prefrontal cortex in response to female faces. *Neuroscience Research* 133: 28-37, 2018.
5. Miyajima M, Omiya H, Yamashita K, Yambe K, Matsui M, Denda K: Therapeutic responses to a frontal/executive programme in autism spectrum disorder: Comparison with schizophrenia. *Hong Kong J Occup Ther* 31:69-75, 2018.

B. 著書

1. 境信哉(分担): 視覚・眼球運動. コメディカルのための専門基礎分野テキスト 人間発達学 改訂5版(福田恵美子編). 182-190, 中外医学社, 東京, 2019.
2. 境信哉(分担): ハンドスキル. コメディカルのための専門基礎分野テキスト 人間発達学 改訂5版(福田恵美子編). 191-200, 中外医学社, 東京, 2019.

C. 総説, 解説, 論評

1. Koch JC Jr, Takashima R: Language learning disabilities in higher education: a multidisciplinary approach. *IATEFL 2018 Brighton Conference Selections*: 33-35, 2019.
2. 金京室, 平山和美, 吉田一生, 矢野理香, 阿部正之, 大槻美佳, 桜庭 聡, 境 信哉: 短波長光への暴露が Motion sickness の感受性に及ぼす影響. *北海道医学雑誌* 93: 28, 2018.
3. 北川信樹, 井上貴雄: 認知機能障害に焦点をあてた気分障害のリワーク. *臨床精神薬理* 22巻1号, p43-50, 2019.

D. 報告書

V. 研究活動

E. その他

[受賞]

1. 境 信哉 第59回日本神経学会学術大会メディカルスタッフ最優秀賞 Primary progressive apraxia of speech (PPAOS) における特異的な単語発話の特徴
2. 境 信哉第6回日本難病医療ネットワーク学会優秀ポスター賞脊髄性筋萎縮症(SMA) I型児の意思伝達装置使用可能年齢についての検討

[学会研究会の主催]

[特許]

[報道]

F. 学会発表

A) 招待講演

[国際学会]

[国内学会]

[地方会]

1. 澤村大輔:「高次脳機能障害による生活場面における問題」第13回北海道言語聴覚士会学術集会特別講演, 札幌, 2018.10
2. 澤村大輔:「リハビリテーションのための画像の見方～C T・MRIを中心に」. 北海道作業療法士連盟講習会, 札幌, 2019.1.
3. 澤村大輔:「高次脳機能障害の評価と予後予測に基づいたアプローチ」. 北海道リハビリテーション大学校同窓会特別講演, 札幌 2019.2.

B) 一般演題

[国際学会]

1. Ito A, Yoshida K, Takeda K, Sawamura D, Murakami Y, Hasegawa A, Sakai S, Izuma K: The ventromedial prefrontal responses toward faces automatically represent belief about “being-liked”. 8th International Symposium on Biology of Decision Making, Paris, France, 2018.5.
2. Inoue T et al.:The effect of cognitive remediation therapy on the Event-Related Potential of schizophrenic patients.13Th World congress of World Association for Psychosocial Rehabilitation, Madrid, 2018.7.
3. Koch JC Jr, Takashima R: Language learning disabilities in higher education: a multidisciplinary approach. 52nd International IATEFL Conference and Exhibition, Brighton, UK, 2018.4.
4. Shan Y, Takashima R, Murata W: A scoping review on barriers to and facilitators of physical activity among older adults- analysis based on the transtheoretical model. 16th International Conference on Combined Actions and Combined Effects of Environmental Factors, Takasaki, 2018.9.

V. 研究活動

[国内学会]

1. 村上優衣, 境 信哉, 武田賢太, 澤村大輔, 吉田一生, 廣瀬喬道, 池田千紗, 萬井太規, 山本 徹, 伊藤文人: 自閉症傾向が顔の選好判断および脳活動に与える影響 自閉症傾向が顔の選好判断および脳活動に与える影響. 日本健康行動科学会第 16 回学術大会, 札幌, 2017.9.
1. 佐々木千穂, 境 信哉, 高田政夫, 竹島久志, 井村保, 伊佐地隆: 脊髄性筋萎縮症 (SMA) I 型児の意思伝達装置使用可能年齢についての検討. 第 6 回日本難病医療ネットワーク学会, 岡山, 2018 年 11 月.
2. 高田政夫, 佐々木千穂, 境 信哉, 井村 保, 竹島久志, 中礼仁孝, 児玉憲昭, 伊佐地隆 ICT スイッチ操作のための手装具原理の開発ー在宅 SMA (脊髄性筋萎縮症) I 型児の場合ー. 第 34 回日本義肢装具学会学術大会, 名古屋, 2018 年 11 月.
3. 佐々木千穂, 境 信哉, 児玉雅明, 小林拓矢, 遠藤良峻, 昌浦堯希, 菊地 悟, 竹島久志: e-ラーニングシステムを使用した重度肢体不自由児へコミュニケーション発達支援. 第 19 回日本言語聴覚学会, 富山, 2018 年 6 月.
4. 高倉祐樹, 中川賀嗣, 田島康敬, 水戸泰紀, 緒方昭彦, 輿水修一, 新保和賢, 吉野雅美, 上森元気, 境信哉, 大槻美佳: Primary progressive apraxia of speech (PPAOS) における特異的な単語発話の特徴. 第 59 回日本神経学会学術大会, 札幌, 2018 年 5 月.
5. 吉川左紀子, 伊藤文人, 澤村大輔, 吉田一生, 石岡俊之, 乾敏郎, 岩宮恵子: 「心身機能の回復に対する新たなアプローチに向けて: 作業療法・認知神経科学・臨床心理学の接点」. 第 82 回日本心理学会シンポジウム, 仙台, 2018.9.
6. 井上貴雄ら: 集団認知行動療法 (CBGT) 後にうつ病のためのメタ認知トレーニング (D-MCT) を用いることで就労定着に至った症例. 第 23 回日本デイケア学会, 千葉, 2018.10.
7. 谷口風由子, 井上貴雄ら: 精神科病院における IMR を活用したストレス対処プログラムの効果. 第 52 回日本作業療法学会, 名古屋, 2018.9.

[地方会]

1. 田丸仁啓, 青木光弘, 澤村大輔: 「手関節肢位の違いが指尖つまみに及ぼす影響について」第 49 回北海道作業療法学会, 函館, 2018.6.
2. 森元彩子, 高島理沙, 坂上真理: 障害者役割から主体的な社会との関わりへ変化した訪問作業療法の一例. 第 49 回北海道作業療法学会, 函館, 2018.6.
3. 杉田千秋, 高島理沙: 在宅復帰困難な介護老人保健施設入所者が生活する中で抱く思い. 第 49 回北海道作業療法学会, 函館, 2018.6.

■業績

健康科学分野

A. 学術論文

1. Tsuji S, Yagahara A, Wakabayashi Y, Horita K, Fujita K, Ogasawara K: Developing and Evaluating Radiotherapy Ordering System applied JJ1017 Codes. *J. Med. Imaging Health Inform.* 7: 64-72, 2017.
1. Gongxun Tan, Rachael A. Uson-Lopez, Md. Mostafizur Rahman, Toshiyuki Hosokawa, Takeshi Saito, Masaaki Kurasaki: Myricetin enhances on apoptosis induced by serum deprivation in PC12 cells mediated by mitochondrial signaling pathway. *Environmental Toxicology and Pharmacology* 57: 175-180, 2018.
2. Mahmuda Akter, Md. Tajuddin Sikder, Md. Mostafizur Rahman, A.K.M. Atique Ullah, Kaniz Fatima Binte Hossain, Subrata Banik, Toshiyuki Hosokawa, Takeshi Saito, Masaaki Kurasaki: A systematic review on silver nanoparticles-induced cytotoxicity: Physicochemical properties and perspectives. *Journal of Advanced Research* 9: 1-16, 2018
3. Md. Mostafizur Rahman, Junki Ukiana, Tajuddin Sikder, Hosokawa T, Takeshi Saito and Masaaki Kurasaki: Inhibitory effects of selenium on cadmium-induced cytotoxicity in PC12 cells via regulating oxidative stress and apoptosis. *Food and Chemical Toxicology*, 114:180-189, 2018. doi: 10.1016/j.fct.2018.02.034.
4. Evaluation of Their Stability, Cytotoxicity and Antibacterial Activity. *Journal of Inorganic and Organometallic Polymers and Materials*, 28:1483-1493, 2018. <https://doi.org/10.1007/s10904-018-0818-7>
5. Kawahara T, Kita T, Ueno Y, Yamasaki S, Kimura G, Nakanishi M, Hosokawa T, Kurasaki M, Sikder T, Saito T: Elucidation of the mechanism of changes in the antioxidant function with the aging in the liver of the senescence-accelerated mouse P10 (SAMP10). *Exp Gerontol.* 106:46-53, 2018. doi: 10.1016/j.exger.2018.02.025
6. Reiko Kishi, Rahel Mesfin Ketema, Yu Ait Bamai, Atsuko Araki, Toshio Kawai, Tazuru Tsuboi, Ikue Saito, Eiji Yoshioka, Takeshi Saito: Indoor environmental pollutants and their association with sick house syndrome among adults and children in elementary school. *Building and Environment*, 136: 293-301, 2018
7. Jahan M, Rahman M, Rahman MM, Sikder MT, Uson-Lopez RA, Selim ASM, Saito T, Kurasaki M: Microbiological safety of street-vended foods in Bangladesh. *Journal of Consumer Protection and Food Safety*, 13: 257-269 2018. doi.org/10.1007/s00003-018-1174-9
8. Sikder MT, Rahman MM, Jakariya M, Hosokawa T, Kurasaki M, Saito T: Remediation of water pollution with native cyclodextrins and modified cyclodextrins: A comparative overview and perspectives. *Chemical engineering Journal*, 355:920-941, 2019.
9. Rahman MM, Uson-Lopez RA, Sikder MT, Tan G, Hosokawa T, Saito T and Kurasaki M.: Ameliorative effects of selenium on arsenic-induced cytotoxicity in PC12 cells via modulating autophagy/apoptosis. *Chemosphere.* 196:453-466, 2018. doi: 10.1016/j.chemosphere.2017.12.149.

V . 研究活動

10. Toyomura A, Fujii T, Yokosawa K, Kuriki S: Speech Disfluency-dependent Amygdala Activity in Adults Who Stutter: Neuroimaging of Interpersonal Communication in MRI Scanner Environment. *Neuroscience* 374: 144-154, 2018.
11. Boasen J, Takeshita Y, Kuriki S, Yokosawa K: Spectral-spatial Differentiation of Brain Activity during Mental Imagery of Improvisational Music Performance using MEG, *Front Hum Neurosci* 12, Article 156, 2018.
12. Toyomura A, Yokosawa K, Shimojo A, Fujii T, Kuriki S: Turning a cylindrical treadmill with feet: an MR-compatible device for assessment of the neural correlates of lower-limb movement. *J Neurosci Methods*: 307, pp.14-22, 2018.
13. Yokosawa K, Takase R, Chitose R, Kimura K: Multiple Brain Activities during Sequential Memory Encoding —MEG Study of Modulation of Alpha-band Rhythm. *Conf Proc IEEE Eng Med Biol Soc*: 5-8, 2018.
14. Matsunaga R, Yasuda T, Johnson-Motoyama M, Hartono P, Yokosawa K, Abe J: Psychomusicology: Music, Mind, and Brain: 28: 178-188, 2018.
15. Teppei Suzuki, Yusuke Isomi, Shintaro Tsuji, Yuji Tani, Takumi Tanikawa, Hiroko Yamashina, Katsuhiko Ogasawara. Extraction of penetration factors of image diagnostic equipment and survey of possibility of introduction. *Health Policy and Technology* 7: 142–148, 2018.
16. Naomi Tamura, Tomoyuki Hanaoka, Kumiko Ito, Atsuko Araki, Chihiro Miyashita, Sachiko Ito, Hisanori Minakami, Kazutoshi Cho, Toshiaki Endo, Kazuo Sengoku, Katsuhiko Ogasawara, Reiko Kishi. Different Risk Factors for Very Low Birth Weight, Term-Small-for-Gestational-Age, or Preterm Birth in Japan. *Int. J. Environ. Res. Public Health* 15. 369. doi:10.3390/ijerph15020369. 2018
17. Tomomi Kuwabara, Ayako Yagahara, Katsuhiko Ogasawara. Evaluating the adequacy of medical care systems in Hokkaido, Japan. *Health Policy and Technology* 7: 251–264, 2018
18. Ayako Yagahara, Yuki Yokooka, Guoqian Jiang, Shintarou Tsuji, Akihisa Fukuda, Naoki Nishimoto, Kunio Kurowarabi, Katsuhiko Ogasawara. Construction of Mammographic Examination Process Ontology Using Bottom-up Hierarchical Task Analysis. *Radiological Physics and Technology* 11. 73–81:2018. <https://doi.org/10.1007/s12194-017-0439-9>
19. Ayako Yagahara, Keiri Hanai, Shin Hasegawa, Katsuhiko Ogasawara. Relationships Among Tweets Related to Radiation: Visualization Using Co-Occurring Networks. *JMIR Public Health Surveill* 4. e26: 2018. doi:10.2196/publichealth.7598.
20. Teppei Suzuki, Tomoko Shimoda, Noriko Takahashi, Kaori Tsutsumi, Mina Samukawa, Sadako Yoshimura, Katsuhiko Ogasawara. Relationship Using multiple linear regression analysis and Bayesian network model analysis of factors affecting bone mineral density of residents in snowy region of Japan. *Interact J Med Res* 7. e10. 2018: doi:10.2196/ijmr.8555.
21. Nagahori C, Kinjo Y, Vodounon AJ, Alao MJ, Padounou Batossi G, Hounkpatin B, Amoule Houenassi E, Yamauchi T: Possible effect of maternal safe food preparation behavior on child malnutrition in Benin, Africa, *Pediatrics International*, DOI: 10.1111/ped.13656, 2018.

V . 研究活動

22. Hasegawa J, Suzuki H, Yamauchi T: Impact of season on the association between muscle strength/volume and physical activity among community-dwelling elderly people living in snowy-cold regions. *Journal of Physiological Anthropology*. 37:25. 2018.
23. Otsuka Y, Agestika L, Widyanani, Sintawardani N, Yamauchi T: Risk Factors for Undernutrition and Diarrhea Prevalence in an Urban Slum in Indonesia: Focus on Water, Sanitation, and Hygiene. *American Journal of Tropical Medicine and Hygiene* 100:727-732. 2019.
24. Ohashi J, Naka I, Furusawa T, Kimura R, Natsuhara K, Yamauchi T, Nakazawa M, Ishida T, Inaoka T, Matsumura Y, Ohtsuka R. Association study of CREBRF missense variant (rs373863828:G>A; p.Arg457Gln) with levels of serum lipid profile in the Pacific populations. *Annals of Human Biology* 45: 215-219.
25. Issiki M, Naka I, Kimura R, Furusawa T, Natsuhara K, Yamauchi T, Nakazawa M, Ishida T, Ohtsuka R, Ohashi J (2018) Mitochondrial DNA variations in Austronesian-speaking populations living in the New Georgia Islands, the Western Province of the Solomon Islands. *Journal of Human Genetics* 63: 101-104.
26. Otsuka Y, Ushijima K, Ikemi M, Milawati D, Sintawardani N, Yamauchi T: Mapping of Water, Sanitation, Hygiene and Child Health in an Urban Slum of Indonesia. *Sanitation Value Chain*. 2:27-37. 2018.
27. Nyambe S, Hayashi K, Zulu J, Yamauchi T: Water, Sanitation, Hygiene, Health and Civic Participation of Children and Youth in Peri-Urban Communities: An Overview of Lusaka, Zambia, Field Research Report 2016. *Sanitation Value Chain*. 2: 39-54. 2018.
28. Isshiki M, Naka I, Nishida N, Furusawa T, Kimura R, Natsuhara K, Yamauchi T, Nakazawa M, Ishida T, Inaoka T, Matsumura Y, Ohtsuka R, Ohashi J (2018) Association of an intronic SNP of the EFEMP1 gene with height in Tongans. *Meta Gene* 17: 172-176.
29. Takeda S, Sakurai T, Hui SP, Fuda H, Chiba H :Effects of enzymes on elastic modulus of low-density lipoproteins were investigated using atomic force microscopy. *Biochem.Biophys.Res.Commun.*501: 607-611,2018
30. Yamamoto Y, Furukawa T, Takeda S, Kashida H, Chiba H :Examining the effect of regioisomerism on the physico-chemical properties of lysophosphatidylethanolamine-containing liposomes using fluoro probes. *Chem. Phys. Lipids* 216:9-16,2018
31. Takeda S, Mukasa K, Hui SP, Chiba H :Interaction between LDL-mimetic liposomes and acid-treated carbon nanotube electrode during Cu²⁺-mediated oxidation. *Biochem.Biophys.Res.Commun.*513: 275-279,2019
32. Okabe, H.; Shimizu, C.; Yamamoto, M.; Kikuchi, R.; Minami, A.; Chen, Y.-F.; Imai, H.; Mizuta, M.; Chen, Z.; Chiba, H.; et al. Determination of Serum 25-Hydroxyvitamin D3 by LC/MS/MS and Its Monthly Variation in Sapporo Indoor Workers. *Anal. Sci.* 2018, 34 (9), 1043–1047.
33. Chen, Z.; Wu, Y.; Shrestha, R.; Gao, Z.; Zhao, Y.; Miura, Y.; Tamakoshi, A.; Chiba, H.; Hui, S.-P. P. Determination of Total, Free and Esterified Short-Chain Fatty Acid in Human Serum by Liquid Chromatography-Mass Spectrometry. *Ann. Clin. Biochem.* 2018, 56 (2), 4563218801393.
34. Chen, Z.; Zang, L.; Wu, Y.; Nakayama, H.; Shimada, Y.; Shrestha, R.; Zhao, Y.; Miura, Y.; Chiba, H.; Hui, S.-P.; et al. Lipidomic Profiling on Oxidized Phospholipids in Type 2 Diabetes Mellitus Model Zebrafish. *Anal. Sci.* 2018, 34 (10), 1201–1208.

V . 研究活動

35. Nakamura, K.; Hui, S.-P.; Ukawa, S.; Okada, E.; Nakagawa, T.; Okabe, H.; Chen, Z.; Miura, Y.; Chiba, H.; Tamakoshi, A. Serum 25-Hydroxyvitamin D3 Levels and Poor Sleep Quality in a Japanese Population: The DOSANCO Health Study. *Sleep Med.* 2019.
36. Okazaki, F.; Zang, L.; Nakayama, H.; Chen, Z.; Gao, Z.-J.; Chiba, H.; Hui, S.-P.; Aoki, T.; Nishimura, N.; Shimada, Y. Microbiome Alteration in Type 2 Diabetes Mellitus Model of Zebrafish. *Sci. Rep.* 2019, 9 (1), 867.
37. Sakurai, T.; Hayasaka, T.; Sekiguchi, H.; Satoh, H.; Chen, Z.; Chiba, H.; Hui, S.-P. Dietary Salmon Milt Extracts Attenuate Hepatosteatosis and Liver Dysfunction in Diet-Induced Fatty Liver Model. *J. Sci. Food Agric.* 2019, 99 (4), 1675–1681.
38. Zhao, Y.; Chen, Z.; Wu, Y.; Tsukui, T.; Ma, X.; Zhang, X.; Chiba, H.; Hui, S.-P. Separating and Profiling Phosphatidylcholines and Triglycerides from Single Cellular Lipid Droplet by In-Tip Solvent Microextraction Mass Spectrometry. *Anal. Chem.* 2019, acs.analchem.8b05122.
39. Ge A, Qiao L, Seo J, Yui N, Ye S: Surface-Restructuring Differences between Polyrotaxanes and Random Copolymers in Aqueous Environment. *Langmuir* 34: 12463-12470, 2018
40. Tan H, Zhao C, Zhu Q, Katakura Y, Tanaka H, Ohnuki K, Shimizu K: Ursolic acid, isolated from the leaves of loquat (*Eriobotrya japonica*) inhibited osteoclast differentiation through targeting exportin 5. *J. agric. food chem*, 67:3333 – 3340, 2019.
41. Lin Y, Wang Y, Li B, Tan H, Li D, Li L, Liu X, Han J, Meng X: Comparative transcriptome analysis of genes involved in anthocyanin synthesis in blueberry. *Plant Physiol Biochem*, 127:561-572, 2018.
42. Mishima E, Fukuda S, Kanemitsu Y, Saigusa D, Mukawa C, Asaji K, Matsumoto Y, Tsukamoto H, Tachikawa T, Tsukimi T, Fukuda N-N, Ho H-J, Kikuchi K, Suzuki C, Nanto F, Suzuki T, Ito S, Soga T, Tomioka Y, Abe T: Canagliflozin reduces plasma uremic toxins and alters the intestinal microbiota composition in a chronic kidney disease mouse model. *Am J Physiol Renal Physiol*, 315: F824-F833, 2018.
43. Darwish WS, Chiba H, El-Ghareeb WR, Elhelaly AE, Hui S-P: Determination of polycyclic aromatic hydrocarbon content in heat-treated meat retailed in Egypt: Health risk assessment, benzo[a]pyrene induced mutagenicity and oxidative stress in human colon (CaCo-2) cells and protection using rosmarinic and ascorbic acids. *Food Chemistry* 290:114-124, 2019. <https://doi.org/10.1016/j.foodchem.2019.03.27>
44. Darwish WS, Chiba H, Elhelaly AE, Hui SP: Estimation of cadmium content in Egyptian foodstuffs: health risk assessment, biological responses of human HepG2 cells to food-relevant concentrations of cadmium, and protection trials using rosmarinic and ascorbic acids. *Environmental Science and Pollution Research*, 2019. doi: 10.1007/s11356-019-04852-5.
45. Morshdy AEMA, Darwish WS, Daoud JRM, Sebak MAM: Estimation of metal residues in *Oreochromis niloticus* and *Mugil cephalus* intended for human consumption in Egypt: a health risk assessment study with some reduction trials. *Journal of Consumer Protection and Food Safety* 14:81-91, 2019.
46. Kawai YK, Shinya S, Ikenaka Y, Saengtiechai A, Kondo T, Darwish WS, Nakayama SMM, Mizukawa H, Ishizuka M: Characterization of function and genetic feature of UDP-glucuronosyltransferase in avian species. *Comparative Biochemistry and Physiology Part - C: Toxicology and Pharmacology* 217:5-14, 2019.

V. 研究活動

47. Thompson LA, Ikenaka Y, Darwish WS, Yohannes YB, Van Vuren JJ, Wepener V, Smit NJ, Assefa AG, Tharwat A, Eldin WFS, Nakayama SM, Mizukawa H, Ishizuka M: Investigation of mRNA expression changes associated with field exposure to DDTs in chickens from KwaZulu-Natal, South Africa. PloS ONE, 13(10):e0204400, 2018.
48. Thompson LA, Ikenaka Y, Yohannes YB, Ichise T, Ito G, Bortey-Sam N, van Vuren JJ, Wepener V, Smit NJ, Darwish WS, Nakayama SMM, Mizukawa H, Ishizuka M: Human health risk from consumption of marine fish contaminated with DDT and its metabolites in Maputo Bay, Mozambique. Bulletin of Environmental Contamination and Toxicology, 100(5):672-676, 2018.
49. Darwish WS, Ikenaka Y, Nakayama S, Mizukawa H, Thompson LA, Ishizuka M: β -carotene and retinol reduce benzo[a]pyrene-induced mutagenicity and oxidative stress via transcriptional modulation of xenobiotic metabolizing enzymes in human HepG2 cell line. Environmental Science and Pollution Research, 25(7):6320-6328, 2018. D
50. Thompson LA, Darwish WS: Environmental Chemical Contaminants in Food: Review of a Global Problem. Journal of Toxicology 2019, 2345283, 2019.
51. 横澤宏一：フィンランドの教育 そのしくみと成果. 臨床検査学教育 11: 38-41, 2019.
52. 森井康博, 石川智基, 辻真太郎, 鈴木哲平, 小笠原克彦. 北海道における医療従事者の地域偏在度の職種間比較. 医療情報学 37: 285-289, 2018.
53. 岩田邦弘, 森谷俊春, 中川貞裕, 小笠原克彦. Gd-EOB-DTPA 造影 MRI 検査の大腸癌術前肝転移検索における効率の評価. 日本放射線技術学会雑誌 74: 29-38, 2018.
54. 青木祐美, 谷祐児, 藤原健祐, 小笠原克彦. 診療放射線技師数の需要と供給の将来予測. 日本診療放射線技師会誌 65: 1157-1163, 2018
55. 辻真太郎, 谷川原綾子, 福田晋久, 谷川琢海, 川真田実, 西本尚樹, 島井健一郎, 星野修平, 小笠原克彦. テキストマイニングを用いた教科書からの専門用語の抽出—放射線技術学領域における用語集の更新に向けて—. 日本放射線技術学会雑誌 74: 57-768, 2018
56. 山内太郎: 日常をハカル: 時空間利用と身体活動への展望. 日本食生活学会誌 28(4), 247-252, 2018

B. 著書

1. 谷祐児, 小笠原克彦. 第4編第3章 医療情報システム. 新医用放射線科学講座・医用画像情報工学 (編集: 藤田広志, 寺本篤司, 岡部哲夫). 193-202, 208-210, 医歯薬出版, 東京, 2018.
2. 辻真太郎, 小笠原克彦. 第3編第9章 遠隔画像診断 (テレラジオロジー). よくわかる医用画像情報学 (監修: 石田隆行 共編: 李鎔範, 小笠原克彦). 220-231, オーム社, 東京, 2018.
3. 辻真太郎, 小笠原克彦. 第3編第10章 セキュリティ. よくわかる医用画像情報学 (監修: 石田隆行 共編: 李鎔範, 小笠原克彦). 232-242, オーム社, 東京, 2018.
4. 李鎔範, 小笠原克彦. (共編) よくわかる医用画像情報学. 2-252, オーム社, 東京, 2018

C. 総説, 解説, 論評

1. Yamauchi, T: Co-creating the sanitation value chain in Lusaka, Zambia by designing sanitation systems. Forum Proceedings. Zambia Water Forum and Exhibition (ZAWAFE), 2018.

V . 研究活動

2. Yamauchi, T: CO-CREATING THE SANITATION VALUE CHAIN: Designing sanitation system as eco-community-value systems. Conference Proceedings. XXIII International Conference Society for Human Ecology. 2018.
3. Yamauchi T, Otsuka Y: Influence of water, sanitation, and hygiene (WASH) on child health in an urban slum of Indonesia. Symposium Proceedings. 3rd International Symposium on Green Technology for Value Chains 2018. 2018.
4. Yamauchi T: Community-based participatory research to develop and drive the 'Sanitation Value Chain' in local communities. Symposium Proceedings. Japan-Philippine-Indonesia International Symposium on Sanitation 2019. 2019.
5. Yamauchi T: Field Research in Human Ecology: Bottom-Up Approach in Developing Countries. Lecture Proceedings. Special Lecture of Anthropology and Archeology, Oxford University. 2019.
6. 山内太郎：人類生態学者に聞く，研究生活の魅力～フィールドワークで解き明かす人類のライフスタイルと健康. 日本生理人類学会夏季セミナー要旨集 . 2018.
7. 山内太郎：人の遊動・行動・生活をハカル～生活時空間から栄養適応への展望. 第 48 回ホミニゼーション研究会要旨集 . 2019.
8. Nyambe, S., Hayashi, K., Zulu, J., Yamauchi T. (2018) Dziko Langa Kilo! A health living, I see you!: Incorporating children and youth in peri-urban sanitation and health in Lusaka. Forum Proceedings. Zambia Water Forum and Exhibition (ZAWAFE) 2018. 2018.
9. Hayashi K, Nakao S, Yamauchi T: Defecation without toilets: toward the study of sanitation activities in the hunter-gatherers. Conference Proceedings. 12th International Conference on Hunting Gathering Societies (CHAGS 12). 2018.
10. Hagino I, Yamauchi T: Daily behavior and food procurement activities of Baka children in central African rainforest. Conference Proceedings. 12th International Conference on Hunting Gathering Societies (CHAGS 12). 2018.
11. Nyambe S, Hayashi K, Yamauchi T: The image of peri-urban sanitation and health through the eyes of the young: Understanding community sanitation and health in Lusaka, Zambia. Conference Proceedings. 6th International Dry Toilet Conference. 2018.
12. Yamauchi T: Secular changes in growth and physical fitness among Japanese children: past, present and future. Symposium Proceedings. Russian-Japanese Scientific Symposium. 2018.
13. Yamauchi T: Sanitation Value Chain: Designing Sanitation Systems as Eco-Community-Value System. Workshop Proceedings. 1st Workshop of Core to Core IRIS (2018-2022). 2019.
14. 山内太郎, 中尾世治：サハラ以南アフリカにおけるサニテーション研究の現状と課題. 第 55 回日本アフリカ学会要旨集 . 2018.
15. Nyambe S., Zulu J., Hayashi K., Yamauchi T: Using photographs to tell the story of sanitation and health in peri-urban Lusaka, Zambia. Conference Proceedings. 55th Annual Conference for Japan Association of African Studies. 2018
16. 長谷川純子, 山内太郎：ザンビア共和国における 2 歳未満児の低栄養状態スクリーニング方法の開発. 第 55 回日本アフリカ学会要旨集 . 2018.

V. 研究活動

17. 萩野泉, 山内太郎: 中央アフリカ熱帯雨林狩猟採集民 Baka の子ども食物獲得: 16 日間の狩猟キャンプ観察. 第 55 回日本アフリカ学会要旨集. 2018.
18. 林耕次, 中尾世治, 山内太郎: 狩猟採集民の排泄行動—カメルーン, バカ・ピグミーの個体追跡による時間・空間分析から. 第 55 回日本アフリカ学会要旨集. 2018.
19. 郝明, 王佩佩, 韓威, 山内太郎: 中国の都市郊外に居住する乳幼児の体格と粗大運動発達. 第 78 回日本生理人類学会要旨集. 2018.
20. 長谷川純子, 鈴木英樹, 山内太郎: 積雪寒冷地における地域在住高齢者の身体活動の季節変動とサルコペニアの関係. 第 5 回日本サルコペニア・フレイル学会要旨集. 2018.
21. 賀加貝, 曾怡, 韓威, 郝明, 山内太郎: 中国東北部に居住する小学生の衛生に関する知識, 態度および実践とその影響要因. 第 83 回日本健康学会要旨集. 2018.
22. Agestika, L., Hamidah, U., Sintawardani, N., Yamauchi T: Modernization in Paradox: Infant and Young Children Faeces Management as well as Child Growth in The Urban Slum of Indonesia. Conference Proceedings. 33rd Japan Association for International Health (JAIH) Conference. 2018.
23. 藪岸翔子, 井上貴雄, Neni SINTAWARDANI, 山内太郎: インドネシア都市スラムにおける成人男女の QOL/メンタルヘルスの現状およびその関連. 第 33 回日本国際保健医療学会要旨集. 2018.
24. Ho H-J, Shirakawa H, Giriwono PE, Ito A, Komai M. A novel function of geranylgeraniol in regulating testosterone production. Biosci Biotechnol Biochem. 82:956-962, 2018.
25. 白川仁, 何欣蓉, 駒井三千夫: ゲラニルゲラニオール作用と最近の話題 (特集 最近話題の油脂関連素材) The Function of Geranylgeraniol オレオサイエンス日本油化学会 18: 99-106, 2018.

D. 報告書

E. その他

[受賞]

1. 山内太郎: 日本生理人類学会第 78 回大会 優秀発表賞 中国の都市郊外に居住する乳幼児の体格と粗大運動発達
2. 陳震: 第 43 回日本医用マススペクトル学会年会 若手優秀ポスター賞 LC/HR-MS/MS を用いた肝硬変ラット肝臓中脂質と過酸化脂質の定量分析
3. WAGEH DARWISH: Egypt State Encouragement Award For overall my research activities

[学会研究会の主催]

1. 小笠原克彦: 第 74 回日本放射線技術学会北海道支部学術大会春季大会 (札幌医科大学臨床教育研究棟, 札幌市), 2018.4.21-22
2. 小笠原克彦: 第 74 回日本放射線技術学会北海道支部学術大会秋季大会 (札幌医科大学臨床教育研究棟, 札幌市), 2018.11.24-25
3. 山内太郎: 日本アフリカ学会第 55 回学術大会 (北海道大学, 札幌市), 2018.5.26-27
4. 山内太郎: Japan-Philippine-Indonesia International Symposium on Sanitation, マニラ (デ・ラ・サール大学), 2019.1.26
5. 山内太郎: 第 6 回北大・地球研合同セミナー (北海道大学, 札幌市), 2018.6.30

V. 研究活動

6. 山内太郎：Journal of Physiological Anthropology Seminar（総合地球環境学研究所，京都市），2018.11.18
7. 山内太郎：2018年度第1回日本アフリカ学会北海道支部研究会（北海道大学，札幌市），2018.11.20
8. 山内太郎：2018年度第2回日本アフリカ学会北海道支部研究会（北海道大学，札幌市），2019.2.8

[特許]

[報道]

F. 学会発表

A) 招待講演

[国際学会]

1. Saito T: Epigenetic origins of health and diseases. "Integration of genomics into nursing and life style care", The 12th International Nursing Research Conference, Seoul, 2018.11 (Invitation lecture)
2. Ogasawara K. Japanese health system and family medicine. International conference for family medicine 2018(家庭医サービス国際講習研究会 2018), Qingdao (China), 2018.7
3. Yamauchi, T. (2018) Co-creating the sanitation value chain in Lusaka, Zambia by designing sanitation systems. Zambia Water Forum and Exhibition (ZAWAFE), Government Complex, Lusaka, Zambia, 2018.06.11-13.
4. Yamauchi, T. (2018) CO-CREATING THE SANITATION VALUE CHAIN: Designing sanitation system as eco-community-value systems. XXIII International Conference Society for Human Ecology. Lisbon, Portugal, 2018.07.07-10.
5. Yamauchi T, Otsuka Y: Influence of water, sanitation, and hygiene (WASH) on child health in an urban slum of Indonesia. 3rd International Symposium on Green Technology for Value Chains 2018. Jakarta, Indonesia. 2018.11.01-02.
6. Yamauchi T: Community-based participatory research to develop and drive the 'Sanitation Value Chain' in local communities. Japan-Philippine-Indonesia International Symposium on Sanitation 2019. Manila, Philippine. 2019.01.26.
7. Yamauchi T: Field Research in Human Ecology: Bottom-Up Approach in Developing Countries. Special Lecture of Anthropology and Archeology. Oxford University, UK. 2019.03.20.

[国内学会]

1. 横澤宏一：臨床工学と生体医工学. 第57回日本生体医工学会大会，札幌，2018.6.
2. 福岡 豊，横澤宏一，木村裕一：論文執筆のポイントと投稿のルール (Points to writing a scientific paper and submission guidelines). 第57回日本生体医工学会大会，札幌，2018.6.
3. 横澤宏一：MEGの原理と基礎知識. 日本臨床脳磁図コンソーシアム 第6回教育研修セミナー，札幌，2018.7.
4. 横澤宏一：フィンランドの教育 - その仕組みと成果. 第13回日本臨床検査学教育学会学術大会，札幌，2018.8.

V. 研究活動

5. 小笠原克彦. 価値に基づく医療について考える - 医療経済学・医療技術評価の観点から - 第 27 回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術大会, 札幌, 2018.5.
6. 山内太郎: 人類生態学者に聞く, 研究生活の魅力～フィールドワークで解き明かす人類のライフスタイルと健康. 日本生理人類学会夏季セミナー. 札幌. 2018.09.04.
7. 山内太郎: 人の遊動・行動・生活をハカル～生活時空間から栄養適応への展望. 第 48 回ホミニゼーション研究会. 京都大学霊長類学研究所, 犬山. 2019.02.28-3.01.
8. 武田晴治, 櫻井俊宏, 恵淑萍, 千葉仁志: LDL の硬さと加齢について. 第 58 回日本臨床化学学会年次学術集会, 名古屋, 2018.8
9. Takeda S, Sakurai T, Hui SP, Fuda H, Chiba H: Putative mechanism of the elastic modulus change of low density-lipoprotein by oxidation or enzyme treatment. 第 55 回日本生物物理学会年会, 熊本, 2018.09
10. Tan H: Ursolic acid, isolated from the leaves of loquat (*Eriobotrya japonica*) inhibited osteoclast differentiation through specific target. 第 64 回日本木材学大会, 函館, 2019. 3.
11. 譚慧, 布田博敏, 千葉仁志, 恵淑萍: Investigation for target protein of ursolic acid with inhibitory activity on osteoclast differentiation. 第 43 回日本医用マスペクトル学会, 2018.9.

[地方会]

1. (2017 年度記載漏れ) 小笠原克彦: 北海道における医療 GIS の現状と展望 - 地域医療の可視化と将来予測. 第 10 回 GIS フォーラム in 北海道. 札幌, 2017.10
2. 小笠原克彦: 北海道における医療 GIS の現状と展望 - 地域医療の可視化と将来予測. 第 24 回 NORTH インターネット・シンポジウム 2018. 札幌, 2018.3.
3. 山内太郎: 人類生態学フィールドワーク入門: 人々の暮らしと健康. 第 4 回サニテーションセミナー, 総合地球環境学研究所, 京都, 2018.06.06.
4. 山内太郎: サニテーションと健康と幸福. 寄附で応援! 北大の研究, アンビシャスな交流会. 北海道大学ホームカミングデー. 2018.09.30.
5. 鈴木拓貴, 譚慧, 布田博敏, 千葉仁志, 恵淑萍: ムール貝抽出物の新たな機能性と質探索. 第 98 回北海道医学大会, 札幌, 2018.9.

B) 一般演題

[国際学会]

1. Sikder Md. Tajuddin; Rahman, Md. Mostafizur; Hossain, Kaniz Fatima Binte; Akter, Mahmuda; Yamasaki, Shojiro; Kimura, Goh; Tomihara, Tomomi; Kurasaki, Masaaki; Saito, Takeshi. Amelioration of metal induced cellular stress by alpha lipoic acid through antioxidative effects in PC12 cells and Caco-2 cells. 20th ISANH International Conference on Oxidative Stress, Redox Homeostasis & Antioxidants (Paris Redox 2018), Paris, 2018.6
2. Rahman, Md. Mostafizur, Sikder Md. Tajuddin; Saito, Takeshi; Kurasaki, Masaaki. Selenite Ameliorates arsenite-induced cytotoxicity in PC12 cells via modulating apoptosis. 20th ISANH International Conference on Oxidative Stress, Redox Homeostasis & Antioxidants (Paris Redox 2018), Paris, 2018.6

V . 研究活動

3. Hossain, Kaniz Fatima Binte; Rahman, Md. Mostafizur; Sikder Md. Tajuddin; Saito, Takeshi; Kurasaki, Masaaki. Protection of dihydrolipoic acid on mercury induced cytotoxicity in PC12 cells. 58th Annual Meeting & ToxExpo, Baltimore (USA), 2019.3
4. Akter, Mahmuda; Ullah, Atique AKM; Saito, Takeshi; Kurasaki, Masaaki. Anticancer efficiency of phytosynthesized nanoparticles in Colorectal cancer cells (Caco-2) via beclin-1 mediated autophagy. 58th Annual Meeting & ToxExpo, Baltimore (USA),2019.3
5. Yokosawa K, Takase R, Chitose R, Kimura K: Multiple Brain Activities during Sequential Memory Encoding —MEG Study of Modulation of Alpha-band Rhythm. Engineering in Medicine and Biology Society (EMBC), 40th Annual International Conference of IEEE, Honolulu, USA, 2018.8.
6. Takase R, Kuriki S, Yokosawa K: Aging dulls frontal-theta increase during memory maintenance. Engineering in Medicine and Biology Society (EMBC), 40th Annual International Conference of IEEE, Honolulu, USA, 2018.8.
7. Murakami Y, Boasen J, Suzuki N, Ogino K, Kuwatani W, Takahashi S, Nagaya M, Hirayama I, Maruyama A, Yokosawa K: Mechanisms of Age-related Memory Decline – MEG study of Alpha-band Activity during Memory Encoding. Engineering in Medicine and Biology Society (EMBC), 40th Annual International Conference of IEEE, Honolulu, USA, 2018.8.
8. Matsunaga R, Takeshita Y, Shimojo A, Imai F, Yokosawa K, Abe J: Do early experiences of music exposure have any effects on bi-musical brains? 15th International Conference on Music Perception and Cognition/10th triennial conference of the European Society for the Cognitive Sciences of Music (ICMPC15/ESCOM10), Sydney, Australia, 2018.7.
9. Boasen J, Watanabe H, Onishi H, Shimojo A, Shiraishi H, Saito T, Yokosawa K: Intra and inter-subject brain activity during musical improvisation using dual-MEG. 48th Annual Meeting, Society for Neuroscience (SFN) (Neuroscience 2018), San Diego, USA, 2018.11.
10. Boasen J, Takeshita Y, Kuriki S, Yokosawa K: Disinhibition during musical improvisation is linked to creative ability. 5th Meeting of the Society for the Neuroscience of Creativity, San Francisco, USA, 2019.3.
11. Yagahara A, Tsuji S, Fukuda A, Nishimoto N, Jiang G, Ogasawara K. Extraction of image processing and diagnosis terms for computer-aided diagnosis ontology construction-Morphological analysis using RadLex and image processing terminology-, European Congress of Radiology 2018 (ECR 2018), Vienna, Austria, 2018.2
12. Nyambe, S., Hayashi, K., Zulu, J., Yamauchi T. (2018) Dziko Langa Kilo! A health living, I see you!: Incorporating children and youth in peri-urban sanitation and health in Lusaka. Zambia Water Forum and Exhibition (ZAWAFE), Government Complex, Lusaka, Zambia, 2018.06.11-13.
13. Hayashi K, Nakao S, Yamauchi T: Defecation without toilets: toward the study of sanitation activities in the hunter-gatherers. 12th International Conference on Hunting Gathering Societies (CHAGS 12). Universiti Sains Malaysia, Penang, Malaysia, 2018.07.23-27.
14. Hagino I, Yamauchi T: Daily behavior and food procurement activities of Baka children in central African rainforest. 12th International Conference on Hunting Gathering Societies (CHAGS 12). Universiti Sains Malaysia, Penang, Malaysia, 2018.07.23-27.

V. 研究活動

15. Nyambe S, Hayashi K, Yamauchi T: The image of peri-urban sanitation and health through the eyes of the young: Understanding community sanitation and health in Lusaka, Zambia. 6th International Dry Toilet Conference, Tampere, Finland. 2018.08.22-24.
16. Yamauchi T: Secular changes in growth and physical fitness among Japanese children: past, present and future. Russian-Japanese Scientific Symposium. Moscow, Russia. 2018.12.05-07.
17. Yamauchi T: Sanitation Value Chain: Designing Sanitation Systems as Eco-Community-Value System. 1st Workshop of Core to Core IRIS (2018-2022). Oxford University, UK. 2019.03.22.
18. Ho H-J: SGLT1 inhibition altered gut microbiota and reduced uremic toxins in adenine-induced CKD mouse“ISN Frontiers Tokyo 2018“, Tokyo, 2018.2.
19. Darwish WS, Chiba H, Hui S-P: Estimation of cadmium residues in animal byproducts using ICP/MS: Health risk assessment, in-vitro cadmium induced adverse effects and protection with ascorbic and rosmarinic acids.The 43rd Annual meeting of the Japanese Society of Biomedical Mass Spectrometry, Hokkaido University, Japan, 2018.9.
20. Li Y, Darwish WS, Chen Z, Wu Y, Chiba H, Hui S-P: Lead-induced alterations in lipid homeostasis in human liver (HepG2) cells and protection with ascorbic and rosmarinic acids.The 43rd Annual meeting of the Japanese Society of Biomedical Mass Spectrometry, Hokkaido University, Japan, 2018.9.
21. Darwish WS, Chiba H, Hui S-P: Protective effects of ascorbic and rosmarinic acids against benzo[a]pyrene-induced mutagenicity and oxidative stress.The 98th Hokkaido Medical Congress, Sapporo, Japan, 2018,09.
22. Li Y, Darwish W., Chen Z., Wu Y., Chiba H., Hui S.-P. : Cadmium alters lipid hemostasis in human liver (HepG2) cells and protection with rosmarinic and ascorbic acids. The 98th Hokkaido Medical Congress, Sapporo, Japan, 2018,09.
23. Darwish WS, Chen Z, Li Y, Wu Y, Chiba H, Hui S-P: Fat-soluble vitamins protect against cadmium-induced cytotoxicity and oxidative stress in human breast cancer cells. 4th Hokkaido University Cross-Sectional Symposium, School of Medicine, Hokkaido University, Japan, 2019, 1.
24. Wu Y, Chen Z, Darwish WS, Chiba H, Hui S-P (2019) Plasmalogen species protect HepG2 cells from lead-induced cytotoxicity and lipid peroxidation. 4th Hokkaido University Cross-Sectional Symposium, School of Medicine, Hokkaido University, Japan, 2019, 1.

[国内学会]

1. 齋藤 健, 河原妙, 山崎尚二郎, 木村 豪, 上野祐可子, 富原朋美, 中西美貴, Ketema Rahel M, Sikder Md Tajuddin, 細川敏幸, 蔵崎正明: 加齢に伴う活性酸素代謝機能の変動が SAMP10 マウスの老化を促進する. 第 29 回日本微量元素学会, 名古屋, 2018 年 7 月 7 日～ 8 日
2. Bondad Serene Ezra Corpus, 齋藤 健, 蔵崎正明: エピガロカテキンがレートと L-アスコルビン酸の PC12 細胞に対するカドミウム誘導毒性に及ぼす併用効果. 第 29 回日本微量元素学会, 名古屋, 2018 年 7 月 7 日～ 8 日 (口頭).
3. 山崎尚二郎, 木村豪, Sikder Md Tajuddin, 佐藤伸, 蔵崎正明, 齋藤健: 母ラットの高脂肪食および緑茶抽出物摂取が仔ラットの脂質代謝および活性酸素代謝へ及ぼす影響. 第 29 回日本微量元素学会, 名古屋, 2018 年 7 月 7 日～ 8 日

4. 齋藤健, 山崎尚二郎, 富原朋美, Ketema Rahel Mesfin, 木村豪, Md. Tajuddin Sikder, 蔵崎 正明: 老化促進モデルマウス SAMP10 の加齢による肝臓中酸化酵素の変動ならびに活性酸素代謝関連必須微量元素の ICP-MS/MS による動態解析. 第 43 回日本医用マスペクトル学会年会 札幌, 2018 年 9 月 6 日～7 日
5. 山崎尚二郎, 木村豪, 佐藤伸, 齋藤健, 蔵崎正明, Md. Tajuddin Sikder. 発達期における高脂肪食摂取が成熟期の活性酸素代謝に関わる必須微量元素の動態に及ぼす影響 -ICP-MS/MS による分析-. 第 43 回日本医用マスペクトル学会年会 札幌, 2018 年 9 月 6 日～7 日
6. Hossain Kaniz Fatima Binte, Rahman Md. Mostafizur, Sikder Md. Tajuddin, 細川敏幸, 齋藤健, 蔵崎正明. PC12 細胞における金属誘発細胞毒性に対するジヒドロリポ酸の保護効果. 第 89 回日本衛生学会, 名古屋, 2019 年 2 月 1 日～3 日
7. Bondad Serene Ezra Corpus, 細川敏幸, 齋藤健, 蔵崎正明. PC12 細胞におけるカドミウム誘導毒性に対する L-アスコルビン酸とエピガロカテキンガレートの比較評価. 第 89 回日本衛生学会, 名古屋, 2019 年 2 月 1 日～3 日
8. 木村豪, 山崎尚二郎, 上野祐可子, 富原朋美, Ketema Rahel M, 戴寧, Sikder Md. Tajuddin, 佐藤伸, 細川敏幸, 蔵崎正明, 齋藤健. 妊娠期母ラットの高脂肪食, 授乳期の緑茶抽出物の仔ラットの肝臓中脂質代謝への影響. 第 89 回日本衛生学会, 名古屋, 2019 年 2 月 1 日～3 日
9. 富原朋美, 山崎尚二郎, 上野祐可子, 木村豪, Ketema Rahel M, 佐藤伸, 細川敏幸, 蔵崎正明, 齋藤健. 初期糖尿病ラットの心臓における酸化ストレスの変化と小豆抽出物の効果. 第 89 回日本衛生学会, 名古屋, 2019 年 2 月 1 日～3 日
10. Rahel Mesfin Ketema, Yu Ait Bamai, Atsuko Araki, Takeshi Saito, Reiko Kishi: Urinary phthalate metabolites concentration and secular trends in 7 years old children, 2012-2017: Hokkaido Study. 第 89 回日本衛生学会, 名古屋, 2019 年 2 月 1 日～3 日
11. 下條暁司, 柳生一自, 曾根原剛志, 渡辺隼人, 品田大成, 前田珠希, 白石秀明, 横澤宏一, 齋藤卓弥: 仮想対面インタフェースを備えた直結型 dual 脳磁計. 第 57 回日本生体医工学会大会, 札幌, 2018.6.
12. 高瀬峻研, Jared F. Boasen, 栗城眞也, 横澤宏一: シーケンシャル記憶課題における記録時 θ 波帯域脳律動振幅の変調. 第 57 回日本生体医工学会大会, 札幌, 2018.6.
13. 渡辺隼人, 柳生一自, 下條暁司, 曾根原剛志, 品田大成, 前田珠希, 白石秀明, 横澤宏一, 齋藤卓弥: 光ファイバで直結した dual 脳磁計の構築. 第 33 回日本生体磁気学会大会, 広島, 2018.6.
14. 高瀬峻研, 栗城眞也, 横澤宏一: 加齢に伴う記憶保持中の前頭 θ 波振幅増大の抑制. 第 33 回日本生体磁気学会大会, 広島, 2018.6.
15. 竹下悠哉, 橋本侑里香, Jared Boasen, 渡辺隼人, 高瀬峻研, 横澤宏一: 音型の違いが音楽聴取時の脳応答に与える差異. 第 17 回 釧路ニューロサイエンスワークショップ, 釧路, 2018.6.
16. 豊村暁, 横澤宏一, 下條暁司, 藤井哲之進, 栗城眞也: 下肢運動に関連する脳活動を計測するための手法の検討. 第 12 回 Motor Control 研究会, 東京, 2018.8.
17. 竹下悠哉, 横澤宏一: 音色選択の重要性～リズム変化時における脳応答の提示音型による差異～. 日本音楽療法学会学術大会 第 18 回大会, 高松, 2018.9.
18. 松永理恵, ハルトノピトヨ, 横澤宏一, 阿部純一: 音階スキーマの発達過程における文化普遍的特性と文化固有的特性: 北米の子どもと日本の子どもの比較. 平成 30 年日本音楽知覚認知学会秋季研究発表会, 京都, 2018.12.

19. 松永理恵, 竹下悠哉, 横澤宏一, 阿部純一: 第二音楽(日本伝統音楽)を学習し始めた年齢がバイミュージカルな聞き手の脳内音楽知覚処理に与える影響. 第35回日本脳電磁図トポグラフィ研究会, 札幌, 2019.2.
20. 鈴木哲平, 田村菜穂美, 榎本尚司, 永井亘, 小笠原克彦. 糖尿病患者の生活習慣改善に影響を与える要因及び地域性の可視化 - ベイジアンネットワークを用いたレセプトデータ分析 -. 第22回日本医療情報学会春季学術大会 シンポジウム 2018. 新潟. 2018.6.
21. 鈴木隆介, 鈴木哲平, 辻真太郎, 小笠原克彦. ベイジアンネットワークを用いた放射線関連 Web サイトの閲覧モデルの構築. 第22回日本医療情報学会春季学術大会 シンポジウム 2018. 新潟. 2018.6.
22. 高塚伸太郎, 山口徳藏, 佐瀬雄治, 小笠原克彦, 辰巳治之, 大西浩. NDB レセプト情報の転帰区分に記載されている死者数の精度. 第22回日本医療情報学会春季学術大会 シンポジウム 2018. 新潟. 2018.6.
23. 藤原健祐, 長内俊也, 谷川琢海, 小笠原克彦. 地理情報システムを利用した北海道における脳卒中センターの適正配置分析. 第22回日本医療情報学会春季学術大会 シンポジウム 2018. 新潟. 2018.6.
24. 谷川琢海, 大場久照, 西本尚樹, 小笠原克彦. 将来推計人口メッシュに基づく医療資源の適正配置分析 - 北海道における患者アクセシビリティの最適化 -. 第22回日本医療情報学会春季学術大会 シンポジウム 2018. 新潟. 2018.6.
25. 岩田邦弘, 中川貞裕, 森谷俊春, 中田隆文, 森直人, 小笠原克彦. 心臓 MRI の心筋虚血検出能の評価 - 検査前有病率を考慮した検討 -. 第46回日本磁気共鳴医学会大会, 金沢, 2018.9.
26. 谷佑児, 藤原健祐, 小笠原克彦. 北海道中小規模民間病院における病院情報システム利活用の検討. 第46回日本放射線技術学会秋季学術大会, 仙台, 2018.11
27. 谷川原綾子, 辻真太郎, 小笠原克彦. テキストマイニングによる日本放射線技術学会雑誌における研究動向調査. 第46回日本放射線技術学会秋季学術大会, 仙台, 2018.11
28. 小林永一, 上村修二, 奈良理, 小笠原克彦. 北海道におけるドクターヘリの搬送時間と人口カバー率の推定. 第25回日本航空医療学会, 倉敷, 2018.11.
29. 清水大暉, 辻慎太郎, 谷川琢海, 谷祐児, 小笠原克彦. ISM(Interpretive Structural Modeling) 法による遠隔医療普及阻害要因の抽出と 普及に向けた対応策について. 第38回医療情報学連合大会(第19回日本医療情報学会学術大会), 福岡, 2018.11.
30. 張洪健, 辻真太郎, Andrew Wen, 蔣国謙, 曹瀛丹, 小笠原克彦. フリーテキスト形式の読影レポートにおける複合語パターンの特定. 第38回医療情報学連合大会(第19回日本医療情報学会学術大会), 福岡, 2018.11.
31. 石川智基, 高塚伸太郎, 山口徳藏, 佐瀬雄治, 森井康博, 小林永一, 小笠原克彦. NDB を活用した疾病分類別の将来患者数・医療費予測. 第38回医療情報学連合大会(第19回日本医療情報学会学術大会), 福岡, 2018.11.
32. 小林永一, 高塚伸太郎, 山口徳藏, 佐瀬雄治, 石川智基, 森井康博, 小笠原克彦. NDB を用いた北海道における死亡前1年間の医療費の二次医療圏間比較. 第38回医療情報学連合大会(第19回日本医療情報学会学術大会), 福岡, 2018.11.
33. 鈴木哲平, 石川智基, 榎本尚司, 永井亘, 小笠原克彦. 潜在クラス分析を用いた国保レセプト患者の併存疾患別医療費の特徴抽出. 第38回医療情報学連合大会(第19回日本医療情報学会学術大会), 福岡, 2018.11.

34. 森井康博, 高塚伸太郎, 山口徳藏, 佐瀬雄治, 石川智基, 小林永一, 小笠原克彦. NDB レセプト情報を用いた北海道における死亡前一年間の 1 人当たり医療費の分析. 第 38 回医療情報学連合大会 (第 19 回日本医療情報学会学術大会), 福岡, 2018.11.
35. 佐瀬雄治, 高塚伸太郎, 山口徳藏, 石川智基, 森井康博, 小林永一, 小笠原克彦. NDB レセプト情報における死亡時主傷病名と死因統計における原死因の比較検討. 第 38 回医療情報学連合大会 (第 19 回日本医療情報学会学術大会), 福岡, 2018.11.
36. 鈴木隆介, 鈴木哲平, 辻真太郎, 小笠原克彦. 検索語を取得できないアクセスログを活用した 病院 Web サイトの閲覧モデル構築手法の開発. 第 38 回医療情報学連合大会 (第 19 回日本医療情報学会学術大会), 福岡, 2018.11.
37. 谷川琢海, 藤原健祐, 西本尚樹, 大場久照, 小笠原克彦. 北海道の将来における医療資源の適正配置 - 将来推計人口と推計傷病別患者数によるシミュレーション分析 -. 第 38 回医療情報学連合大会 (第 19 回日本医療情報学会学術大会), 福岡, 2018.11.
38. 小林永一, 上村修二, 奈良理, 藤原健祐, 石川智基, 小笠原克彦. 道央地域におけるドクターヘリ搬送時間の季節間比較. 第 38 回医療情報学連合大会 (第 19 回日本医療情報学会学術大会), 福岡, 2018.11.
39. 山内太郎, 中尾世治 (2018). サハラ以南アフリカにおけるサニテーション研究の現状と課題. 第 55 回日本アフリカ学会, 北海道大学, 札幌, 2018.5.26-27.
40. Nyambe S., Zulu J., Hayashi K., Yamauchi T. (2018). Using photographs to tell the story of sanitation and health in peri-urban Lusaka, Zambia. 55th Annual Conference for Japan Association of African Studies, Hokkaido University, Sapporo, 2018.5.26-27.
41. 長谷川純子, 山内太郎 (2018). ザンビア共和国における 2 歳未満児の低栄養状態スクリーニング方法の開発. 第 55 回日本アフリカ学会, 北海道大学, 札幌, 2018.5.26-27.
42. 萩野泉, 山内太郎 (2018). 中央アフリカ熱帯雨林狩猟採集民 Baka の子ども食物獲得: 16 日間の狩猟キャンプ観察. 第 55 回日本アフリカ学会, 北海道大学, 札幌, 2018.5.26-27.
43. 林耕次, 中尾世治, 山内太郎 (2018). 狩猟採集民の排泄行動—カメルーン, バカ・ピグミーの個体追跡による時間・空間分析から. 第 55 回日本アフリカ学会, 北海道大学, 札幌, 2018.5.26-27.
44. 郝明, 王佩佩, 韓威, 山内太郎 (2018). 中国の都市郊外に居住する乳幼児の体格と粗大運動発達. 第 78 回日本生理人類学会, 東京大学, 東京, 2018.10.27-28.
45. 長谷川純子, 鈴木英樹, 山内太郎 (2018). 積雪寒冷地における地域在住高齢者の身体活動の季節変動とサルコペニアの関係. 第 5 回日本サルコペニア・フレイル学会, ソラシティカンファレンスセンター, 東京, 2018.11.10-11.
46. 賀加貝, 曾怡, 韓威, 郝明, 山内太郎: 中国東北部に居住する小学生の衛生に関する知識, 態度および実践とその影響要因. 第 83 回 日本健康学会, 群馬大学, 群馬, 2018.11.23-24.
47. Agestika, L., Hamidah, U., Sintawardani, N., Yamauchi T. (2018). Modernization in Paradox: Infant and Young Children Faeces Management as well as Child Growth in The Urban Slum of Indonesia. The 33rd Japan Association for International Health (JAIH) Conference. 2018.12.01-02.
48. 藪岸翔子, 井上貴雄, Neni SINTAWARDANI, 山内太郎: インドネシア都市スラムにおける成人男女の QOL/ メンタルヘルスの現状およびその関連. 第 33 回日本国際保健医療学会. 2018.12.01-02.
49. 山内太郎: 北海道大学大学院保健科学研究所の研究紹介. 第 3 回フューチャー・アース日本委員会. 東京, 2019.02.02.

50. 陳震, 吳玥, ロジート・シュレスタ, 三浦祐介, 趙瑤瑤, 玉腰暁子, 千葉仁志, 惠淑萍: Determination of butanoic and caproic acid in human serum by LC-MS/MS. 第 58 回日本臨床化学会年次学術集会, 名古屋, 2018.08
51. 三浦佑介, 櫻井俊宏, 陳震, 布田博敏, 千葉仁志, 惠淑萍: 近位尿細管上皮細胞の脂肪酸負荷による脂質変化. 第 58 回日本臨床化学会年次学術集会, 名古屋, 2018.08
52. 趙瑤瑤, 吳玥, 陳震, 高紫君, 惠淑萍, 千葉仁志, 惠淑萍: HepG2 細胞内の単一脂肪滴に関する nano ESI-MS 直接脂質分析. 第 43 回日本医用マススペクトル学会年会, 札幌, 2018.09
53. 三浦佑介, 加藤颯太, 櫻井俊宏, 陳震, 吳玥, 高紫君, ロジート・シュレスタ, 中村幸志, 鶴川重和, 中川貴史, 玉腰暁子, 千葉仁志, 惠淑萍: LC/MS によるヒト血清中における分子種別コレステリルエステルの定量分析. 第 43 回日本医用マススペクトル学会年会, 札幌, 2018.09
54. 山村凌大, 陳震, 吳玥, 高紫君, 惠淑萍, 千葉仁志, 中川貴史, 鶴川重和, 中村幸志, 玉腰暁子: 血中短鎖脂肪酸と肥満との関連. 第 43 回日本医用マススペクトル学会年会, 札幌, 2018.09
55. 辻川諒哉, 三浦佑介, 陳震, 高田康徳, 千葉仁志, 惠淑萍: LC-MS/MS による糖尿病性腎症患者の尿中コレステリルエステル分析. 第 43 回日本医用マススペクトル学会年会, 札幌, 2018.09
56. 陳震, 玉井康将, 江口暁子, 岩佐元雄, 吳玥, 竹井謙之, 千葉仁志, 惠淑萍: LC/HR-MS/MS を用いた肝硬変ラット肝臓中脂質と過酸化脂質の定量分析. 第 43 回日本医用マススペクトル学会年会, 札幌, 2018.09
57. 高紫君, 陳震, 吳玥, 三浦祐介, 千葉仁志, 惠淑萍: LC-MS/MS による短鎖, 中鎖, 長鎖, 極長鎖脂肪酸の一斉定量分析. 第 43 回日本医用マススペクトル学会年会, 札幌, 2018.09
58. 朱子健, 喬琳, 陳震, 吳玥, 千葉仁志, 惠淑萍: 環境濃度オゾンによる HepG2 細胞の酸化に関する研究. 第 43 回日本医用マススペクトル学会年会, 札幌, 2018.09
59. 趙瑤瑤, 陳震, 吳玥, 高紫君, 張新榮, 千葉仁志, 惠淑萍: 単一脂質滴のトリグリセリド構成に及ぼす中鎖脂肪酸の影響. 第 43 回日本医用マススペクトル学会年会, 札幌, 2018.09
60. 吳玥, 植芝滉己, 陳震, 坂口謙一郎, 柳川洋二郎, 片桐成二, 永野昌志, 千葉仁志, 惠淑萍: LC/Orbitrap-MS を用いた牛卵子中脂質の網羅的解析. 第 43 回日本医用マススペクトル学会年会, 札幌, 2018.09
61. 津久井隆行, 郭先蒼, 陳震, 惠淑萍, 千葉仁志: 脂肪蓄積および酸化ストレス曝露による代謝変化. 第 43 回日本医用マススペクトル学会年会, 札幌, 2018.09
62. 櫻井俊宏, 早坂孝宏, 関口博太, 佐藤浩志, 陳震, 千葉仁志, 惠淑萍: 食餌由来脂肪肝モデルマウスにおいて鮭白子抽出物の摂取は肝機能障害の改善とミトコンドリアを活性化させる. 第 43 回日本医用マススペクトル学会年会, 札幌, 2018.09
63. 喬琳, 陳震, 高田俊智, 吳玥, 千葉仁志, 叶深, 惠淑萍: 低濃度オゾンによる不飽和リン脂質膜の酸化に関する研究. 第 43 回日本医用マススペクトル学会年会, 札幌, 2018.09
64. 渡部勇樹, 喬琳, 陳震, 高田俊智, 吳玥, 叶深, 千葉仁志, 惠淑萍: 混合単分子膜の低濃度オゾンによる酸化に及ぼすコレステロール添加の影響. 第 43 回日本医用マススペクトル学会年会, 札幌, 2018.09
65. Li Y., Darwish W., Chen Z., Wu Y., Chiba H., Hui S.-P.: Lead-induced alterations in lipid hemostasis in human liver (HepG2) cells and protection with rosmarinic and ascorbic acids. 第 43 回日本医用マススペクトル学会年会, 札幌, 2018.09
66. 陳震, 吳玥, 馬逸興, 小林悠, 趙瑤瑤, 三浦佑介, 千葉仁志, 惠淑萍: LC/MS を用いたカルジオオリピン過酸化物の分析. 第 43 回日本医用マススペクトル学会年会, 札幌, 2018.09

67. 植芝滉己, 呉玥, 陳震, 坂口謙一郎, 柳川洋二郎, 片桐成二, 千葉仁志, 惠淑萍, 永野昌志: 液体クロマトグラフィー高分解能質量分析を用いた牛卵子中遊離脂肪酸およびトリアシルグリセロールの分析. 第161回日本獣医学会学術集会, 筑波, 2018.09
68. 喬琳, 陳震, 高田俊智, 呉玥, 千葉仁志, 叶深, 惠淑萍: 低濃度オゾンによる不飽和リン脂質膜の酸化に関する研究. 第43回日本医用マスペクトル学会年会, 札幌, 2018. 9.
69. 渡部勇樹, 喬琳, 陳震, 高田俊智, 呉玥, 千葉仁志, 叶深, 惠淑萍: 混合単分子膜の低濃度オゾンによる酸化に及ぼすコレステロール添加の影響. 第43回日本医用マスペクトル学会年会, 札幌, 2018. 9.
70. 朱子健, 喬琳, 陳震, 呉玥, 千葉仁志, 惠淑萍: 環境濃度オゾンによる HepG2 細胞の酸化に関する研究. 第43回日本医用マスペクトル学会年会, 札幌, 2018. 9.
71. Ho H-J: 「Reduction of uremic toxins by SGLT1-selective inhibitor is associated with alteration of gut microbiota in adenine-induced CKD mouse」. The 7th CKD Frontier Meeting, Nagoya. 2018.2.
72. 何 欣蓉: 「SGLT1 阻害による腸内細菌叢ならびに代謝物変化の解析」. 第2回日本 Uremic Toxin 研究会学術集会, Tokyo: 2018.4.
73. Ho H-J: 「Alteration of gut microbiota by SGLT1 inhibitor may reduce uremic toxins in adenine-induced CKD mouse」. 61th Annual Meeting of the Japanese Society of Nephrology, Tokyo. 2018.6.

[地方会]

1. 竹下悠哉, 横澤宏一: リズム変化時における脳応答の提示音型による差異. 第33回音楽療法学会北海道支部大会, 札幌, 2018.5.
2. 鈴木隆介, 鈴木哲平, 小笠原克彦. ベイジアンネットワークを用いた放射線関連 web サイトの閲覧モデル構築. 第16回日本医療情報学会北海道支部学術大会, 札幌, 2018.2.
3. 山田晋太郎, 辻真太朗, 小笠原克彦. Convolutional Neural Network を用いた肺結節識別モデルの検討. 第16回日本医療情報学会北海道支部学術大会, 札幌, 2018.2.
4. 鈴木隆介, 鈴木哲平, 辻真太朗, 小笠原克彦. 病院 Web サイト訪問時の検索語が取得出来ないアクセスログから閲覧ニーズを推測する手法の開発. 第17回日本医療情報学会北海道支部学術大会, 江別, 2018.6.
5. 小林永一, 上村修二, 奈良理, 藤原健祐, 石川智基, 小笠原克彦. GIS を用いた道央ドクターヘリの搬送時間算出の試み. 第17回日本医療情報学会北海道支部学術大会, 江別, 2018.6.
6. 森井康博, 石川智基, 藤原健祐, 鈴木哲平, 小笠原克彦. Jackknife 法によるリサンプリングを用いた北海道における医療従事者の地域偏在度の比較. 第17回日本医療情報学会北海道支部学術大会, 江別, 2018.6.
7. 小林永一, 奈良理, 上村修二, 藤原健祐, 石川智基, 小笠原克彦. 北海道におけるドクターヘリ搬送時間の地域差の推定. 第42回北海道救急医学会学術総会, 旭川, 2018.10.
8. 山内太郎 (2018) サニテーション価値連鎖と地域住民の健康とウェルビーイング. 北海道大学北極域センター. 札幌, 2018.08.01.
9. Nyambe S, Yamauchi T: Dziko Langa, Action research study in Lusaka, Zambia. 日本アフリカ学会北海道支部第2回例会. 2019.02.08.
10. Dinala H, Komba A, Nyambe S, Yamauchi T: Water, Sanitation and Hygiene in Urban South, East Africa, 日本アフリカ学会北海道支部第2回例会. 2019.02.08.

11. 山内太郎, 片岡良美: サニテーション価値連鎖プロジェクトにおける visualization の取り組み. 高度可視化事業報告会. 総合地球環境学研究所, 京都. 2019.03.04.
12. 陳震, 吳玥, ヲートシルスタ, 高紫君, 趙瑤瑤, 三浦祐介, 玉腰暁子, 千葉仁志, 惠淑萍: Determination of total, free, and esterified butyric and caproic acid in human serum by LC-MS/MS. 第 98 回北海道医学大会臨床検査医学分科会, 札幌, 2018.09
13. 高紫君, 陳震, 吳玥, 三浦祐介, 千葉仁志, 惠淑萍: Development of NPH-derivatized LC-MS/MS method for the simultaneous quantitation of short, medium, and long-chain fatty acids. 第 98 回北海道医学大会臨床検査医学分科会, 札幌, 2018.09
14. 吳玥, 植芝滉己, 陳震, 坂口謙一郎, 柳川洋二郎, 片桐成二, 永野昌志, 千葉仁志, 惠淑萍: Determination of triglycerides, free fatty acids, and phospholipids in oocytes from cattle by LC/MS. 第 98 回北海道医学大会臨床検査医学分科会, 札幌, 2018.09
15. Qiao L., Watanabe Y., Chen Z., Takada S., Wu Y., Ye S., Chiba H., Hui S.-P.: Effects of Low-level Ozone on the Oxidation Reaction of mixed Lipid monolayer. 第 98 回北海道医学大会臨床検査医学分科会, 札幌, 2018.09
16. Zhao Y., Wu Y., Chen Z., Gao Z., Chiba H., Hui S.-P.: Single lipid droplet analysis with in-tip solvent microextraction mass spectrometry. 第 98 回北海道医学大会臨床検査医学分科会, 札幌, 2018.09
17. 李泳翰, Darwish W., Chen Z., Wu Y., Chiba H., Hui S.-P.: Cadmium alters lipid hemostasis in human liver (HepG2) cells and protection with rosmarinic and ascorbic acids. 第 98 回北海道医学大会臨床検査医学分科会, 札幌, 2018.09
18. 陳震, 財満信宏, 吳玥, 宮本智絵, 久後裕菜, 千葉仁志, 惠淑萍: Orbitrap LC/MS を用いた腹部大動脈瘤ラット血清中脂質の網羅的解析. 第 2 回中性脂肪学会, 奈良, 2018.11
19. Qiao L, Watanabe Y, Chen Z, Takada J, Wu J, Ye S, Chiba H, Hui S: Effects of Low-level Ozone on the Oxidation Reaction of Mixed Lipid Monolayer. 第 52 回日本臨床検査医学会北海道支部総会 / 第 28 回日本臨床化学会北海道支部例会, 札幌, 2018.9.

V. 研究活動

ii 外部資金等の獲得及び受入状況(平成29年度～平成31年度)

外部資金等の獲得状況

科学研究費補助金交付一覧

(単位:千円)

研究種目	新規 継続	研究代表者	研究課題名	平成30年度		令和元年度		令和2年度	
				直接経費	間接経費	直接経費	間接経費	直接経費	間接経費
挑戦的研究(萌芽)	新規	前島 洋	エピジェネティクス制御に基づく新たな脳卒中運動療法の探索	2,300	690	1,300	390	1,300	390
挑戦的研究(萌芽)	継続	浅野 真未	炎症誘導性の細胞死に着目した、慢性炎症性疾患の病態の解明と治療法の開発	1,700	510	1,700	510	0	0
挑戦的研究(萌芽)	継続	井上 馨	Vav 遺伝子欠損マウスを用いた抗酸化機能食品の緑内障予防効果の検討	1,500	450	500	150	0	0
基盤研究(B)	継続	山口 博之	腔菌叢とメタボローム:クラミジア卵管線維化機構とPID診断バイオマーカーの探索	4,600	1,380	0	0	0	0
基盤研究(B)	継続	前島 洋	脳卒中リハビリテーションにおける薬理的シナプス伝達制御を伴う新たな運動療法の開発	3,600	1,080	2,500	750	2,500	750
基盤研究(B)	継続	コリー紀代	即時判断力と巧緻性を向上する3D映像投影シミュレーターの開発	3,400	1,020	1,700	510	0	0
基盤研究(B)	継続	結城美智子	福島原子力災害による長期避難者への健康支援と評価:アクションリサーチ	3,300	990	2,800	840	0	0
基盤研究(B)	新規	山内 太郎	子どもと地域と研究者が共創するサニテーションプロジェクト	3,200	960	2,500	750	2,300	690
基盤研究(B)	新規	平野美千代	フレイル予防のためのICTを活用した地域まるごと社会活動プログラムの開発	1,500	450	2,500	750	5,000	1,500
基盤研究(C)	新規	小笠原克彦	NDBからの糖尿病生活習慣改善因子の因果関係の可視化と医療費シミュレーション	1,800	540	900	270	600	180
基盤研究(C)	新規	鷲見 尚己	子どもが創る健康指標を活用したがん予防教育プログラムの開発とアクションリサーチ	1,500	450	900	270	800	240
基盤研究(C)	新規 転出	神 繁樹	化学的アプローチによる死後経過時間推定の新たな指標の開発応用	1,200	360	0	0	0	0
基盤研究(C)	継続	溝部 佳代	意識下手術における聴覚刺激に伴う精神活動の可視化とストレスマネジメント方略	1,400	420	1,300	390	0	0
基盤研究(C)	新規	千葉 仁志	細胞を酸化ストレスから守るリゾリン脂質の発見	1,200	360	1,200	360	1,000	300
基盤研究(C)	新規	武田 晴治	LDLの硬さに影響する因子の探索と硬さ変化がマクロファージ泡沫化に与える影響	1,200	360	1,500	450	700	210
基盤研究(C)	新規	趙 瑤瑤	Development of a novel technique for direct analysis of single lipid droplets in mammalian cells by nanoESI-MS	1,200	360	1,000	300	0	0
基盤研究(C)	継続	布田 博敏	非アルコール性脂肪肝炎モデルマウスの疾病予防効果を有する抗酸化物質の探索	1,100	330	0	0	0	0
基盤研究(C)	継続	伊達 広行	細胞周期を考慮した放射線被ばく影響の動態モデル解析	1,100	330	0	0	0	0
基盤研究(C)	継続	野口真貴子	幼児と母親の食習慣に関する研究	1,100	330	0	0	0	0

V. 研究活動

研究種目	新規 継続	研究代表者	研究課題名	平成30年度		令和元年度		令和2年度	
				直接経費	間接経費	直接経費	間接経費	直接経費	間接経費
基盤研究(C)	新規	山本 徹	神経細胞賦活を直接観る4次元 的fMRI法の開発	1,100	330	1,500	450	800	240
基盤研究(C)	継続 転入	保岡 啓子	脳死臓器移植における日本のド ナー家族の追跡調査～バイオエ シックスと医療人類学から	900	270	800	240	0	0
基盤研究(C)	継続	渡辺 玲奈	看看連携を効率的効果的に実現 する外来部門の提供システムと 建築計画指針の開発	900	270	900	270	0	0
基盤研究(C)	継続	佐藤 三種	高齢糖尿病患者における急性合 併症予防のためのセルフケアと その関連要因に関する研究	900	270	300	90	0	0
基盤研究(C)	継続	横澤 宏一	加齢および軽度認知症に伴う記 憶成績低下メカニズムの脳磁場 計測による探究	800	240	0	0	0	0
基盤研究(C)	継続	青柳 道子	終末期がん患者の家族間コミュ ニケーションを促進する看護師 教育プログラムの構築	600	180	0	0	0	0
基盤研究(C)	継続	大槻 美佳	言語理解の脳内機構	600	180	600	180	600	180
基盤研究(C)	新規 転入	何 欣蓉	Identification and clinical implication of biomarkers for mitochondrial diseases	528	158	1,600	480	0	0
基盤研究(C)	継続	寒川 美奈	寒冷環境における至適ストレッ チングプログラムの確立	500	150	0	0	0	0
基盤研究(C)	継続	安積 陽子	出産後1年間の睡眠覚醒リズム と夫婦のメンタルヘルスに関す る縦断研究	500	150	500	150	500	150
基盤研究(C)	新規	浅賀 忠義	聴覚バイオフィードバックを用 いた姿勢バランスの運動学習に 関する研究	100	30	2,000	600	600	180
研究活動 スタート支援	新規	ボージェリット フランク	Elucidating the neurophysiologi	1,200	360	1,100	0	0	0
研究活動 スタート支援	新規	喬 琳	精密な脂質分析を用いるヒト肺 と皮膚細胞に対する環境濃度オ ゾンの影響に関する研究	1,200	360	1,100	0	0	0
研究活動 スタート支援	新規	大西 竜太	デジタルネイティブ世代の母親 における育児への向き合い方の 構造	1,200	360	1,000	0	0	0
研究成果公開促 進費(学術図書)	新規	保岡 啓子	脳死・臓器移植と向き合うため の医療人類学	1,200	0	0	0	0	0
若手研究	新規	高木 聡志	低被ばく肺がんCT検診の画像 を用いて乳房内の病変を検出す ることは可能か	1,000	300	1,000	300	1,000	300
若手研究	新規 転入	高松 泰行	脳血管疾患に対する静磁場刺激 の効果とメカニズムの解明	988	296	600	180	600	180
若手研究	新規 転出	石川 智基	地域医療における需給評価手法 の開発:NDBを活用した将来予 測モデル構築	191	57	0	0	0	0
若手研究(A)	継続	芳賀 早苗	分子標的治療薬の非侵襲的・時 空間的モニタリングに向けた革 新的イメージング技術開発	3,900	1,170	0	0	0	0
若手研究(B)	継続 廃止	古川 貴之	慢性腎疾患バイオマーカーとし てのカルジオリピンの有効性の 検証	1,200	360	0	0	0	0
若手研究(B)	継続	下田 智子	食道癌患者の周術期から外来看 護への継続した栄養評価の検証	800	240	0	0	0	0

V. 研究活動

研究種目	新規 継続	研究代表者	題目	平成 29 年度		平成 30 年度		平成 31 年度	
				直接経費	間接経費	直接経費	間接経費	直接経費	間接経費
若手研究 (B)	継続	吉田 一生	瞑想が外傷性脳損傷患者の脳活動、認知機能に与える影響	700	210	0	0	0	0
若手研究 (B)	継続	井上 貴雄	統合失調症に対する認知リハビリテーションが脳の神経活動に与える効果の解明	700	210	700	210	700	210
若手研究 (B)	継続	萬井 太規	体重心視覚フィードバックバランス練習の姿勢制御メカニズムへの効果の解明	600	180	0	0	0	0
若手研究 (B)	継続 廃止	辻 真太郎	機械学習を用いた放射線治療の安全に関するオントロジーの構築	500	150	0	0	0	0
挑戦的萌芽研究	継続	山内 太郎	子どもの力で学校・地域のサニテーションを変える：アフリカ都市スラムの挑戦	1,000	300	0	0	0	0
挑戦的萌芽研究	継続	山口 博之	アメーバ共生細菌原始クラミジアのレジオネラ撃退に関わる分子マシナリーの探索	900	270	0	0	0	0
挑戦的萌芽研究	継続	斎藤 健	必須微量元素、ポリフェノール併用による老化に伴う脳機能低下の制御法・予防法の開発	900	270	0	0	0	0
特別研究員 奨励費	新規	斎藤 健	妊娠期低栄養による母体への健康影響の細菌代謝物による改善	500	0	0	0	0	0
特別研究員 奨励費	新規 転入	恵 淑萍 (MA Jin-Kui)	脂質品質劣化の迅速評価法の構築および加熱劣化油の生体に与える影響の解明	329	0	0	0	0	0

V. 研究活動

寄附金受入状況一覧

(単位：千円)

受入教員	受入金額	寄附者の名称
食品機能解析・保健栄養学分野	11,000	株式会社渡辺オイスター研究所
生体応答制御医学分野	3,500	株式会社玄米酵素
尾崎 倫孝	2,500	株式会社 北海道メディカルクリエイト
政氏 伸夫	1,000	政氏 伸夫
神 繁樹	800	株式会社 コーケン
藤川 恵子	600	藤川 恵子
藤川 恵子	600	藤川 恵子
神島 保	500	医療法人 苫小牧消化器外科
伊藤 文人	500	公益財団法人 花王芸術・科学財団
唐 明輝	500	公益財団法人 喫煙科学研究財団
政氏 伸夫	500	政氏 伸夫
政氏 伸夫	500	政氏 伸夫
政氏 伸夫	500	政氏 伸夫
政氏 伸夫	500	政氏 伸夫
政氏 伸夫	500	政氏 伸夫
政氏 伸夫	500	政氏 伸夫
藤川 恵子	500	藤川 恵子
藤川 恵子	500	藤川 恵子
尾崎 倫孝	300	有限会社クローバー薬局
井上 馨	300	井上 馨
境 信哉	300	境 信哉
神島 保	300	第一三共株式会社
井上 馨	300	井上 馨
藤川 恵子	280	藤川 恵子
政氏 伸夫	250	政氏 伸夫
政氏 伸夫	250	政氏 伸夫
政氏 伸夫	250	政氏 伸夫
佐川 正	233	公益財団法人北海道対がん協会
佐川 正	200	公益財団法人北海道対がん協会
佐藤 洋子	200	佐藤 洋子

(単位：千円)

受入教員	受入金額	寄附者の名称
笠原 敏史	200	笠原 敏史
井上 馨	200	井上 馨
平山 憲吾	200	一般社団法人日本在宅ケア学会
井上 馨	200	井上 馨
堤 香織	100	堤 香織
恵 淑萍	100	合同会社アグマリンプロテック
佐藤 洋子	100	佐藤 洋子
政氏 伸夫	50	政氏 伸夫

V. 研究活動

受託研究受入状況一覧

(単位：千円)

研究題目	相手先	代表者	金額
リアルタイム発光測定による細胞内シグナル伝達動的変化の定量化及び毒性発現メカニズムの解析 ～細胞試験系の高度化～	国立研究開発法人 産業技術総合研究所	尾崎 倫孝	2,000
COI プログラム COI 拠点「食と健康の達人」拠点	国立研究開発法人 科学技術振興機構	小笠原 克彦	11,000
COI プログラム COI 拠点「食と健康の達人」拠点(若手ファンド)	国立研究開発法人 科学技術振興機構	鈴木 哲平	1,000

V. 研究活動

共同研究受入状況一覧

(単位：千円)

研究題目	相手先	代表者	金額
細胞内抗酸化酵素群発現に基づく新しい抗酸化食品の評価	公益財団法人北海道科学技術総合振興センター	惠 淑萍	5,000
MPO-ANCA 関連血管炎発症促進モデルの作製	小野薬品工業(株)	石津 明洋	2,640
フレイル予防のための ICT を活用した地域まるごと社会活動プログラムの開発	日本ユニシス株式会社	平野美千代	2,200
歩行能力診断装置(H-Gait)の臨床応用に関する研究	原田電子工業株式会社	遠山 晴一	1,991
筋に沿って貼付するテープ(キネシオロジーテープなど)の有効性の検証	株式会社ニトムズ	寒川 美奈	1,760
イミダゾールジペプチドの抗酸化活性	東海物産株式会社	惠 淑萍	1,100
医療用 X 線用被曝線量計のシステム製品の開発	太宝電子株式会社	石川 正純	1,080
北海道産農産物の抗酸化活性評価	ホクレン農業協同組合連合会	惠 淑萍	1,000
保健・看護・介護での対話処理システムの臨床応用に関する研究	株式会社セラフ	小笠原克彦	528
線量分布解析ソフトウェアの開発	アールテック有限会社	石川 正純	500
AI を活用した健康・医療支援アプリケーションの開発	株式会社 S P E C	小笠原克彦	500

V. 研究活動

その他外部資金等受入状況一覧

(単位：千円)

研究題目	相手先	代表者	金額
課題解決型高度医療人材養成プログラム／病院経営アドミニストレーター育成拠点	官署支出官 文部科学省大臣官房会計課長	小笠原克彦	10,326
学術コンサルティング：保健、遺伝、環境、教育等々の視点から食と健康に関する必要項目の洗い出し	一般財団法人 日本予防医学協会	齋藤 健	1,350
卓越大学院プログラム事業費 (One Health フロントティア卓越大学院)	官署支出官 文部科学省大臣官房会計課長	小笠原克彦	1,100
ノーステック財団助成事業 7887001018：杉森 博行：人工知能が自分で学習を進める画像診断システムの開発	公益財団法人 北海道科学技術総合振興センター	杉森 博行	400
ひらめき☆ときめきサイエンス「ようこそ不思議な細菌の世界へ 2018」	独立行政法人 日本学術振興会	山口 博之	313
多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材 (がんプロフェッショナル)」養成プラン「人と医を紡ぐ北海道がん医療人養成プラン」	官署支出官 文部科学省大臣官房会計課長	鷲見 尚己	270

VI. 教育活動

i 大学院担当教員一覧

■大学院担当教員教員一覧（修士課程）

保健科学コース・生体量子科学

教授 山本 徹	1) 水分子ダイナミクス解析による生理機能の画像 2) MR アーチファクトフリーのインプラントの開発 3) MRI 検査安全性に関する研究
教授 伊達 広行	1) 生体組織における放射線エネルギー付与過程シミュレーション 2) 生体の放射線被曝効果に関する統計的解析と損傷動態の解明 3) 放射線治療における最適分割照射の検討
教授 神島 保	1) 単純写真による関節裂隙狭小化自動検出に関する研究 2) 超音波や MR 画像による炎症性関節疾患の活動性定量評価に関する研究 3) 骨粗鬆症の定量化に関する研究

保健科学コース・生態情報科学

教授 山口 博之	1) ヒト病原細菌の細胞内持続感染機構とその分子基盤 2) 自然環境におけるヒト病原細菌の適応戦略とその分子機構 3) 環境微生物共生系モデルの構築とモニタリングシステムの開発
教授 石津 明洋	1) 血管炎の病理と病態 2) 生体防御システムとその破綻に関する研究 3) 免疫細胞の機能解析
教授 恵 淑萍	1) リポ蛋白, 過酸化脂質, 脂肪酸, 生理活性脂質 (プラズマローゲン・リゾリン脂質・カルジオリピン) の研究 2) 糖尿病腎症のバイオマーカー・検査試薬の開発 3) 非アルコール性脂肪性肝炎 (NASH) と脂肪滴および機能性食品の研究
教授 尾崎 倫孝	1) ストレスに対する生体応答と制御メカニズムの解析 2) 肝臓を中心とした様々な病態の分子生物学的解析 (とくに脂肪肝・NASH、虚血・再灌流傷害のメカニズム)。 3) 「光」を利用した非侵襲的生体イメージングによる生体機能・生体環境の時空間的評価法の開発と医療への応用
准教授 政 氏 伸 夫	1) 血液細胞を対象としたデジタル形態学に関する研究 2) デジタル形態学の各種血液疾患の病態解析への応用 3) 血液検体の保管期間延長法に関する研究 4) 好中球細胞質内顆粒の定量的解析 5) 検査血液学教育のための実習用サンプルや画像教材に関する研究
准教授 加賀 早苗	1) 心血管疾患の超音波による病態評価 2) 心臓形態・機能の加齢変化の心エコーによる評価 3) 超音波検査の標準化と精度管理の方法論の検討

VI. 教育活動

保健科学コース・リハビリテーション科学

教授 浅賀 忠義	1) 姿勢制御のメカニズムに関する研究 2) 運動学習と定量的評価に関する研究 3) 加齢および神経疾患のバランス障害に関する研究
教授 遠山 晴一	1) 運動器リハビリテーションに関する研究 2) アスレチックリハビリテーションに関する研究 3) 腱・靭帯組織の生物学および生体力学
教授 前島 洋	1) 運動・学習にともなうシナプス機能修飾に関する研究 2) 高齢者のヘルスプロモーションと退行変性予防に関する研究 3) 中枢神経系疾患の運動療法に対するニューロモジュレーション
特任教授 井上 馨	1) 生理的多型性を用いた高齢者の身体活動の研究 2) 日常生活における運動器の機能解剖学的研究 3) 高眼圧モデルマウスを用いた緑内障の研究
教授 村田 和香	1) 作業療法の理論と実践に関する研究 2) 老年期作業療法の効果に関する研究 3) 健康およびウェル・ビーイングへの作業の寄与に関する研究
教授 境 信哉	1) 大脳における視覚のメカニズムに関する研究 2) 高次脳機能障害患者を対象としたリハビリテーション効果研究とドライビング評価研究 3) 大脳性視覚障害児の視覚評価とリハビリテーション
准教授 寒川 美奈	1) スポーツ傷害の発生メカニズムと予防に関する研究 2) 運動療法の効果に関する研究 3) ウィメンズヘルスに関する研究(骨盤底筋トレーニング有効性の検証)

保健科学コース・健康科学

教授 齋藤 健	1) 環境要因による継世代影響の解明 2) 微量元素やサプリメント摂取によるエピジェネティックな影響の解明 3) 老化制御に係わる環境因子の同定と老化制御機構の解明
教授 横澤 宏一	1) 記憶や認知機能(音楽認知, 時間感覚など)の無侵襲計測とイメージング 2) 電気生理学的手法による内因性脳活動(感情や衝動, ストレスなど)の定量計測に関する研究 3) 高次脳機能情報の医工学的応用に関する研究
教授 小笠原 克彦	1) 医療プロセスおよび医療連携フローに関する研究 2) 遠隔保健システムの開発及び評価に関する研究 3) 医療資源・医療技術の社会経済評価に関する研究
教授 山内 太郎	○フィールド調査によって人々の健康増進・幸福に資する 1) 子どもと地域住民の参加型アクションリサーチ 2) 安全な飲料水、サニテーション、衛生(WASH) 3) ライフスタイル(食と栄養、運動)、健康、QOL、Wellbeing
教授 恵 淑萍	1) リポ蛋白、過酸化脂質、脂肪酸、生理活性脂質(プラズマローゲン・リゾリン脂質・カルジオリピン)の研究 2) 糖尿病腎症のバイオマーカー・検査試薬の開発 3) 非アルコール性脂肪性肝炎(NASH)と脂肪滴および機能性食品の研究
准教授 大槻 美佳	1) 高次脳機能障害(失語、失行、失認、記憶障害等)の臨床研究 2) 機能画像、眼球運動解析装置等を用いた高次脳機能のメカニズム解明 3) 言語の脳内メカニズムに関する研究
准教授 荒木 敦子	1) 環境化学物質曝露による健康影響に関する疫学研究 2) 環境と子どもの健康に関する出生コホート研究 3) 室内空気質と居住者の健康に関する疫学研究

VI. 教育活動

看護学コース・看護学 公衆衛生看護学 助産学 高度実践看護学

特任教授 佐川 正	1) 札幌市の産婦人科救急における助産師による電話相談事業の現状と課題 2) 北海道における助産師外来の実態調査 3) フリースタイル分娩が産科的諸因子に与える影響に関する研究
教授 佐藤 洋子	1) 小児医療における子どもの自律性に関する研究 2) 小児に対する情報提供と看護スキルの開発 3) 健康問題を有する小児と家族の支援に関する研究
教授 尾崎 倫孝	1) ストレスに対する生体応答と制御メカニズムの解析 2) 肝臓を中心とした様々な病態の分子生物学的解析(とくに脂肪肝・NASH、虚血・再灌流傷害のメカニズム)。 3) 「光」を利用した非侵襲的生体イメージングによる生体機能・生体環境の時空間的評価法の開発と医療への応用
教授 結城 美智子	1) リハビリテーション看護技術の開発 2) 高齢慢性疾患患者の重症化予防とセルフマネジメント 3) 地域高齢者の介護予防に関する研究 4) 在宅療養者と家族介護者への支援に関する研究
教授 齋藤 健	1) 環境要因による継世代影響の予防 2) 微量元素やサプリメント摂取によるエピジェネティックな影響の解明 3) 老化を制御に係わる環境因子の同定と老化制御機構の解明
教授 小笠原 克彦	1) 看護学領域の言語処理・知識処理に関する研究 2) 遠隔保健システムの開発及び評価に関する研究 3) 看護資源・看護技術の社会経済評価に関する研究
教授 矢野 理香	1) 看護技術の成果モデル開発と効果に関する研究 2) 熟練看護師の技の可視化に関する研究 3) 看護技術教育の方法論と効果に関する研究
教授 山内 太郎	○フィールド調査によって人々の健康増進・幸福に資する 1) 子どもと地域住民の参加型アクションリサーチ 2) 安全な飲料水、サニテーション、衛生(WASH) 3) ライフスタイル(食と栄養、運動)、健康、QOL、Wellbeing
准教授 宮島 直子	1) 精神看護技術の開発と効果に関する研究 2) 看護職者のメンタルヘルスに関する研究 3) 看護場面におけるコミュニケーション・チャンネルの研究
准教授 野口 眞貴子	1) 出産とその後の母子の健康に関するバースコホート研究 2) 途上国の母子保健に関する国際保健学研究 3) 出産体験に関する質的、量的研究
准教授 大槻 美佳	1) 認知機能(高次脳機能)に関する研究 2) 各種神経疾患の認知機能(高次脳機能)に関する研究
准教授 安積 陽子	1) 乳幼児の睡眠覚醒リズムの発達に関する研究 2) 極低出生体重児とその母親への支援に関する研究 3) 助産師教育に関する研究
准教授 岩本 幹子	1) 修士課程における学際的倫理教育プログラムの開発 2) 看護におけるリーダーシップと看護管理の機能に関する研究
准教授 鷲見 尚己	1) 退院支援、移行ケア、地域連携におけるプログラム開発と標準化 2) 外来看護、継続看護におけるケアマネジメントに関する研究 3) がん患者とその家族への療養生活支援に関する研究
准教授 平野 美千代	1) 要支援高齢者の社会活動に関する支援プログラムの開発 2) 高齢者への効果的な介護予防ケアに関する研究 3) 行政機関に勤める保健師の実践および能力に関する研究 4) 修士課程における公衆衛生看護学の基礎教育に関する研究

■大学院担当教員教員一覧（博士後期課程）

保健科学コース・先進医療科学領域

教授 山本 徹	1) 水分子ダイナミクス解析による生理機能の画像 2) MR アーチファクトフリーのインプラント材の開発 3) MRI 検査安全性に関する研究
教授 伊達 広行	1) 生体組織中の放射線エネルギー付与過程シミュレーション 2) 生体細胞の放射線被曝効果に関する統計的解析と損傷動態の解明 3) 放射線治療における効果的照射法の検討
教授 神島 保	1) 単純写真による関節裂隙狭小化自動検出に関する研究 2) 超音波やMR画像による炎症性関節疾患の活動性定量評価に関する研究 3) 骨粗鬆症の定量化に関する研究
教授 山口 博之	1) ヒト病原細菌の細胞内持続感染機構とその分子基盤 2) 自然環境におけるヒト病原細菌の適応戦略とその分子機構 3) 環境微生物共生系モデルの構築とモニタリングシステムの開発
教授 石津 明洋	1) 血管炎の病理と病態 2) 生体防御システムとその破綻に関する研究 3) 免疫細胞の機能解析
教授 惠 淑萍	1) リポ蛋白, 過酸化脂質, 脂肪酸, 生理活性脂質(プラズマローゲン・リゾリン脂質・カルジオリピン)の研究 2) 糖尿病腎症のバイオマーカー・検査試薬の開発 3) 非アルコール性脂肪性肝炎(NASH)と脂肪滴および機能性食品の研究
教授 尾崎 倫孝	1) ストレスに対する生体応答と制御メカニズムの解析 2) 肝臓を中心とした様々な病態の分子生物学的解析(とくに脂肪肝・NASH、虚血・再灌流傷害のメカニズム)。 3) 「光」を利用した非侵襲的生体イメージングによる生体機能・生体環境の時空間的評価法の開発と医療への応用
准教授 政 氏 伸 夫	1) 血液細胞を対象としたデジタル形態学に関する研究 2) デジタル形態学の各種血液疾患の病態解析への応用 3) 血液検体の保管期間延長法に関する研究 4) 好中球細胞質内顆粒の定量的解析 5) 検査血液学教育のための実習用サンプルや画像教材に関する研究
准教授 加賀 早苗	1) 心血管疾患の超音波による病態評価 2) 心臓形態・機能の加齢変化の心エコーによる評価 3) 超音波検査の標準化と精度管理の方法論の検討
客員教授 (放射線医学総合研究所) 辻 比呂志	1) 粒子線治療の臨床効果に関する研究 2) 放射線治療における先進技術に関する研究
客員教授 (放射線医学総合研究所) 山本 直 敬	1) 肺がんの重粒子線治療の臨床効果に関する研究 2) 間質性肺炎や慢性閉塞性肺疾患を合併した肺がんの治療に関する研究

保健科学コース・総合健康科学領域

教授 浅賀 忠義	1) 姿勢制御と運動学習に関する研究 2) 筋シナジーとシナジー間の協調性に関する研究 3) バランス障害に対するリハビリテーション
教授 遠山 晴一	1) 前十字靭帯損傷に対するリハビリテーション 2) スポーツ傷害に関するバイオメカニクス 3) 腱・靭帯組織の生物学および生体力学
教授 前島 洋	1) 運動・学習にともなうシナプス機能修飾に関する研究 2) 中枢神経系疾患の運動療法に対するニューロモジュレーション 3) 高齢者のヘルスプロモーションと退行変性予防に関する研究
特任教授 井上 馨	1) 生理的多型性を用いた高齢者の身体活動の研究 2) 日常生活における運動器の機能解剖学的研究 3) 高眼圧モデルマウスを用いた緑内障の研究
教授 村田 和香	1) 作業療法の理論と実践に関する研究 2) 老年期作業療法の効果に関する研究 3) 健康およびウェル・ビーイングへの作業の寄与に関する研究
教授 境 信哉	1) 大脳における視覚のメカニズムに関する研究 2) 高次脳機能障害患者を対象としたリハビリテーション効果研究とドライビング評価研究 3) 大脳性視覚障害児の視覚評価とリハビリテーション
准教授 寒川 美奈	1) スポーツ傷害の発生メカニズムと予防に関する研究 2) ストレッチングの有効性に関する研究 3) ウィメンズヘルスに関する研究(骨盤底筋トレーニング有効性の検証)
教授 齋藤 健	1) 環境要因による継世代影響の解明 2) 微量元素やサプリメント摂取によるエピジェネティックな影響の解明 3) 老化制御に係わる環境因子の同定と老化制御機構の解明
教授 横澤 宏一	1) ヒトの認知機能の無侵襲計測とイメージング 2) 高次脳機能の読み出しと工学的応用 3) 脳機能情報の時空間解析による精神状態評価の基礎的研究
教授 小笠原 克彦	1) 医療プロセスおよび医療連携フローに関する研究 2) 遠隔保健システムの開発及び評価に関する研究 3) 医療資源・医療技術の社会経済評価に関する研究
教授 山内 太郎	○フィールド調査によって人々の健康増進・幸福に資する 1) 子どもと地域住民の参加型アクションリサーチ 2) 安全な飲料水、サニテーション、衛生(WASH) 3) ライフスタイル(食と栄養、運動)、健康、QOL、Wellbeing
教授 恵 淑萍	1) リポ蛋白、過酸化脂質、脂肪酸、生理活性脂質(プラズマローゲン・リゾリン脂質・カルジオリピン)の研究 2) バイオマーカー・検査試薬の開発 3) 非アルコール性脂肪性肝炎(NASH)と脂肪滴および機能性食品の研究
准教授 大槻 美佳	1) 高次脳機能障害(失語、失行、失認、記憶障害等)のメカニズム解明 2) 言語の脳内メカニズムの学際的研究 3) 神経心理学的方法と機能画像・電気生理学的な方法等の統合による高次脳機能解明
准教授 荒木 敦子	1) 環境化学物質曝露による健康影響に関する疫学研究 2) 環境と子どもの健康に関する出生コホート研究 3) 室内空気質と居住者の健康に関する疫学研究

看護学コース・看護科学領域

教授 佐川 正	1) フリースタイル分娩が産科的諸因子に与える影響 2) 過期妊娠・予定日超過妊娠とその対策 3) 北海道の産科施設集約による助産師業務についての研究
教授 佐藤 洋子	1) 小児医療における子どもの自律性に関する研究 2) 小児に対する情報提供と看護スキルの開発 3) 健康問題を有する小児と家族の支援に関する研究
教授 尾崎 倫孝	1) ストレスに対する生体応答と制御メカニズムの解析 2) 肝臓を中心とした様々な病態の分子生物学的解析(とくに脂肪肝・NASH、虚血・再灌流傷害のメカニズム)。 3) 「光」を利用した非侵襲的生体イメージングによる生体機能・生体環境の時空間的評価法の開発と医療への応用
教授 結城 美智子	1) リハビリテーション看護技術の開発 2) 高齢慢性疾患患者の重症化予防とセルフマネジメント 3) 地域高齢者の介護予防に関する研究 4) 在宅療養者と家族介護者への支援に関する研究
教授 齋藤 健	1) 環境要因による継世代影響の予防 2) 微量元素やサプリメント摂取によるエピジェネティックな影響の解明 3) 老化制御に係わる環境因子の同定と老化制御機構の解明
教授 小笠原 克彦	1) 看護学領域の言語処理・知識処理に関する研究 2) 遠隔保健システムの開発及び評価に関する研究 3) 看護資源・看護技術の社会経済評価に関する研究
教授 矢野 理香	1) 看護ケアの成果モデル開発と効果に関する研究 2) 熟練看護師の技の可視化に関する研究 3) 看護技術教育の方法論と効果に関する研究
教授 山内 太郎	○海外フィールド調査によって人々の健康増進・幸福に資する 1) 国際保健学：ボトムアップ型の人類学的フィールド調査研究 2) 人類生態学：生態学的アプローチによる集団の栄養適応を評価 3) 子どもの成長、食・栄養、身体活動、体力、QOL、幸福
准教授 宮島 直子	1) 精神に障害がある人の発症前生活エピソードに関する質的研究 2) 精神機能を高める看護コミュニケーション・スキルの開発
准教授 野口 真貴子	1) 出産とその後の母子の健康に関するバースコホート研究 2) 途上国の母子保健に関する国際保健学研究 3) 出産体験に関する質的、量的研究
准教授 大槻 美佳	1) 高次脳機能障害(失語, 失行, 失認, 記憶障害等)のメカニズム解明 2) 言語の脳内メカニズムの学際的研究 3) 神経心理学的方法と機能画像・電気生理学的な方法等の統合による高次脳機能解明
准教授 安積 陽子	1) 極低出生体重児とその母親への支援に関する研究 2) 乳幼児の睡眠覚醒リズムと育児ストレスに関する研究
准教授 岩本 幹子	1) 修士課程における学際的倫理教育プログラムの開発 2) 看護におけるリーダーシップと看護管理の機能に関する研究
准教授 鷲見 尚己	1) 退院支援, 移行ケア, 地域連携におけるプログラム開発と標準化 2) 外来看護, 継続看護におけるケアマネジメントに関する研究 3) がん患者とその家族への療養生活支援に関する研究
准教授 平野 美千代	1) 要支援高齢者の社会活動に関する支援プログラムの開発 2) 要支援高齢者の社会活動に関する支援プログラムの開発 3) 高齢者への効果的な介護予防ケアに関する研究 4) 行政機関に勤める保健師の実践および能力に関する研究 5) 修士課程における公衆衛生看護学の基礎教育に関する研究

VI. 教育活動

ii 保健科学院卒業研究課題一覧

大学院修士課程論文・研究課題一覧

【保健科学コース】

科目群(領域)	氏名	論文・研究課題	主任指導教員	副指導教員
リハビリテーション科学	小野 将尚	振動刺激時間が関節可動域および筋緊張に及ぼす影響	寒川 美奈 准教授	遠山 晴一 教授
健康科学	辻澤 陽平	パーキンソン病における発語の研究 教示・環境・モダリティの違いによるフォルマント周波数の変化	大槻 美佳 准教授	境 信哉 教授
健康科学	AGESTIKA LINA	The association of child feces disposal, and Water, Sanitation, and Hygiene (WASH) toward child health in the urban slum, Indonesia (インドネシア都市スラムにおける子どもの健康に向けた排泄処理と水、衛生環境、手洗いとの関連)	山内 太郎 教授	荒木 敦子 准教授
リハビリテーション科学	井上 貴博	運動と GABA 受容体阻害が脳卒中後の機能回復および大脳皮質におけるシナプス修飾因子の遺伝子発現に与える影響	前島 洋 教授	井上 馨 特任教授
生体量子科学	及川 青亮	エージェント・ベース・モデルを用いた細胞培養シミュレーションモデルの開発	伊達 広行 教授	堤 香織 助教
リハビリテーション科学	岡田 慎平	足部形態が片脚立位移行課題時の姿勢安定性および足関節周囲筋活動に与える影響の検討	遠山 晴一 教授	石田 知也 助教
生体量子科学	加藤 一樹	Detection of Fine Radiographic Progression in Finger Joint Space Narrowing Beyond Human Eyes in Rheumatoid Arthritis Patients (人の目とソフトウェアにおける関節リウマチ患者の微小関節裂隙狭小化の検出能の比較)	神島 保 教授	高木 聡志 助教
健康科学	木村 豪	Effects of high-fat diet through pregnancy and lactation period with extra green tea extract during lactation on lipid metabolism in adult male rat offspring (母ラットの妊娠期と授乳期の高脂肪食摂取および授乳期の緑茶抽出物摂取が成熟期の雄性仔ラットの脂質代謝に及ぼす影響)	齋藤 健 教授	石津 明洋 教授
健康科学	KETEMA RAHEL MESFIN	Biomonitoring of urinary phthalate metabolites in 7 years old Hokkaido children: 2012-2017 (北海道の7歳児における尿中フタル酸エステル類代謝物のバイオモニタリング：2012-2017年)	齋藤 健 教授	荒木 敦子 准教授
リハビリテーション科学	小玉 祐矢	足底感覚への刺激がステップング戦略に与える影響	浅賀 忠義 教授	萬井 太規 助教
健康科学	小林 永一	地理情報システム (GIS) を用いた救急医療のアクセシビリティに関する研究	小笠原克彦 教授	齋藤 健 教授
リハビリテーション科学	佐藤 悠太	片麻痺患者における手すりをを用いた立ち上がり動作時の立位バランスについて —縦手すりと横手すりの違い—	浅賀 忠義 教授	萬井 太規 助教
健康科学	高瀬 峻研	加齢に伴う記憶能力低下とその脳内メカニズム —認知処理速度の低下が記憶に及ぼす影響—	横澤 宏一 教授	境 信哉 教授
リハビリテーション科学	種田 健二	仮想現実空間における視野狭窄が立位制御に及ぼす影響	浅賀 忠義 教授	萬井 太規 助教
リハビリテーション科学	千葉 至	寒冷環境下におけるウォームアップがジャンプパフォーマンスへ与える効果	寒川 美奈 准教授	遠山 晴一 教授
健康科学	張 洪健	英文フリーテキスト形式の放射線読影レポートにおける固有表現抽出—機械学習を用いた複合語の自動生成の試み—	小笠原克彦 教授	杉森 博行 講師

VI. 教育活動

科目群(領域)	氏名	論文・研究課題	主任指導教員	副指導教員
生体量子科学	寺嶋 真凛	Estimation of exposed dose in multi-detector X-ray CT scanning (マルチディテクタ CT 検査における被ばく線量の推定)	伊達 広行 教授	杉森 博行 講師
生体情報科学	七戸 加奈	フローサイトメトリーによる好中球細胞質内顆粒タンパク質の計量	政氏 伸夫 准教授	石津 明洋 教授
リハビリテーション科学	西川百合子	ウォームアップにおけるスタティックストレッチングとダイナミックストレッチングの組み合わせがジャンプパフォーマンスに与える影響	寒川 美奈 准教授	遠山 晴一 教授
生体量子科学	二丹田優介	Evaluation of Influence of Smoking on Cerebral Arteriolar Vasomotor Function Using Spectral Analysis of Time Series of MR Signal from Venous Blood (大脳細動脈機能の喫煙による影響: 静脈血 MR 信号スペクトル解析)	山本 徹 教授	神島 保 教授
生体量子科学	能村 悠介	Image Analysis of Bone and Adipose Tissue using Computed Tomography and Radiography (単純写真と CT による骨と脂肪組織の解析)	神島 保 教授	杉森 博行 講師
リハビリテーション科学	長谷川 愛	認知症高齢者に対するエビデンスに基づく作業療法の実践と影響要因	境 信哉 教授	村田 和香 教授
リハビリテーション科学	林 聖隆	運動と GABAA 受容体阻害が脳運動野の神経栄養因子発現に及ぼす影響	前島 洋 教授	井上 馨 特任教授
生体量子科学	春山 卓哉	MRI 検査時に発生する RF 熱傷事故の電磁界シミュレーション解析	山本 徹 教授	唐 明輝 助教
生体量子科学	藤森 元嗣	Quantitative Image Assessment of Articular Inflammation in the Hand (画像解析による手関節炎症の定量評価)	神島 保 教授	杉森 博行 講師
リハビリテーション科学	村田 拓陸	慢性足関節不安定症例に対する股関節筋力訓練とバランス訓練の効果の比較検討	遠山 晴一 教授	石田 知也 助教
生体量子科学	森山 香苗	Application of semi-automatic segmentation to magnetic resonance images of head and neck squamous cell carcinoma —inter-observer variability of the tumor region— (頭頸部扁平上皮がん MR 画像への半自動設定法の適用—腫瘍 ROI の観察者間変動—)	山本 徹 教授	杉森 博行 講師
リハビリテーション科学	李 想	Effects of aging and long-term exercise on cognitive function and the expression of BDNF in the hippocampus accompanied by epigenetic alternations (老化と運動が認知機能および海馬におけるエピジェネティクス制御を伴う脳由来神経栄養因子発現に与える影響)	前島 洋 教授	井上 馨 特任教授
健康科学	阮 郁甯	Identification and Characterization of Two Novel Antioxidants Isolated from the Pacific Oyster (マガキ由来の2つの新規抗酸化物質の探索とその抗酸化能)	齋藤 健 教授	惠 淑萍 教授
リハビリテーション科学	脇坂 友也	重篤気分調節症の臨床的特徴と心理社会的介入方法の検討	村田 和香 教授	井上 貴雄 助教
生体情報科学	渡辺 宜典	膣スワブ検体からの性器クラミジア (Chlamydia trachomatis) の検出と感染拡大に関わる要因の探索—インドールの定量と Multi Locus Sequence Typing によるアプローチ—	山口 博之 教授	大久保寅彦 講師
生体量子科学	増山 研	MRI を用いた皮質骨内部構造の評価—骨軸と静磁場方向の角度が MR 信号に与える影響—	山本 徹 教授	唐 明輝 助教

VI. 教育活動

【看護学コース】

科目群(領域)	氏名	論文・研究課題	主任指導教員	副指導教員
助産学	荒木 百美	ストレス関連成長からみた産後4か月時点での母親としての発達	野口真貴子 准教授	佐藤 洋子 教授
公衆衛生看護学	有田 愛莉	吃音がある子どもに対する支援的関わりの中で親が抱く思い	平野美千代 准教授	村田 和香 教授
公衆衛生看護学	勝藤 瞳	地域在住のシニア世代が持つ本来感の実態と関連要因—老人福祉センター利用者を対象にして—	平野美千代 准教授	佐藤 洋子 教授
助産学	川上 莉奈	妊婦の夫に対する働きかけと夫の対児感情との関連	安積 陽子 准教授	野口真貴子 准教授
公衆衛生看護学	久司 周祐	地方中心都市で自主グループ活動を行う高齢者の身体活動量の実態と関連要因	平野美千代 准教授	矢野 理香 教授 青柳 道子 講師
公衆衛生看護学	小島さくら	在宅認知症療養者の近隣住民との交流の実態とその関連要因 —家族介護者の視点から—	平野美千代 准教授	結城美智子 教授 青柳 道子 講師
公衆衛生看護学	佐々木 龍	自治体が運営する介護予防グループ活動の参加者のための参加意義評価尺度の開発	平野美千代 准教授	結城美智子 教授
看護学	杉村 直孝	熟練看護師の技を伝える技術教育プログラムの開発 —静脈血採血—	矢野 理香 教授	岩本 幹子 准教授
助産学	多田紗弥子	自己採取HPV検査を希望する日本人若年女性の特徴と普及への課題	佐川 正 特任教授	佐藤 洋子 教授 野口真貴子 准教授
公衆衛生看護学	中谷 圭甫	過疎地域在住高齢者の孤食の実態	平野美千代 准教授	結城美智子 教授
看護学	安田 佳永	末梢静脈留置針挿入に有効な血管怒張手技の検証 —タッピングと熟練看護師の技から抽出されたマッサージの比較—	矢野 理香 教授	岡田 一範 助教
看護学	敷岸 翔子	The current situation and the related factors of mental health and QOL in Indonesian urban slum (インドネシア都市スラムにおけるメンタルヘルスとQOLの現状およびその影響因子)	山内 太郎 教授	井上 貴雄 助教
看護学	山口 真弥	角質水分量による清潔ケア後の皮膚バリア機能評価の妥当性	矢野 理香 教授	結城美智子 教授
助産学	山下 弥子	危機理論における産後クライシスに影響する要因	野口真貴子 准教授	佐藤 洋子 教授
看護学	王 櫻子	State of exercise practice and relationship with people in the community among older individuals in Kamikawa, Hokkaido (北海道上川地域に居住する高齢者の運動と地域とのつながりの実態)	平野美千代 准教授	結城美智子 教授
看護学	大川 加奈	電話トリアージにおける特定妊婦の特徴	佐川 正 特任教授	佐藤 洋子 教授 野口真貴子 准教授
看護学	出塚 望	新生児の気質と睡眠が初産婦の疲労および抑うつに与える影響	矢野 理香 教授	安積 陽子 准教授
看護学	小川万梨野	がん診療連携拠点病院に勤務する看護師のがん患者に対するアドバンス・ケア・プランニングの実行と促進・阻害要因の検討	鷲見 尚己 准教授	青柳 道子 講師 矢野 理香 教授

大学院博士後期課程論文・研究課題一覧

【保健科学コース】

科目群(領域)	氏名	論文・研究課題	主任指導教員	副指導教員
総合健康科学	田村 菜穂美	Risk Factors for Poor Fetal Growth and Preterm Birth in Japan (児の在胎週数および出生体重に影響を及ぼす要因の検討)	荒木 敦子 准教授	小笠原克彦 教授
総合健康科学	JARED FRANKLIN BOASEN	Neural correlates of musical improvisation performance: a magnetoencephalographic investigation (即興演奏に伴う神経活動：脳磁計による探究)	横澤 宏一 教授	山内 太郎 教授
先進医療科学	三浦 佑介	ヒト近位尿管上皮細胞の脂肪滴に関する研究	恵 淑萍 教授	櫻井 俊宏 講師
総合健康科学	高倉 祐樹	失構音の病態機序と脳解剖学的基盤に関する研究	大槻 美佳 准教授	境 信哉 教授

VI. 教育活動

iii 保健科学院・医学部保健学科 FD 研修開催状況

保健科学院・医学部保健学科 FD 研修

日 時	平成 30 年 9 月 13 日 (木) 16:20 ~ 18:50
場 所	北海道大学大学院保健科学研究所多目的室 I
受 講 者	71 名
講 演 内 容	テーマ：学生教育の国際化を目指して 演題名：Important points about Teaching in English 講 師：北海道大学高等教育研修センター・FD 部門 学術研究員 Michal MAZUR 氏 テーマ：世界に向けた情報発信の促進 演題名：Tips for giving a successful English presentation 英語による発表の効果を最も高めるためのヒント 講 師：北海道大学大学院保健科学研究所・保健科学部門健康科学分野 博士研究員 BOASEN JARED FRANKLIN 氏

VI. 教育活動

iv 保健科学セミナー開催状況

保健科学セミナー開催状況

月 日		時 間	所 属	講 演 者	演 題
平成 30 年 6 月 28 日	(木)	10:30 ~ 12:00	電力中央研究所 放射線 安全研究センター・主 任研究員	浜田 信行	眼への放射線影響
平成 30 年 6 月 30 日	(土)	14:00 ~ 18:00	①京都大学大学院地球 環境学堂 助教 ②北海道大学環境健康 科学研究教育セン ター 准教授 ③総合地球環境学研 究所 特任助教 ④北海道立総合研究機 構 北方建築総合研 究所 主査	①原田英典 ②荒木敦子 ③蔣 宏偉 ④牛島 健	①暮らしに伴う多様な糞便との関わりから考えるサニテーションの役割 ②身近な生活環境における化学物質と子どもたちの健康 ③エコヘルスからアジア発展途上地域の「健康」を考える ④「地域生活価値」と「ひと・もの・価値フロー」を通じて地域の生活とインフラ運営を考える
平成 30 年 9 月 13 日	(木)	16:20 ~ 18:50	①北海道大学高等教育 研修センター FD 部門 学術研究員 ②北海道大学大学院保 健科学研究院保健科 学部門健康科学分野 博士研究員	① Michal MAZUR ② BOASEN JARED FRANKLIN	① Important points about Teaching in English ② Tips for giving a successful English presentation
平成 30 年 10 月 31 日	(水)	16:30 ~ 18:00	浙江大学医学部 生 化学研究室 教授	劉 偉	Signal Regulation of Autophagy Initiation
平成 30 年 11 月 5 日	(月)	18:30 ~ 20:00	明治大学大学院理工 学研究科電気工学専 攻 教授	小野 弓絵	非侵襲脳機能計測技術の医工学応用
平成 30 年 11 月 7 日	(水)	16:30 ~ 18:00	日本原子力発電株式 会社総務室 部長(技 術系人材育成担当)	田林 正雄	核エネルギーや放射線をどう制御するか?—原子力発電所の基本を考える—
平成 30 年 11 月 20 日	(火)	16:30 ~ 18:00	オレゴン大学 教授	Josh Snodgrass	Tradeoffs between immune function and childhood growth among Amazonian forager-horticulturalists

VI. 教育活動

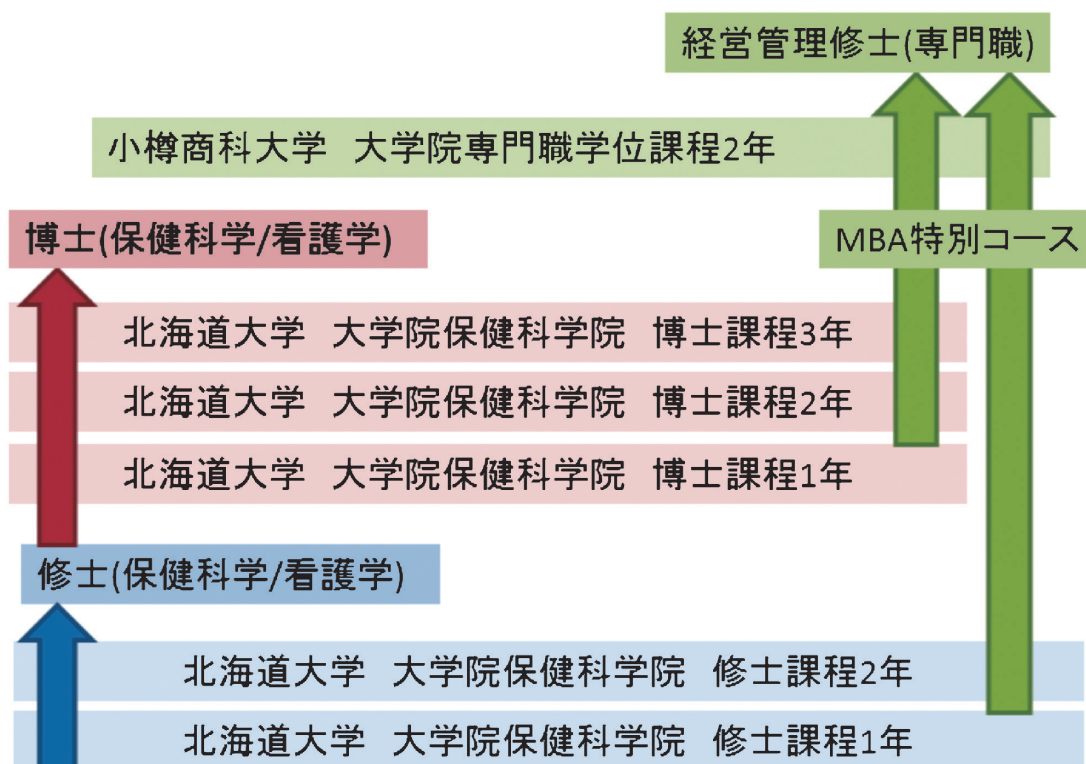
v 保健科学院－ M.B.A Double Degree

M.B.A. 特別コース

1. 概要

M.B.A. 特別コースは、保健科学院修士課程および博士課程に在籍している大学院生が、小樽商科大学商学研究科専門職課程アントレプレナー専攻(以下、小樽商大ビジネススクール)の一部科目を選択科目(単位互換)として6科目12単位を受講するものである。M.B.A. 特別コースを修了した学生は、保健科学院にて修士(保健科学/看護学)または博士(保健科学/看護学)取得した後、小樽商大ビジネススクールに入学し、保健科学院在籍中に小樽商大ビジネススクールで取得した単位と保健科学院で取得した一部の単位を単位数に加えることで、通常2年かかるM.B.A. 取得が在籍期間1年間で取得可能となる。修士課程の場合、3年で修士(保健科学/看護学)とMBAの2つの学位(ダブル・ディグリー)を、博士課程の場合、4年で博士(保健科学/看護学)とMBAの2つの学位(ダブル・ディグリー)を、取得できるメリットを有する。

小樽商大ビジネススクールは、平日、札幌駅西口の札幌サテライトで開講しており、保健科学院との移動は概ね10分程度と移動の負担も少ない。



2. 連携のメリット

近年、医療経営のニーズが高まっており、大学院保健科学院の修了者の多くが高度専門職となる中で、医療専門職としてのマネジメント能力が求められている。北海道大学大学院保健科学院と小樽商科大学大学院商学研究科が連携することにより、保健科学教育・看護学教育において経営管理教育が可能となる。それに伴い、北大と小樽商大の強みを生かした人材育成が可能となり時代の要請に対応した高度専門職教育の充実が可能となる。

VI. 教育活動

3. MBA 特別プログラム修了後の進路

これまでに10名以上が修了している。主な進路は、助産師や診療放射線技師などの医療専門職の他、医療経営コンサルタント、大学教員(医療情報系、保健系)、経営管理職(医療機関)、医療情報職、研究支援職、情報関連企業、等である。今後、医療行政職の他、検査技術・情報技術・リハビリテーション技術など保健科学をベースとした健康産業での起業家(アントレプレナー)に期待したい。

VI. 教育活動

vi 保健科学院合同シンポジウム開催状況

日 時	平成30年6月8日(金)
場 所	保健科学研究院C棟 大会議室
内 容	「保健科学の”力” 保健科学のグローバル展開 2」をテーマに、学生が7グループに分かれ、グループ毎に保健科学をキーワードとした実行可能なプランを提案・発表した。
参加者	46名



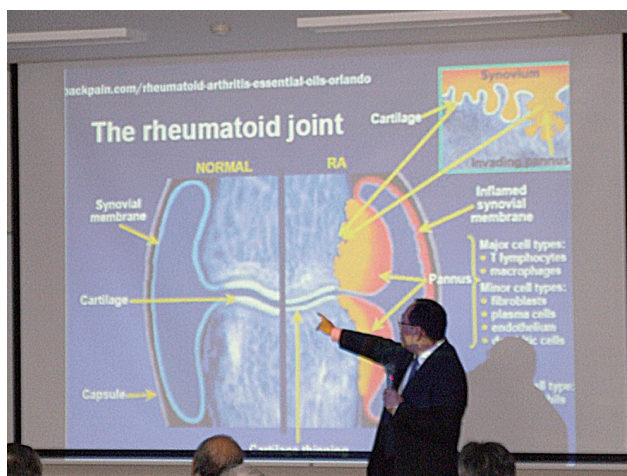
* 学生による発表風景

VII. 社会貢献

i 保健科学研究院公開講座開催状況

公開講座

日 時	平成30年11月3日(土・文化の日) 13:00～16:00
場 所	北海道大学大学院保健科学研究院 E 棟 1 階多目的室
受 講 者	83名
テーマ	ようこそ！ヘルスサイエンスの世界へ ※国立大学フェスタ 2018 事業
講座内容	<p>「最新画像診断技術が拓く医療の未来」 講師：北海道大学大学院保健科学研究院教授・神 島 保</p> <p>「神経心理学からみた高齢者の自動車運転」 講師：北海道大学大学院保健科学研究院教授・境 信 哉</p> <p>「転ばぬ先の専門知識」 講師：北海道大学大学院保健科学研究院教授・浅 賀 忠 義</p>



* 講演風景



* 参加者による質疑応答風景

Ⅳ. 顕彰及び研究助成制度

i 顕彰制度

保健科学研究所顕彰制度

顕彰制度の名称	所属分野・職名	受賞者名
保健科学研究所長賞	病態解析学分野・教授	惠 淑 萍
保健科学研究所優秀論文賞	(受賞対象者なし)	

保健科学院顕彰制度

顕彰制度の名称	所属課程(所属コース)	受賞者名
保健科学院長賞	修士課程(保健科学コース) 修士課程(看護学コース) 博士後期課程(保健科学コース)	藤 森 元 嗣 安 田 佳 永 三 浦 佑
保健科学院研究奨励賞	(受賞対象者なし)	
保健科学院修士課程研究発表賞	修士課程(保健科学コース) 修士課程(保健科学コース) 修士課程(保健科学コース)	井 上 貴 博 高 瀬 峻 研 藤 森 元 嗣

医学部保健学科顕彰制度

顕彰制度の名称	所属専攻	受賞者名
保健学科長賞	看護学専攻 放射線技術科学専攻 検査技術科学専攻 理学療法学専攻 作業療法学専攻	紺 谷 一 生 菊 地 慧 吉 成 未 来 阿 部 はるか 齊 藤 隆 司
保健学科卒業研究優秀賞	看護学専攻 看護学専攻 看護学専攻 看護学専攻 放射線技術科学専攻 放射線技術科学専攻 検査技術科学専攻 検査技術科学専攻 理学療法学専攻 作業療法学専攻	紺 谷 一 生 高 島 ちさと 三 澤 礼 佳 綿 谷 咲 良 清 水 尚 音 柳 朱 洵 関 島 将 人 木 元 陸 人 岡 村 未 里 土 沢 史 乃

VIII. 顕彰及び研究助成制度

ii 研究助成制度

研究助成制度

所属・職名	氏名	原著論文名	掲載雑誌	備考	教授会附議日(参考)
医用生体理工学 分野・教授	神島 保	Composite assessment of power Doppler ultrasonography and MRI in rheumatoid arthritis: a pilot study of predictive value in radiographic progression after one year	British journal of radiology	corresponding author	H30.4.19
病態解析学分野・ 講師	大久保寅彦	Acanthamoeba S13WT relies on its bacterial endosymbiont to backpack human pathogenic bacteria and resist Legionella infection on solid media	Environmental Microbiology Reports	first author	H30.4.19
病態解析学分野・ 教授	恵 淑萍	Microwave-assisted Derivatization of Fatty Acids for Its Measurement in Milk Using High-Performance Liquid Chromatography	Analytical Sciences	corresponding author	H30.4.19
健康科学分野・ 教授	横澤 宏一	Spectral-Spatial Differentiation of Brain Activity During Mental Imagery of Improvisational Music Performance Using MEG.	Frontiers Human Neuroscience	corresponding author	H30.4.19
医用生体理工学 分野・助教	唐 明輝	Dependence of scan parameters on nerve fiber crossing depiction in diffusion spectrum imaging in clinical practice.	Journal of Computer Assisted Tomography	first author	H30.5.17
医用生体理工学 分野・教授	伊達 広行	Investigation of dose-rate effects and cell-cycle distribution under protracted exposure to ionizing radiation for various dose-rates	Scientific Reports	corresponding author	H30.5.17
医用生体理工学 分野・講師	杉森 博行	Classification of Computed Tomography Images in Different Slice Positions Using Deep Learning	Journal of Healthcare Engineering	first author	H30.6.21
病態解析学分野・ 教授	恵 淑萍	Determination of Serum 25-Hydroxyvitamin D3 by LC/MS/MS and Its Monthly Variation in Sapporo Indoor Workers	Analytical Sciences	corresponding author	H30.6.21
保健医療教育研 究センター・特 任助教	鈴木 哲平	Penetration factors and introduction possibility for image diagnostic equipment	Health Policy and Technology	corresponding author	H30.6.21
創成看護学分野・ 助教	中村 真弥	Nipple Skin Trauma in Breastfeeding Women During Postpartum Week One.	Breastfeeding Medicine	first author	H30.7.19
病態解析学分野・ 教授	山口 博之	Impact of bacterial traces belonging to the Enterobacteriaceae on the prevalence of Chlamydia trachomatis in women visiting a community hospital in Japan.	Journal of Infection and Chemotherapy	corresponding author	H30.7.19

VIII. 顕彰及び研究助成制度

所属・職名	氏名	原著論文名	掲載雑誌	備考	教授会附議日(参考)
病態解析学分野・教授	山口 博之	Lateral Gene Transfer Between Protozoa-Related Giant Viruses of Family Mimiviridae and Chlamydiae	Evolutionary Bioinformatics	corresponding author	H30.7.19
機能回復学分野・教授	前島 洋	Exercise and low-level GABAA receptor inhibition modulate locomotor activity and the expression of BDNF accompanied by changes in epigenetic regulation in the hippocampus.	Neuroscience letters	first author	H30.8.23
健康科学分野・助教	陳 震	Lipidomic Profiling on Oxidized Phospholipids in Type 2 Diabetes Mellitus Model Zebrafish	Analytical Sciences	first author	H30.8.23
病態解析学分野・教授	恵 淑萍	A two-step homogeneous assay for apolipoprotein E-containing high-density lipoprotein-cholesterol	Annals of Clinical Biochemistry	corresponding author	H30.8.23
医用生理工学分野・教授	山本 徹	Heating sensation in patients with and without spinal fixation devices during MRI examination at different magnetic field strengths	Journal of Magnetic Resonance Imaging	corresponding author	H30.8.23
機能回復学分野・准教授	寒川 美奈	Influence of constant torque stretching at different stretching intensities on flexibility and mechanical properties of ankle plantar flexors.	Journal of Strength and Conditioning Research	corresponding author	H30.8.23
病態解析学分野・教授	恵 淑萍	Examining the effect of regioisomerism on the physico-chemical properties of lysophosphatidyl -ethanolamine-containing liposomes using fluoro probes.	Chemistry and Physics of Lipids	corresponding author	H30.8.23
健康科学分野・教授	小笠原克彦	Evaluating the adequacy of medical care systems in Hokkaido	Health Policy and Technology	corresponding author	H30.8.23
健康科学分野・助教	陳 震	Determination of total, free, and esterified short-chain fatty acid in Human serum by LC-MS/MS	Annals Of Clinical Biochemistry	first author	H30.9.20
病態解析学分野・教授	石津 明洋	Detection of autoreactive type II NKT cells: A pilot study of comparison between healthy individuals and patients with vasculitis.	Cytometry:Part A	corresponding author	H30.9.20
生活機能学分野・講師	澤村 大輔	Clinical utility of neuropsychological tests for employment outcomes in persons with cognitive impairment after moderate to severe traumatic brain injury.	Brain Injury	first author	H30.9.20
病態解析学分野・講師	櫻井 俊宏	Dietary salmon milt extracts attenuate hepatosteatosis and liver dysfunction in diet-induced fatty liver model.	Journal of the Science of Food and Agriculture	first author	H30.9.20

VIII. 顕彰及び研究助成制度

所属・職名	氏名	原著論文名	掲載雑誌	備考	教授会附議日(参考)
病態解析学分野・教授	山口 博之	Analysis of adult damselfly fecal material aids in the estimation of antibiotic-resistant Enterobacterales contamination of the local environment.	PeerJ	corresponding author	H30.9.20
病態解析学分野・教授	山口 博之	Subtle changes in host cell density cause a serious error in monitoring of the intracellular growth of Chlamydia trachomatis in a low-oxygen environment: proposal for a standardized culture method.	Journal of Microbiological Methods	corresponding author	H30.9.20
創成看護学分野・助教	進藤ゆかり	Efficacy and practicality of opioid therapy in Japanese chronic non-cancer pain patients.	Pain Management Nursing	first author	H30.10.18
生活機能学分野・助教	宮島 真貴	Therapeutic responses to a frontal/executive programme in autism spectrum disorder: Comparison with schizophrenia.	Hong Kong Journal of Occupational Therapy	first author	H30.10.18
医用生体理工学分野・助教	高木 聡志	Relationship Between Tube Voltage and Physical Image Quality of Pulmonary Nodules on Chest Radiographs Obtained Using the Bone-Suppression Technique.	Academic Radiology	first author	H30.10.18
基盤看護学分野・教授	矢野 理香	An Association between sleep and fatigue in nurses engaged in 16-hour night shifts in Japan	Japan Journal of Nursing Science	corresponding author	H30.10.18
健康科学分野・教授	山内 太郎	Risk Factors for Undernutrition and Diarrhea Prevalence in an Urban Slum in Indonesia: Focus on Water, Sanitation, and Hygiene.	American Journal of Tropical Medicine and Hygiene	corresponding author	H30.11.15
病態解析学分野・教授	山口 博之	Tetrahymena promotes interactive transfer of carbapenemase gene encoded in plasmid between fecal Escherichia coli and environmental Aeromonas caviae.	Microbiology and Immunology	corresponding author	H30.11.15
機能回復学分野・助教	石田 知也	The effects of a subsequent jump on the knee abduction angle during the early landing phase.	BMC Musculoskeletal Disorders	first author	H30.11.15
健康科学分野・教授	山内 太郎	Impact of season on the association between muscle strength/volume and physical activity among community-dwelling elderly people living in snowy-cold regions.	Journal of Physiological Anthropology	corresponding author	H30.12.20
機能回復学分野・助教	萬井 太規	Development of postural control during single-leg standing in children aged 3-10 years.	Gait Posture	first author	H30.12.20

VIII. 顕彰及び研究助成制度

所属・職名	氏名	原著論文名	掲載雑誌	備考	教授会附議日(参考)
健康科学分野・教授	小笠原克彦	Where does telemedicine achieve a cost reduction effect? Cost minimization analysis of teleradiology services in Japan.	Telemedicine and e-Health	corresponding author	H30.12.20
病態解析学分野・助教	益田紗季子	The Formation and Disordered Degradation of Neutrophil Extracellular Traps in Necrotizing Lesions of Anti-Neutrophil Cytoplasmic Antibody-Associated Vasculitis.	The American Journal of Pathology	first author	H31.1.17
基盤看護学分野・教授	矢野 理香	The Venodilation Effects of Tapping Versus Massaging for venipuncture.	Japan Journal of Nursing Science	corresponding author	H31.1.17
医用生体理工学分野・教授	神島 保	Intravoxel Incoherent Motion MRI for Discrimination of Synovial Proliferation in the Hand Arthritis.	Journal of Magnetic Resonance Imaging	corresponding author	H31.1.17
医用生体理工学分野・助教	高木 聡志	Relationship between Injection Rate and Contrast Enhancement on Three-dimensional Digital Subtraction Angiography of the Cerebral Arteries.	Journal of the Belgian Society of Radiology	first author	H31.1.17
健康科学分野・教授	山内 太郎	Factors associated with nutritional status and motor development among young children.	Nursing & health sciences	corresponding author	H31.2.21
基盤看護学分野・准教授	大槻 美佳	Sub-classification of apraxia of speech in patients with cerebrovascular and neurodegenerative diseases.	Brain and Cognition 130	corresponding author	H31.2.21
健康科学分野・教授	横澤 宏一	Appearance and modulation of a reactive temporal-lobe 8-10-Hz tau-rhythm.	Neuroscience Research	first author	H31.2.21
健康科学分野・教授	齋藤 健	Polyphenol-enriched azuki bean(Vina angularis)extract reduces the oxidative stress and prevents DNA oxidation in the hearts of streptozotocin-induced early diabetic rats.	International Journal of Food Sciences and Nutrition	corresponding author	H31.2.21
基盤看護学分野・教授	矢野 理香	A simple and short microbiology practical improves undergraduate nursing students' awareness of bacterial traits and ability to avoid spreading infections	BMC Medical Education	first author	H31.2.21
医用生体理工学分野・講師	杉森 博行	Evaluating the Overall Accuracy of Additional Learning and Automatic Classification System for CT Images.	Applied Sciences	first author	H31.2.21

VIII. 顕彰及び研究助成制度

所属・職名	氏名	原著論文名	掲載雑誌	備考	教授会附議日(参考)
病態解析学分野・教授	石津 明洋	The presence of anti-neutrophil extracellular trap antibody in patients with microscopic polyangiitis.	Rheumatology	corresponding author	H31.3.14
病態解析学分野・教授	石津 明洋	Epitope recognized by anti-glomerular basement membrane (GBM) antibody in a patient with repeated relapse of anti-GBM disease.	Experimental and Molecular Pathology	corresponding author	H31.3.14
基盤看護学分野・教授	結城美智子	Sarcopenia prevalence and risk factors among Japanese community dwelling older adults in a snow-covered city according to EWGSOP2.	Journal of Clinical Medicine	corresponding author	H31.3.14

IX. 中央研究室活動報告

i 中央研究室活動報告書

平成30年度中央研究室活動報告書

中央研究室長 尾崎 倫孝

1. 中央研究室の管理

- ・ 遺伝子組換え・培養実験室に供給中の特殊ガス（炭酸ガスおよび窒素ガス）のガス圧や残量のチェック、調達を行った。
- ・ 液体窒素保存容器を設置しているボンベ室の酸素濃度のチェックおよび濃度計の管理を行った。
- ・ コア・リサーチ・ラボ内に設置のドラフトチャンバーの点検を行った。
- ・ 中央研究室のウェブページの管理・運営を行った。
- ・ 北海道胆振東部地震の際にフリーザーや研究機器類の緊急対応を行った。

2. 研究機器の管理

- ・ 共用研究機器類のウェブ予約システムの管理・運営を行った。
- ・ 共用研究機器類のウェブ予約システムの管理・運営を行った。
- ・ 共用研究機器類の保守（消耗部品類の交換や可能な限りの修理・修復等）や超純水製造装置のメーカーによる定期的なメンテナンスの手配を行った。
- ・ フローサイトメーターの試薬管理（在庫の確認、発注）。
- ・ 液体窒素の残量管理および調達と利用者への供給を行った。

3. 研究機器類の新規導入

- ・ Wes タンパク質解析装置（Protein Simple 社製）を導入した。

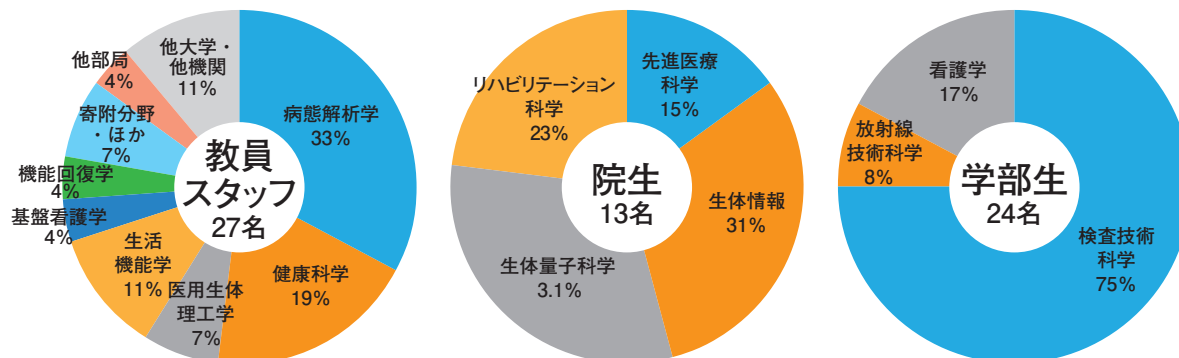
IX. 中央研究室の活動報告

4. 利用登録者

本年度の中央研究室利用登録者数(申請書ベース)は以下である。

コア・リサーチ・ラボの利用登録者数	: 63名
遺伝子組替・細胞培養実験室の利用登録者数	: 43名

上記の内訳は以下のグラフで示す(重複登録を除いた数値)。



5. 主な研究機器の稼働実績(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

1) フローサイトメーター(コア・リサーチ・ラボ設置)

使用者数(延べ数)	: 36人
総稼働時間数	: 74時間
総測定検体数	: 520検体

2) リアルタイムPCR(コア・リサーチ・ラボ設置)

使用者数(延べ数)	: 100人
総稼働時間数	: 330時間
総検体数	: 11,284検体

6. 液体窒素供給実績(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

供給件数	: 27件
総供給量	: 540L

X. 第三期中期目標・中期計画

保健科学研究院・保健科学院 第三期(平成28年度～平成33年度)中期目標・中期計画

中期目標	中期計画
1. 研究に関する目標を達成するための措置	
(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標を達成するための措置	<ul style="list-style-type: none"> ①世界の健康問題解決のための保健科学・健康科学の研究拠点を旨とした、分野横断的研究をさらに推進する。 ②保健科学研究の自然科学から社会科学に及ぶ分野横断的融合研究を促進する。「こころと脳」に関する統合的研究拠点の形成、高齢者保健医療の横断的研究基盤の形成、性感染症予防に関する研究プロジェクトの立ち上げ) ③アジアの研究拠点を旨し、国際的かつ先端的・独創的な保健科学・健康科学研究を推進する。 ④海外協定校を増やし、トップレベルの研究者との共同研究を進める。 ⑤国内外の社会的課題を解決するためのイノベーション研究を創出する。 ⑥北海道の特色をいかした産学官の連携研究を推進し、大型外部資金の獲得を旨す。 ⑦博士研究員のポストを確保し、優秀な若手の海外研究者を積極的に招聘する。 ⑧博士課程修了者を大学教員及び研究施設への就職を推進する。
(2) 研究実施体制等に関する目標を達成するための措置	<ul style="list-style-type: none"> ①保健科学研究所属の国際・広報コーディネーターとURASTATIONとの連携強化。 ②オープンファシリティの登録を推進する。
2. 社会との連携や社会貢献及び地域を指向した教育・研究に関する目標を達成するための措置	
	<ul style="list-style-type: none"> ①北海道に根ざした保健科学の教育研究拠点として、「知」を地域に還元する。 ②総合博物館において医学部保健学科・保健科学研究院の展示・公開、情報発信を行う。 ③市民公開講座・公開セミナー・公開講演会を積極的に行っていく。 ④地方自治体との連携を強化し、共同研究を行い、結果を提言していく。 ⑤広報誌及びホームページを充実させ、地域社会への広報活動を積極的に行う。 ⑥各種職能団体との連携を強化し、継続教育プログラムを構築する。 ⑦北海道型の社会的課題を解決するための地域に根差したイノベーションを創出する。 ⑧地域社会との共同研究を積極的に推進し、その研究成果の地域還元を図る。

X. 第三期中期目標・中期計画

中期目標	中期計画
3. その他の目標を達成するための措置	
(1) グローバル化に関する目標を達成するための措置	<ul style="list-style-type: none"> ① アジアの研究拠点を目指し、国際的かつ先端的・独創的な保健科学研究を推進する。 ② 海外協定校を増やし、トップレベルの研究者との共同研究を進める。 ③ 複数の国にわたる海外大学との学生交流を推進する。 ④ 保健学科及び保健科学院の英文ホームページを充実させるとともに、連携大学を中心に留学希望者を募集する。 ⑤ 保健科学に関するサマー・インスティテュート及びラーニング・サテライトを実施し、海外大学との学生交流を行う。 ⑥ 最先端の医療技術に関する講義・実習を中心としたサマー・インスティテュートを開講する。
4. 組織運営の改善に関する目標を達成するための措置	
	① 外国人教員の採用を促進する。
5. 外部資金、寄附金その他の自己収入の増加に関する目標を達成するための措置	
	① 産学官連携による健康イノベーションに係る研究・社会実装を推進する。
6. 教育に関する目標を達成するための措置	
(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置	<ul style="list-style-type: none"> ① 異文化理解を深め、国内外への発信力を高めるために新渡戸カレッジ・新渡戸スクールを推進する。 ② 保健科学の国際的指導者の育成を目的として、現在開講している国際保健学を、WHO等との連携を拡充させるとともに、英語で開講する。 ③ 国際的な実践能力を身に付けるために、協定大学での実践的な研修や開発途上国でのフィールド調査の機会を増やすとともに、これらを学士課程で「国際保健学演習」としてプログラム化する。大学院課程では、研究成果の発表を促進するために、「プレゼンテーション演習」「英文論文演習」「実践医療統計学演習」を設置する。 ④ 臨床を想定した問題解決型保健科学教育を推進する。 ⑤ アクティブ・ラーニングを推進するため、講義室、ミーティングルームやICT環境の整備を進める。 ⑥ 学士課程で専攻の壁を超えた複眼的な視野を持つ研究推進科目「保健科学研究入門」を設置する。 ⑦ 保健学科で開講されている学科共通科目(社会保障・福祉論、保健解剖学、健康食品学など)の他学部学生への開放を進める。 ⑧ 学士課程で医療倫理・医療安全に関わる科目の設置を進める。 ⑨ クォーター制を導入する。 ⑩ アセスメント・ポリシーを策定する。 ⑪ アセスメント・ポリシーの下、授業アンケート及び卒業生・修了生アンケートを継続的に実施し、PDCAを回しながら、継続的な改善を進める。 ⑫ 専攻ごとにカリキュラムマップを作成し、学生への普及をはかる。 ⑬ コチュテル等の共同教育プログラムの導入を推進する。
(2) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置	
	① 英語授業に対応するためのFDを実施する。

大学院保健科学研究所・大学院保健科学院(医学部保健学科)
年報(平成30年4月～平成31年3月)

発行日：令和元年9月30日

発行責任者：大学院保健科学研究所長 齋藤 健

編集：点検・評価室 年報編集専門部会

連絡先：医学系事務部保健科学研究所事務課庶務担当

電話 011-706-3315

E-mail shomu@hs.hokudai.ac.jp

印刷会社名：柏楊印刷株式会社